

第七十九回 帝國議會

國民體力法中改正法律案外四件委員會議錄(速記)第六回

(七〇)

付託議案
○國民體力法中改正法律案(政府提出)
出(第四九號)
○國民健康保險法中改正法律案(政府提出)
出(第五一號)
○國民醫療法案(政府提出)(第五〇)
府提出
○戰時災害保護法案(政府提出)(第五三號)
簡易生命法中改正法律案(政府提出)
貴族院送付(第六八號)

昭和十七年一月三十日(金曜日)午前十時二
十六分開議
出席委員左ノ如シ

委員長 紫安新九郎君
理事中井 一夫君 理事中村 梅吉君
理事星島 二郎君 理事塚本 重藏君
理事西尾 末廣君

厚生省豫防局長 高野 六郎君
厚生省生活局長 川村 秀文君
厚生省勞働局長 持永 義夫君
厚生省職業局長 塩原時三郎君
厚生省書記官 平井 章君

厚生書記官 床次 德二君
厚生書記官 吉富 滋君
厚生書記官 高橋 敏雄君

保険院長官 樋貝 謐三君
保険院總務局長 歌田 千勝君
保険院社會保険局長 木村 清司君
保険院簡易保険局長 前田 穂君
委員長ノ許可ヲ得テ出席シタル者左ノ如シ

シマスガ、既ニ豫算總會等ニ於キマシテモ

セヌカラ、大臣ニ對シマスル質問ヲ後へ廻

ハシマシテ、他ノ方カラ質問ヲ致シマス

第一番ニ家族手當ノ問題ニ付テ御伺ヒ致

シマスガ、既ニ豫算總會等ニ於キマシテモ

言明ヲ得テ居ルノデアリマスカラ、深ク問

フ必要モナイト思ヒマスルケレドモ、今ノ

時局ニ於キマシテハ、勞働者ノ活動ニ俟ツ

コトガ非常ニ多イノデアリマシテ、此ノ大

東亞戰爭ヲ勝チ抜ク爲ニ、高度國防國家ヲ

完成スル爲ニ、彌ガ上ニモ生産力ノ増強ヲ

圖ラケレバナラヌコトハ言フマデモナイ

ノデアリマス、而モ資源ニ非常ナ制限ヲ

受ケテ居リ、物質的ニモ、更ニ又人の資源

ノ上ニ於テモ十分ナナイ今日ニ於キマシテ

ハ、一層ソレヲ痛感スルノデアリマス、ソ

コデ勞働者ノ生産性ヲ高メルト云フコトニ

厚生省ハ一段ノ御努力ヲ拂ハレナケレバナ

テ、而モ一面物價ト云フモノハ、低物價政

策ニテ政府ノ非常ナル努力ニモ拘ラズ、デリ

ス、而モ一面物價ト云フモノハ、低物價政

策ニテ政府ノ非常ナル努力ニモ拘ラズ、デリ

ス、斯様ニ致シマシテ勞働者ノ生活ト云フ

モノハ非常ニ窮屈ニナツテ居ルト云フコト

ハ御認メ下サツテ居ルト思フノデアリマス、

勿論私ハ到ル處ニテ言ツテ居ルノデアリマ

スガ、戰爭時ニ於テ低物價政策ヲ堅持シ

ニテ、斯ウ云フコトヲ言ツテ參リマシタ、

アル、斯ウ云フコトヲ言ツテ參リマシタ、

農民ガ一方ノ堤防トナリ、俸給生活者、勞働者ガ一方ノ堤防トナツテ、サウシテ此ノ低物價政策ノ流レガ崩レナイヤウニ、兩方居ルノデアリマス、併ジナガラ先年農民ニ對シマシテハ米一石ニ對スル五圓ノ生產獎勵金ト云フモノガ出サレ、今又官公吏ニ對シマシテハ家族手當ト云フモノガ相當高額ニ、而モ相當吾々ノ必要デナイト思ハレル高イ俸給ヲ取ツテ居ル分野ニマヂ是ガ支給セラレルト云フコトニナツテ參ツタノデアリマスガ、殘サレテ居ル者ハ所謂工場、鑛山ニ効ニ勤イテ居ル勞務者デアリマス、勿論政府ニ於キマシテモサウ云フ工場、鑛山ニ於テ家族手當ヲ支給スルコトヲ慾懃セラレテ居ルヤウデアリマスルケレドモ、最近神奈川縣下ノ縣當局ガ調査シタモノガ發表サレテ居リマスガ、ソレニ依リマスト神奈川縣下ノ工場ニ於キマシテ、極ヌテ少額ノ家族手當ヲ出しテ居ル工場ヲ調べテ見テモ、全縣下ノ工場ノ三分ノ一ニ達シテ居ラナイト云フコトガ、調査ノ結果トシテ報告セラレテ居リマス、之ヲ以テ知ルコトガ出來ルヤウニ、民間會社工場ニ於キマスル家族手當支給ノ状況ト云フモノハ極メテ寥々タルモノデアリマス、又其ノ程度ガ非常ニ低イノデアリマス、是デハ所謂均衡ヲ失スルコトニナリハシナイカト思フノデアリマス、是等ニ付テ賃金制度ト併セテドウ云フ風ニ御考ヘニナツテ居ルノデアリマセウカ、從來ノ所謂通り一遍ノ從漁程度デ終ラレルノデアリマスカ、全會社工場ニ及ブヤウニ強力ニ何等カノ施策ガ施サレルノデアルカ、出來レバ此ノ制度ヲ全體ニ及ブヤウニシテ貴

ヒタイト考ヘルノニアリマスガ、サウ云フ
コトガ事實上出來ルデアリマセウカ、御所
見ヲ御伺ヒシタイノデアリマス
○武井(晋)政府委員 勞務者ノ重要性ニ付
キマシテハ御話ノ通リト存ジマス、今日ノ
事態ニ於キマシテハ既ニ前線銃後ト云フヤ
ウナ區別ハナイノデアリマシテ、所謂銃後
ノ國民ト云フノハ、既ニ今日ニ於キマシテ
ハ第二線ノ豫備的兵力トモ言フベキモノト
存ジマス、而シテ只今御話ノ產業ニ從事ス
ル人達ハ、其ノ第二線兵力ノ中デモ先登ニ
立ツテ働くべき產業戰士デアル譯ニアリマ
ス、隨テ從來モ官公吏ニ對スル家族手當ノ
制度ニ準ジマシテ、是等ノ人達ニモ家族手
當ヲ支給シ得ル途ヲ講ジ、通牒等ヲ發シテ
之ヲ勸メテ居ツタコトハ御承知ノ通リデア
リマスガ、今回政府ニ於キマシテ官吏、公
吏、其ノ他官業從業員ニ對シテ、家族手當ヲ
支給スル範圍ヲ廣メルコト相成リマスニ
付キマシテハ、是ガ決定ノ曉ニ於キマシテ
ハ、同様ニ工場、礦山、其ノ他ニ働くテ居
ル所ノ是等貴重ナル勞務者ニ對シテモ、無
論家族手當ノ支給ニ關シテ適當ノ處置ヲ講
ズル必要ガアルト存ジテ居リマス、會社經
理統制令、賃金統制令等ノ定メアルコト
デアリマスガ、是ガ運用ニ付キマシテハ十
分政府ノ方針ト睨ミ合セマシテ、從來トモ
スレバ今御話ノヤウニ全般ニ行渡ラナイト
云フ嫌ヒモナイ譯デハナイコトデアリマ
スノデ、能ク此ノ趣旨ノ徹底ヲスルヤウニ
致シタイト思ヒマス、唯官公吏ト達ヒマ
シテ、會社工場等ハソレゞ支給ノ方法等
スノデ、官公吏ト同ジヤウニ一律ニ之ヲ強

○塚本(重)委員 政府トシテハ出来ルダケレドモ、能ク其ノ實情ニ應ジマシテ、政
府ノ方針ガ隅々マデ徹底スルヤウニ善處致
シダイト考ヘテ居リマス
是ガ全般的ニ普及スルコトヲ御希望ニナツ
テ居ルコトハ、是ハモウ間フマデモナイコ
トデアリマスケレドモ、儲チサウハ言ヒナ
ガラ、是マデト雖モ放任セラタ譯デハナ
ク、縣當局ヲ通ジテ色々ト懲懲ニ努メラレ
タコトヲ承知シテ居ルノデアリマス、ソレ
ニモ拘ラズ普及ノ状況ト云フモノハ概ネ知
ルガ如クデアリマス、此ノ上之ヲ本當ニ希
望スルガ如キ状態ニマデ普及セシメント云
フコトハ非常ナル努力ヲ要スルノデハナイ
カ、之ニハ何カ格別ナ處置ヲ講ゼラレル必
要ガアリハシナイカ、從來ノ通り一遍ノ通
牒等ニ依ル懲懲ナドデハ、逆モ是ガ普及ト
云フコトハ困難デハナカラウカ、殊ニ官公
吏ノ家族手當ノ高額ニナツテ來タノト對比
シマシテ、一層困難ナコトニナルノデハナ
イカト思フノデアリマス、ソレ等ニ付テ特
ニ斯ウ云フ方法ヲ考ヘテ居ルノダ、斯ウモス
ル考ヘデアルト云フヤウナ、ソレナラバ效
果ガ現ハレルダラウト云フヤウニ考ヘラレ
ルヤウナ、何カ具體的ナ對策ハアリマセヌ
カ
○武井(釋)政府委員 御趣旨御尤モト存ジ
マスガ、政府ノ方針ガ現ハレマシタノハツ
イ最近ノコトデアリマシテ、此ノ成立ノ曉
ニ於キマシテ工場、事業場等ニ對シテ之ヲ
勵奨スルコトニ相成リマスノデ、色々ト從
來ノ實績ニ徵シマシテ、ヤリ方ニ付テノ方
法等研究ハ致シテ居リマスガ、只今御尋ネ
ノヤウニ斯ウ云フ方法ヲ執ルト云フコトヲ

○塙本(重)委員 是非之ニハ農民、官公吏等ト睨ミ合セテ不均衡ノ状態ガ生ジナイヤウニ、一般ノ努力ヲ御願ヒシテ置ク次第デアリマス、サウ云フ風ニ御願ヒハシマスルケレドモ、私ハヤハリ中々政府ノ希望スルガ如ク、吾々ノ念願スルガ如ク、此ノ制度ガ全般ニ行渡ルコトヲ期待スルコトハ出来ナイノデヤナイト思ヒマス、ソコデ次ニ考ヘラルル問題ベ、ヤハリ今ノ資金、統制令、賃金制度ニ付テ厚生省ガ今一度検討シ直ス時期ニナツテ居ルノデハナイカト思フノデアリマス、勿論是ハ昨年ノ十月カラ所謂總マシテ、幾ラカ緩和シテ參ツタノデアリマス、併シナガラ總額賃金制ニセラレマシテ、其ノ範囲ニ於テ事業主ニ相當ノ自由ヲ許サレルヤウニナリマシタケレドモ、既ニ總額賃金ノ規正ヲ圖リナガラ全體ノ賃金ヲ高メ制ガ布カレル以前ニ於テ、サウ云フ制度ガ布カレマシテモ、其ノ工場ノ事業場ノ内部ニ於テ彼此レ差繰リヲシ合ウテ、サウシテ賃金ノ規正ヲ圖リナガラ全體ノ賃金ヲ高メテ行クト云フコトハ出來ナイ状態ニナツテ居リマシタ、幾ラ其ノ工場内部ニ於テ差繰合ヒヲセイト言ツテモ、一旦決メラレテ居ル定額給ト云モノヲ減額スルコトハ、是ハ事實上ノ問題トシテ出來ナイコトデアリマス、而モ總額ノ上ニ於テハ從來ノ實績カトノ餘地ガ既ニナクナツテ居ツタト思ハレラ見テ既ニ一定ノ限度ガアル、ソコデ低イ給料ノ人ヲ上ノ方ニ引上ゲテ行クト云フコマス、而モ總額ノ上ニ於テハ從來ノ實績カトノ餘地ガ既ニナクナツテ居ツタト思ハレル、折角サウ云フ制度ガ布カレマシタケレ

ドモ、結局ソレニ依ツテハドウニモナラナ
イト云フヤウナ事態ニ立至ツテ居ルト思フ
ノデアリマス、前ニモ申シマスルヤウニ、
私ハ彌ガ上ニモ今日勞務者ノ生産性ヲ向上
シテ勞務者ハ能ク勤勉ニ働イテ居リマス、
殊ニ大東亞戰爭勃發致シマシタ後ニ於ケル
勞務者ノ氣分ハ一變シテ居ルト云フコトヲ
私ハ見テ居ルノデアリマス、非常ニ私モ喜ン
デハ居リマス、併シ此ノ感激ヲ何時マデモ
續ケサシテ行クト云フコトノ爲ニハ、ソレ
等ノ人々ノ所謂生活上ニ付テモ、何等不安ノ
ナイヤウニシテヤラナケレバナラヌ、ソコ
デ家族手當ト云フ問題モ起ツテ來ルノデア
リマスガ、ソレニ依ツテ民間會社、工場ノ
其ノ問題ヲ緩和スルコトモ中々容易デハナ
イト云フコトニナルト、茲ニモウ一度賃金
制度ト云フモノヲ私ハ考へ直ス必要ガアルノ
デハナイカ、勞務者ノ生産性ヲ高メルト云フ
コトノ爲ニハ、一部ヤハリ出來高拂ヒト申
シマスカ、或ハ獎勵金制度ト申シマスカ、
其ノ能率ヲ上ゲタ者ニハ、上ゲタ能率ニ應
ジテ然ルベキ收入ガ殖ニテ來ルト云フ制度
ヲ執ラレルト云フコトガ、我ガ國ノ現下ノ
情勢ニ於テ最モ必要デハナイカト思ヒマス、
勿論三十年間工場生活ヲシテ參リマシタ私
ト致シマシテハ、所謂自由主義的ナ個人ノ
競争ニ任シテ居ル所ノ請負制度ハ弊害が多
イト思ヒマスノデ、サウ云フコトヲ希望ス
ル譯ハアリマセヌケレドモ、二十人ナリ
三十人ノ聯合制度ニ依ル請負、而モソレハ
嚴密ナル意味ノ請負デナク、獎勵ヲ加味シ
タ請負制度、サウ云フヤウナモノデ個人主
義ノ弊害ヲ除去シマシタ所ノ、全體一丸ト

ナツテ能率ノ増進ヲ圖リ得ルヤウナ新シイ
賃金制度方見出サレテ、ソレガ厚生省ノ賃
金委員會ニ於テ採用セラルル必要ガアルノ
デハナイカ、何カソコニ一生懸命働ケバ
シテ勤イタダケノ甲斐ハアルノダト云フ新シイ
希望ヲ持タセル、勿論大東亞戰爭ノ此ノ感
激ニ依ツテ勤イテ居ルノデアリマスルガ、
ソレダケニ期待スルコトハ出來ナイ、精
神ダケニ期待スルコトハ前金デハナイト思
フノデアリマス、精神方面ニ於テ感激ヲ覺
ニサセルト同時ニ、ヤハリ物質上ニ於テモ
時局ノ諸般ノ情勢ト對應シテ不安ナカラシ
ムルヤウニ政策ヲ執ツテ行カレルコトガ、
此ノ生産擴充、絕對至上命令デアル此ノ生
産增强ノ問題ニ付テ必要デハナイカ、今ノ
ヤウナ所謂移動制限令ガアリ、勞務者ハ動
シテ居ラナイ憾ミガナイ譯デハナイヤウデ
アリマス、而シテ此ノ賃金制ニ付キマシテ
ハ、其ノ當時ニ於テハ大體之ヲ以テ各方面
ノ事情ヲ十分ニ考慮シタコト考ヘテ定メ
タモノデハアリマスガ、今御話ノヤウニ此
ノ制度ノ爲ニ折角能力ヲ持テナガラ、又其
ノ能力ヲ思フ存分ニ發揮シタイト云フ熱意
モアリナガラ、之ニ報イラレル所ガナイト
致シマシタナラバ、此ノ點ニ付キマシテハ
十分考慮ヲ拂ハナケレバナラヌト存ジマス、
御指摘ニナリマシタ獎勵金制度ノ如キモノ
モ、從來ノヤウニ個人主義的ナモノニアリ
マシテハ如何カト存ジマスケレドモ、御話
ノヤウナ制度ニ思ヒヲ運ラシマスナラバ、
此ノ點ハ十分ニ考ヘナケレバナラヌコトト
思ヒマス、何分ニモ賃金制度ノ制定ハ施行
後日尙ホ淺イコトデアリマスノデ、是ガ實
施ノ結果ラマダ十分ニ見極メナナイ點ガアル
譯デアリマス、一面ニ於キマシテ今回地方
ニ本省ノ勞務官ヲ駐在セシマシテ地方ヲ勞
務ノ實情等ヲ十分ニ指導監督スル途モ開ク
コトニ相成ツテ居リマスノデ、是等ノ制度
ノ運用ニモ依リマシテ更ニ一層實情ヲ見極

シテ居ル次第デアリマス、仰セノ通り斯ク
ノ如キコトハ洵ニ麗ハシイコトデアリマス
ガ、之ヲ唯其ノ儘ニシテ置イテ感激ノミニ
留メテ之ニ報ユル所ガナケレバ、必ズ此ノ感
激モ何等カハ冷エテ來ルコトモ保シ難イ點
ガアルト存ジマス、仰セノ通り總額賃金制
ノコトハ昨年定メタコトト記憶シテ居リマ
スガ、未ダ其ノ實施ノ日數モ多ク經ツテ居
ラヌ關係上、此ノ制度ノ運用等ニ付キマシ
テモ、事業主乃至ハ勞務者等ニモ十分徹底
シテ居ラナイ憾ミガナイ譯デハナイヤウデ
アリマス、而シテ此ノ賃金制ニ付キマシテ
ハ、其ノ當時ニ於テハ大體之ヲ以テ各方面
ノ事情ヲ十分ニ考慮シタコト考ヘテ定メ
タモノデハアリマスガ、今御話ノヤウニ此
ノ制度ノ爲ニ折角能力ヲ持テナガラ、又其
ノ能力ヲ思フ存分ニ發揮シタイト云フ熱意
モアリナガラ、之ニ報イラレル所ガナイト
致シマシタナラバ、此ノ點ニ付キマシテハ
十分考慮ヲ拂ハナケレバナラヌト存ジマス、
御指摘ニナリマシタ獎勵金制度ノ如キモノ
モ、從來ノヤウニ個人主義的ナモノニアリ
マシテハ如何カト存ジマスケレドモ、御話
ノヤウナ制度ニ思ヒヲ運ラシマスナラバ、
此ノ點ハ十分ニ考ヘナケレバナラヌコトト
思ヒマス、何分ニモ賃金制度ノ制定ハ施行
後日尙ホ淺イコトデアリマスノデ、是ガ實
施ノ結果ラマダ十分ニ見極メナナイ點ガアル
譯デアリマス、一面ニ於キマシテ今回地方
ニ本省ノ勞務官ヲ駐在セシマシテ地方ヲ勞
務ノ實情等ヲ十分ニ指導監督スル途モ開ク
コトニ相成ツテ居リマスノデ、是等ノ制度
ノ運用ニモ依リマシテ更ニ一層實情ヲ見極

メ、賃金制度ニ於テ無理ノナイヤウニ、サ
ウシテ其ノ最低ヲ保障スルト共ニ、產業戰
士ガ進ンデ報國ノ赤誠ニ燃エテ思フ存分ニ
全能力ヲ發揮シ得ルヤウニ、一方ニ於テハ
賃金ソノ他ノ福利施設ニ於テ十分之ニ報イ
ルヤウナ方向ニ進ミタイト存ジテ居リマス
○塚本(重)委員 政府ハ今月新タニ日傭勞
働者、土木、運輸農業關係ニ至リマスマデ、
勞賃ノ最低最高ノ標準ヲ決メラレタノデア
リマス、洵ニ當然ノコト考ヘルノデアリ
マスガ、其ノ決メラレタ最高額或ハ標準額、
サウ云フモノト、從來ノ工場勞務者等ニ對
シマスル賃金ノ最低高等ノ標準、サウ云
フモノト對照シテ見マシテモ、是ハ私ノ見
ル所デアリマスケレドモ、ヤハリ最近ニ決
メラレタモノノ方ガ幾ラカ其ノ程度ガ高イ
ヤウニ考ヘラレルノデアリマス、斯ウ云フ
意味カラデモ、古ク決メラレタ賃金制度ト
云フモノニ、モウ一度改正ヲ加ヘラレル餘
地ハナイカト考ヘテ居ルノデアリマスガ、
サウ云フモノト、從來ノ工場勞務者等ニ對
シマスル賃金ノ最低高等ノ標準、サウ云
フモノニ、モウ一度改正ヲ加ヘラレル餘
地ハナイカト考ヘテ居ルノデアリマスガ、
此ノ點ハ十分ノ調査研究ヲ進メテ戴キタイ
ト思フノデアリマス
ソレカラモウ一ツハ、斯ウ云フ時局デア
リマスカラ、出來ルダケ人物經濟、殊ニ勞
力不足ノ時デアリマスカラ、此ノ點ニ深
イ留意ヲ勞務員ノ上ニ於テモ拂ツテ行
カナケレバナラヌノデアリマスガ、私ノ
見テ居リマスル所ニ依リマスト、甚ダ遺
憾デアリマスルケレドモ、從業者ノ移動防
止令ガ極メテ窮屈ニナツテ居ル、是ハ勿論
事業主側ノ意向ダケデハドウニモナラナ
イ、一面ニハ職業指導所長ノ意見ニ依ツテ、
雇主側ノ意見ニ拘ラズ從業員ノ移動ヲ認メ
ルト云フ制度モ布カレテ居ルノデアリマス
ケレドモ實際ニ於テサウ云フコトガ行ハレ

ルコトハナナイデアリマセウ、是ハ厚生省デ
モ能ク分ツテ居ル所デアリマス、サウ云フ
處置ヲ執ラレタコトハ殆ド私ハナイト思フ、
私ガ之ヲ捨ヘル場合ニ心配シテ居リマシ
タヤウニ、ヤハリ使用者側ニ於テ非常ニ
之ヲ悪用シテ居ルト云フコトヲ言ツテモ私
ハ差支ヘナイト思フノデアリマスガ、サウ
云フ結果ニ陥ツテ居ルト思フノデアリマス、
當然是ハ移動ヲ許シテヤラナケレバナラ
ヌ、他ノ工場ニ替ルヨトヲ許シテヤラナケ
レバナラヌ狀態ニ在ルコトガ萬々分ツテ居
リナガラ、尙且ソレニ證明書ヲ書ク事業主
ガナイ、是ハ全然ナイノデハアリマセヌケ
レドモ、書カナイ事業主ガ非常ニ多イ、ソ
レヲ職業指導所長ノ權限ニ依ツテ、移動ヲ
認メルト云フヤウナ處置ガ行ハレテ居ラヌ
異議ガナイト云フ證明書ヲドウシテモ書力
解雇ハ承認シテ居リナガラ、其ノ勞務者ニ
對シテ、他ノ工場ニ雇ハレルコトニ對スル
ノデアリマス、極端ナ例ヲ申シマスルト、
ツテ居ル自分ノ勞働力ヲ十分ニ發揮スル機
會ヲ得ナイ所ノ勞働者ハ、夥シイ數ニ上ツ
テ居ルノデアリマス、現ニ職場ニハサウ云
フ事情デ釘付ケニセラレテ居リマスケレド
モ、サウ云フ者ノ數ガ多イト云フコトハ、
ヤハリ其ノ職場全體ノ能率ヲ下ゲル所以デ
アリマス、其ノ人自身ノ能率ガ上ラナイバ
カリデハナイ、サウ云フ人ガ居レバ居ルダ
ケ、其ノ周圍ニ惡イ影響ヲ及ボシテ、工場
全體、職場全體ノ能率ヲ下ゲルト云フコト
モアリ得ルノデアリマス、是ハ此ノ制限令
ガ布カレテカラ後ノ勞働者ノ移動狀況ガ、恐

ラク職業指導所ノ方カラ報告ガ來テ居ルコ
トト思ヒマスカラ、其ノ報告ニ眼ヲ通シテ
戴キマスルナラバ、思ヒ半バニ過ギルモノ
ガアラウト思フノデアリマス、労働者ノ氣
分ナドハ中々アナタ方ニハ御分リニナラナ
イト思ヒマスケレドモ、朝起キテ工場ニ出
テ行ク前ニ、ツイ女房ガ言ツタ言葉、ガ氣ニ
入ラヌトカ云フヤウナコトニナル、職場ニ行
行キニクイ、途中デ何事カアツタト云フコ
トガアレバ、一日其ゾ人ノ能率ガ上ツテイ
カナイト云フヤウナコトニナル、職場ニ行
ツテ一寸上役ノ人ト何デモナイ一言二言交
ヘタコトガ氣ヲ腐ラシテ能率ヲ下ゲルト云
フヤウナコトガアル、サウ云フコトカラ致
シマシテツイ其ノ職場ト云フモノガドウモ
ヘタコトガ氣ヲ腐ラシテ能率ヲ下ゲルト云
面白クナイト云フヤウナコトニナツテ來、
ソレカラ段々溝ガ深クナツテ來タリナド致
シマシテ、ドウモ愉快ニ明朗ニ仕事ガ出來
ナイヤウニナツテ行クコトガアルノデアリ
マス、是ハ勞務管理ノ上ニ於テ大イニ心シ
ナケレバナラヌコトデアリマスガ、サウ云
フ微妙ナ勞働者氣質ト申シマスカ、氣分ヲ
非常ニ尊重シナケレバナラス是等ノ人々
ヲ、徒ニ從業者移動防止令ニ依ツテ釘付ケ
ニ今日ノヤウナ状態ニシテ置クト云フコト
ハ、國全體ト云フ上カラ見テ、人物經濟ノ
上カラ見テ非常ニ歎カハシイコトダト思フ
ノデアリマス、サウ云フ點ニ於テモ使用者
側ハ言フマデモナイコトデアリマスガ、職
業指導所ノ方ニ於テモ目ヲ開イテ貰ツテ、
サウシテ是ハ其處ニ置イテ置クヨリハ替ラ
シタ方ガ色々ノ意味カラ見テ適當ダト思ハ
レルモノガ譯山アルト思フ、サウ云フ者ハ
適材ヲ適所ニ使ウテ、思フ存分ニ其ノ能率
ヲ上げサセルト云フ方面ニモウ少シ活眼ヲ

○武井(群)政府委員 只今御述ベニナリマシタ人物經濟、適材適所、サウシテ其ノ能率ヲ思フ存分發揮サセルヤウニト云フ御趣旨カラ、色々ナ事例ヲ引イテノ御所見ヲ篤ト拜承致シタインデアリマシテ、其ノ御述べニナリマシタコトニ付キマシテハ全然同感デアリマシテ、其ノ通リト存ジマス、御話ニモナリマシタヤウニ勞務者ニ一種ノ勞務者氣質ガアルコトモ事實デアリマス、同時ニ又是等ノコトヲ能ク呑込ンデ思フヤウニ勵クヤウニシテ貴フ所ノ事業主、工場長等ガナケレバナラヌ譯デアリマス、而シテ是ガ監督指導ニ當ル所ノ役人モ亦實情ヲ深ク了解致シマシテ之ニ當ラナケレバナラヌ譯デアリマス、謂ハバ官廳モ事業主モ労務者モ、皆同目的ニ向ツテ心ラニシテ協調シテ參ラナケレバ、到底此ノ重大ナ御奉公ハ出來ナイコト思フノデアリマスガ、何分ニモ戰爭勃發後産業界ノ狀況ニハ急變化ラ來シタヤウナ關係ガアリマシテ、大多數ノ勞務者ハ眞面目ニヤツテ居ツタコトデアリマセウ、又事業主ノ大多數ハ國家ノ爲ニト云フコトヲ考ヘテ居ツタコトデハアリマセウ、ケレドモ、中ニハ轉々トシテ其ノ場所ヲ變ヘルト云フ者モナイ譯デハナク、其ノ甚シキ狀態ニ至リマスルト、之ヲ又誘フコトデアリマスノデ、法ヲ以テ移動ヲ防止スルト云フヤウナ規定モ設ケタ譯デアルト自ラ此ノ弊ガ甚シクナル、斯クテハ根本ノ產業能率ノ増進ト云フコトニモ大影響アル

存ジマス、凡ソ法令ヲ以テ人間ノナスコトヲ規定スル場合ニ於キマシテハ、兎角其ノ極端ヲ責メルノ餘リ、時ニハ窮屈ニナリ、又此ノ法ヲ運用スル者ニ深キ心構ヘガナイ場合ニ於キマシテハ、思ハザル結果ヲ來スコトガ絶無デナイコトハ凡ユル事業ニ於テ見ル所デアリマス、斯様ナ状況デアリマスルノコトデ、今日短日月ノ間ニ於キマシテ新シク置キマシタ制度ヲ運用セラレルニ當リマシテハ、御指摘ノヤウナ弊害ガ絶無デナカツタコトヲ私共ハ認ムル譯デアリマス、一方ニ於キマシテ職業指導所ノ如キモノモ極端ナ言葉ヲシテ職業指導所ノ如キモノモ極端ナ言葉ヲ申シマスナラバ、日ニシテ新シイ法令ナリ機構ヲ改革セネバナラズ、其ノ機構ヲ充ス所ノ人ハ從來餘リ此ノ方面ニ經験ノナイ者ヲモ入レナケレバナラニ實情モアリマシテ、急激ナ職業指導機構ノ増加ニ伴フ能率ノ上ニ於キマシテモ遺憾ノ點ガナイ譯デハアリマセヌ、不憤レナ者ガ一方ニ於キマシテ又此ノ混亂ノ時代ニ於テ、時々自分ノ利己ノ爲カラ發スル色々ナ事象ニ對シテ處スル場合ニ於キマシテハ、時ニ其ノ間無理ト思ハレルコトガアリ、非常識ト考ヘラレルマス、是ガ運用ニ當リマスル方面ニ於キマス、併シナガラ大體ニ於テ今日マデニ各種ノ勞務ニ關スル制度モ出揃ツタコトデアリマス、是ガ運用ニ當リマスル方面ニ於キマシテハ、職業指導者ニ付キマシテモ更ニ之ノ再教育ヲ施スト云フヤウナ組織モ出來タコトデアリマス、一方又産業報國運動等モ段々ト地ニ着イテ、是等工場主或ハ勞務者等ノ成ヲ致シテ是ガ運用ニ遺憾ナキヲ期スル譯デアリマス、一方又産業報國運動等モ段々

間ニ立ツテ、勞資一體、產業報國ノ實ヲ舉
ゲルコトニナルコトデアリマスルシ、又政
府モソレヲ期待致シマスノデ、是ヨリ段々
ト御期待ニ副フヤウニ向クコトトハ存ジマ
スガ、從來ノ實情、私ハ今御述ベニナリマ
シタコトニ付キマシテ敢テ抗辯ヲシヨウト
ハ思ヒマセス、今後益々各方面遺憾ナキヤ
ウニ致シタク考ヘテ居リマス、私モ永イ間
地方ニ居ツテ色々ナコトヲ體驗致シタノデ
アリマスガ、押竝ベテ申セバ、日ニ一ノ事
業主モ此ノ重大時局ニ目覺メテ居リ、勞務
者モ本當ニ産業戰士トシテノ誠ヲ現ハスヤ
ウニ進ミツツアルコトヲ私深ク喜ンデ居ル
ノデアリマス、此ノ美ハシニ光景ヲ益々現
實ニ現ハシ、全國何百万ノ産業人が同ジ方
向ニ向ツテ一體トナツテ進ムコトヲ衷心カ
ラ祈ツテ、自分ノ職司ヲ果サウト考ヘテ居
ル次第アリマス

○塚本(重)委員 此ノ法令ノ出來マシタ精

事ヲサスニシテモ其ノ場所ヲ變ヘテヤルト

カ、或ハ職ヲ轉ジサシテヤルトカ云フコト
ノ必要デアルコトガ能ク分ル場合ガアリマ
ス、サウ云フ場合ニハ一ツ運用ノ上ニ於テ

宜シキヲ得ルヤウニヤツテ戴キタイト思フ
ノデアリマス

次ニ私ハ健康保険法ノ改正ニ關シマシテ
順次質問ヲシタイト思フノデアリマスガ、
私ハ此ノ審議ニ當リマシテ非常ニ嬉シク感
じテ居リマス、ソレハ私ガ此ノ議院ニ籍ヲ
置クヤウニナリマシテカラ、私ノ主力ヲ社
會保険制度ノ整備擴充ニ專ラ注イデ參リマ
シタ、恐らく每議會此ノ方面ニ關シマスル
法案審議ヲ擔當シテ參ツタコトヲ私ハ光榮
トシテ居ルノデスガ、ココ數年ノ過去ヲ回
顧致シマシテ、私共ガ此ノ議會ニ籍ヲ有シ
マシテカラ、思ヘバ多年ノ希望デアリマシ
タ労働者養老年金制度モ布カレルヤウニナ
リ、或ハ國民健康保険法ガ生レ、船員健康
保険法ガ生レ、職員健康保険法ガ生レテ參
リマシテ、一應茲ニ社會保険制度ノ體系ヲ
確立スルニ至ツタノデアリマス、勿論其ノ
内容ニ付テ尙ホ將來改善ヲ加ヘテ行カナケ
レバナラナイモノガ多々アルコトハ言フマ
ジテモナインデアリマスケレドモ、一應兎ニ
角此ノ體系ガ整ヒマシタコトヲ見テ非常ニ
愉快ニ感ズルノデアリマス、而モ亦今議會
ニ於キマシテ職員健康保険法ト健康保険法
トヲ統合致シマシテ、更ニ其ノ内容ニ幾多
ニ於キマシテ職員健康保険法ト健康保険法
ト云フコトハ、吳々モ喜ビニ堪ヘナイ所デ
アリマス、健康保険法ノ改正ニ付キマシテ
ハ、每議會ヤカマシク私ガ主張シテ居リマ
ス、其ノ適用範囲ノ擴充ト云ヒ、或ハ醫療
ノ職域奉公ヲ思フ存分ニ成シ就ケル爲ニ
ハ、明朗ニ働く職場ヲ得タイト思ツテ、
其ノ職場ガ見付カラナイ者ガ相當アルノデ
アリマス、殊ニ自分ノ健康上ノ問題、或ハ
家庭ノ事情等々依リマシテ、當然同ジ仕

事ヲサスニシテモ其ノ場所ヲ變ヘテヤルト

カ、或ハ職ヲ轉ジサシテヤルトカ云フコト
ノ必要デアルコトガ能ク分ル場合ガアリマ
ス、サウ云フ場合ニハ一ツ運用ノ上ニ於テ

宜シキヲ得ルヤウニヤツテ戴キタイト思フ
ノデアリマス

○塚本(重)委員　ソレハ能ク分ルノデアリ
マス、溢療溢診ヲ防止スルト云フコトカラ
斯ウ云フコトヲ編ミ出サレタト云フコトハ
能ク分ルノデアリマス、更ニソレト同時ニ
ヤハリ保険經濟ヲ安固ニスル、サウシテ其
ノ適用ノ範圍ヲ廣メ、給付ノ内容ヲ改善シ
テ行クト云フ上ニモ役立タセヨウト云フ二
ツヲ狙ハレテ居ルコトハ能ク分ツテ居リマ
スルガ、一體之ニ依ル金バ一箇年ドノ位ノ
總額ニナルト見テ居ラレルカ、ソレガ從來
ノ被保險者ノ掛ケマスル保險料ノ何割位マ
デニ達スルノデアリマスカ

○木村(清)政府委員　數字ハ後デ申上ゲマ
ス、其ノ一部負擔ノ方デ、實際ノ一部負擔
ノ費用ノ外ニ受診率ノ減少ヲ見テ平均一割
五分乃至二割程度、只今申上ゲマシタ一部
負擔ノ額ハ現實ノ費用ノ外ニ、一部負擔ノ
最モエライ所ノ溢療、溢診ヲ防止スル意味
ノモノヲ含ンデ受診率ノ減少ヲモ見込ンデ
居リマス

○塚本(重)委員　ソレハ能ク分ルノデアリ
マス、溢療溢診ヲ防止スルト云フコトカラ
斯ウ云フコトヲ編ミ出サレタト云フコトハ
能ク分ルノデアリマス、更ニソレト同時ニ
ヤハリ保険經濟ヲ安固ニスル、サウシテ其
ノ適用ノ範圍ヲ廣メ、給付ノ内容ヲ改善シ
テ行クト云フ上ニモ役立タセヨウト云フ二
ツヲ狙ハレテ居ルコトハ能ク分ツテ居リマ
スルガ、一體之ニ依ル金バ一箇年ドノ位ノ
總額ニナルト見テ居ラレルカ、ソレガ從來
ノ被保險者ノ掛ケマスル保險料ノ何割位マ
デニ達スルノデアリマスカ

○木村(清)政府委員　一部負擔ニ依ル減ヲ
被保險者一人四圓二十三錢七厘ト見テ居リ
マス、ソレデ從來ハ現行ノ保險料ハ積立金
藥剤一日劑五錢、注射ノ處置ニ付テハ一圓
十錢、齒科ノ方デハ初診ガ五錢、治療一
回五錢、充填一回十五錢補綴一回五十錢、
回五錢、充填一回十五錢補綴一回五十錢、
斯ウ云フ金ヲ被保險者ガ醫者ニ掛ツタ其ノ
時ニ釀出サセルト云フコトニナツタノデア
リマスガ、之ニ依ツテ大體釀出サレル額ハ
ドレ位ニナルモノニアリマスカ、更ニソレ
ト關聯シテ、其ノ額ガ從來ノ被保險者ノ保
險料ニ比べテ何割程度ニナリマスカ

○塚本(重)委員 大體保険料ノ割合カラ行
クト二割程度、之ニ依ツテ收入ガ殖エテ行
クコトが能ク分リマシタ、ソレダケ被保険
者ノ負擔が増シテ來タコトニナリマスガ、
從來保険料ノ建前ハ事業主ト被保険者トノ
折半負擔ト云フコトガ原則ニナツテ居リマ
ス、被保健者ノ負擔スペキ保健料額ヘ一日三
付テ標準報酬日額ノ百分ノ三ヲ超エテハナ
ラナイ、其ノ超過シタ部分ニ付テハ事業主
ガ之ヲ負擔スルト云フコトガ從來ノ保険ノ
建前デアル、所ガ斯ウ云フヤウニ被保健者
ノ患者ニ一部ヲ負擔サセルコトニ依ツテ、
此ノ原則ハ崩レテシマツタコトニナルト思
ヒマス、兎ニ角被保険者ノ方ダケガ從來ニ
業主ノ負擔ヲモウ少し高メル、更ニ又國庫
ノ負擔金ヲ高メルト云フコトハ御考慮ニナ
ツテ居ラナイノデアリマセウカ

○木村(清)政府委員 此ノ度ノ改正ハソレ
ニ依ツテ得タル財源ト、並ニ保険料ヲ増スコトニ
ニ依リマシテ家族給付ヲヤリタイ、或ル程度簡
底シタ家族給付ヲヤリタイ、理想カラ申シマシテ事
ト、行クノヘ療養費ニ付テ、被保険者並トヨリ
云フ程マヂハ行カナクテモ、被保険者ニ或
ル程度近イヤウナ家族給付ヲシタイト云フ
ノガ理想デアリマスガ、差向ハ相當進ンダ
シテハ事業主ガ負擔スルト云フコトニナツ
ス場合ニハ、相變ラズ從來通り折半主義テ
行キタイ、尙ホ制限ノ超過シタ分ニ付キマ
ケレドモ、結核ノ給付ノ擴充ヲヤリタイ、

斯ウ彼此レ考ヘテ見マスト、本來事業主ノ
事業管理上ハ、直接關係ノナイコトニ對シ
部負擔ガ餘リ高額ニ失シテハイカスト思
ヒマスガ、此ノ程度ノ一部負擔ニ依ル
保險料ニ依リマシテ、理論上御説ノヤウニ
事業主ト被保險者トノ折半負擔ノ原則ハ壊
レテ居リマスケレドモ、給付ノ内容ガ家族
給付ト云フ事業管理ニハ直接ノ關係ノナイ
事項ニ對シマシテ、事業主ガ殖エタ分ニ付
テハヤハリ半分負擔スルト云フコトニ依ツ
テ、私ハ勞働者全體カラ見マスト、非常ニ
有利デハナイカト思ヒマス、是ハヤハリ叶
ラ申シマスト、獨身ノ勞務者ガ比較的殖エ
家族ノ多イ、子供ノ多イ勞務者ハ利益ヲ受
ケルト云フコトニナリマス、
ノ委員會等ニ於テ論議サレテ居リマス人口
政策、家族制度ト云フヤウナ全般カラ見
マシテ、良イ結果ヲ齎スト云フコトニナル
ノデハナイカト思ヒマス

同時ニ又事業主ノ方ノ負擔モ殖ヤシシテ行クノ
ノガ當然デハナカラウカ、ソレデ直接其ノ
事業ニハ携ハツテ居ラナイ家族ノ給付ヲ殖
ヤシタノデアリマスガ、是ハモノノ考へヤ
ウデ議論ニナリマスガ、其ノ從業員ノ家族
ノ中ニ病人ガアルト云フヤウチコトハ、延
レバ労働者ノ能率ト云フモノハ高マツテ來
イテヤハリ生産能率ノ上ニ重大ナル影響ヲ
齎スノデアツテ、家庭全體ガ朗ラカデナケ
リマス、デアリマスカラヤハリ家族ノ治療
ナイカラ、家族ノ疾病、療養、之ヲバ事業
主ノ生産ニ關係ハナイノダト云フヤウナモ
ノノ見方ト云フモノハドウカト思フノデア
リマス、デアリマスカラヤハリ家族ノ治療
デアリマシテモ、國ナリ事業主ナリノ全體
ノ然ルベキ適當ナル負擔ニ於テヤツテ行ク
ト云フコトガ望マシトイ思フノデアリマス、
今度ノ改正デ家族給付ガ十圓カラ三圓ニ引
下ゲラレタト云フコトハ、非常ニ嬉シイノ
デアリマスガ、其ノ費用ヲ被保險者ノ側ノ
一部負擔ニ依ツテ賄フト云フ建前、被保險
者側ノ一方的負擔ニ於テソレヲ穴埋メラシ
テ行クト云フ建前ヲ執ラレタコトハ甚ダ遺
憾デアルト思ヒマス、私共ハ從來カラ事業
主ノ負擔ヲモツト殖ヤシテ貰ヒタイト云フ
コトヲ絶エズ申シテ來テ居ルノデアリマス
ガ、此ノ健康保險法ガ出來タ時ニモ言ツテ
居ルヤウニ、此ノ保険ガ出來テ、工場法ニ
依ツテ從來ナラバ事業主ガ負擔シナケレバ
ナラナカツタ負擔ト云フモノハ相當減額サ
レテ居ルノデアリマス、業務上ノ負傷疾病
ハ健康保險法ガ出來ルマデハ、工場法ニ依
ツテ事業主ノ一方的負擔デアツタ、ソレガ
健康保險法ガ出來マシテ、從業員側トノ折
半負擔ニナツテ居ルノデアリマスカラ、ソ
レダケ事業主ハオ蔭ヲ蒙ツテ居ル譯デアリ

マス、損得ヲ何等言フ譯デハアリマセヌケレドモ、サウ云フ意味合ニ於テモ、事業主ノ負擔ヲモツト高メテモ然ルベキダト云フトヲ甚ダ遺憾ニ思フノデアリマス、是ハ此處マデナツテ來タモノデアリマスカラ、ソレガノ實績ヲ見テ、一ツ改善ヲシテ行クヤウニ今カラ御願ヒシテ置クノデアリマス、唯一ツ心配スルノハ、此ノ健康保険法ガ出來マシタノハ、出來ルダケ病人ヲ早目ニ醫者ニ掛け、早ク労働力ヲ回復スル、早期ニ治療ヲ受ケサセテ出來ルダケ早ク回復サセルト云フコトガ狙ヒ所デアツタと思フ、ソレシナイカト云フコトヲ恐レルノデアリマスガ、其ノ點ニ付テノ御意見ヲ伺ヒタイ

○木村(清)政府委員 一部負擔ニ依ル早期診斷、早期治療ノ障碍ト云フ點ニ付テハ、

私共モ相當心配ト申シマスカ、考慮シテ居リマス、御手許ニアル御話ノヤウナ一部負擔モマダ假案デゴザイマシテ、能ク皆サン

方ノ一般ノ御意見ヲ聽キマシタ上デ、最後ノ案ヲ決定シタイト思ツテ居リマス、出來

ル限リサウ云フ弊害ヲ除去シツツ、一部負

擔制度ノ良イ所ヲ貫徹シタイ、斯ウ考ヘテ

居ルノデアリマス、尙ホ御意見等ニ依リマシテ、又實施ノ狀況等ニ依リマシテ、一部

負擔ノ制度其ノモノハ無論變更ノ意思ハ毛

頭アリマセヌケレドモ、内容ニ付テハ適當

ノ方法ヲ今現ニ考ヘテ居リマスシ、又御意

見ニ依リマシテヨリ良イ案ニ致シタイト思

ヒマス

○塚本(重)委員 是ハ色々質問シテ居ル

ト時間ガ長ク掛リマスカラ、簡単ニ致シマ

スガ、勿論此ノ一部負擔ハ業務上ニ困ル負

擔疾病等ニ對シテハ取ラナイコトガ明カニ

セラレテ居リマスガ、其ノ點ニ懸念ノナイ

ヤウニスレバ宜イ譯デアリマスカラ、被保

險者ニシテ醫者カラ休業ヲ命ゼラレテ居ル

業務上ノ負擔疾病デハアリマセヌケレドモ、

アルトシマスナラバ、其ノ點ニ懸念ノナイ

治療上醫者ガ休業ヲ命ジテ居ルト云フ程度

ノモノハドウカ、業務上デ醫者ニ掛ラナケ

レバナラヌ者ガ掛ツテ居ルト云フノハ言ハ

ズシテ無料デアリマスガ、サウ云フ者ノ一

部負擔ヲ免除スルト云フコトニ付テ御意見

ハ如何デアリマスカ

○木村(清)政府委員 大キナ保険制度ヲ運用シ

テ居ルモノデスカラ、大キナ利益ノ爲ニ小

サイ弊害ガアルコトハ、或ル時ハ已ムヲ得

ナインデハナイカト思ツテ居リマス、一部

負擔ノ免除ノ問題ハ、溢診溢療ヲ防グト云

フ意味ニ於テハ場合ニ依ルト免除シテモ宜

ト云フコトハ、私トシマシテハ考ヘ直シテ

戴キタイト思フノデアリマス、十分ニ一ツ御

考ヘヲ願ツテ戴キタイト思ヒマス、ソレカラ

ト云モ御話ニアツタノデアリマスガ、結核

ニ對スル給付ノ援助ニ付テハ、從來私共ハ

是ハ三年マデシテ貴ヒタイト云フコトヲ御

トハ、其ノ内容ハ勅令ヲ以テ定メルト云フ

ノハ已ムヲ得ナイモノデハナイカ、又他ノ

方法ニ依ツテ、出來得ル限り健康診斷ノ勵

行トカ云フ方面ニ依ツテ之ヲ除去スルコト

ニ努メマシテ、保険制度ト云フ現業ヲヤ

方法ニ依ツテ、出來得ル限り健康診斷ノ勵

行トカ云フ方面ニ依ツテ之ヲ除去スルコト

一箇月三十日三十圓ニ満タザルモノハ三十
圓ト云フコトニナツテ居ルノヲ、六十日六
十圓ニ満タザルモノハ六十圓ト云フ風ニ改
正シテ貰ヒタイト云フノガ、從來ノ私共ノ
主張デアリマス、今度ノ改正案デハ此ノ點
モ決定ヲ見テ居ラナイヤウニ見ラレルノデ
スガ、ドウナツテ居リマスカ
○木村(清)政府委員 其ノ點ハ左様ノ意
思
ハアリマセヌ

○木村(清)政府委員 家族給付ニ付キマシテハ現行ノ十圓ヲ三圓ニ下ゲルト云フノデヤアリマセヌ、現行ノ十圓ト云フノハ入院トカ、出産、一ツノモノニ付キマシテ十圓、今度ハ一ツノ病氣ニ付キマシテ三圓ト云フコトニシタイト云フノデアリマスカラ、範圍八十圓ノモノヲ三圓ニ下ゲルノトハ格段ノ違ヒデアル、ソレカラ組合員ニ付テハ私其ハ保険ノ手續上、殊ニ政府管掌デゴザイマスガ、政府管掌ノ保険手續上圓滑ニ行クナラバ、家族給付ヲドノ病氣デモ半額ニ見テヤリタイトイ考ヘヲ持ツテ居リマスガ、唯ソレニ依テ非常ニ事務ガ殖エルト云フコトヲ多少懸念シテ居ルノデアリマス、其ノ事務的ナ者、ヘ方カラ見テ三圓ト云フ限度ヲ一應置イテ見タ、出來レバ家族ノモノニ付キマシテハ半額補給ト云フコトニ致スノガ理想デヤナカト考ヘテ居リマス、其ノ點ハ尙ほ能ク研究シマシテ、出來得レバドノ小サイ病氣ニ付キマシテモ、半額健康保険カラ家族給付ヲシテヤルト云フ方法ニ致シタイト思ツテ居リマスガ、是ハ保険ノ實際ノ手續ヲ能ク考ヘマシテ決定致シタイト思ヒマス、ソレカラ保険組合ニ付キマシテハ政府ガ行フ程度ノモノハ最小限度ヤラセタイ、是ハ必ずヤル、ソレデ保険組合ガ自己診療機關ヲ有スルヤウナ場合ニ於キマシテハ、家族診療ニ付キマシテ三圓ト云フヤウナ制度ヲ置カナイ方ガ、組合トシテヤハリ宜クハナイデハ給付ト云フコトニ付テハ、半額ト云フ標準ヲ大體一定シタイト考ヘテ居リマスハ自由ニスル、併シナガラヤハリ只今ノ所カト云フヤウナコトヲ考ヘマシテ、三圓ト云フ限度ヲ組合ニ付キマシテハ少クトモ是

ツテ居リマス、組合管掌ノ場合ニ政府ノ決
メテ居ル三圓ノ限度以上ハ同ジニ實行スル
ヤウニ是非トモ御願ヒ致シタイ、ソレ以下
デモヤハリ半額給付デヤツテ差支ヘナイ、
斯ウ云フ意味ニ解釋シテ宜シウゴザイマス
カ

○木村(清)政府委員 共ノ通りデアリマス
○西尾委員長代理 塚本君、一寸御注意シ
マスガ、一時間過ギテ居リマスガ、アナタ
ノ質問ハ重要デアリマスカラ、一ツモ残ス
コトノナイヤウニ簡單ニ質問出來ルヤウニ
御注意ヲ願ヒマス

○塚本(重)委員 有難ウデゴザイマス、委
員長ノ御心ヲ體シテ、以下簡單ニ致シマス
——次ハ等級デアリマスガ、標準報酬ノ等
級ト、標準報酬ノ日額デアリマス、是ガ健
康保険モ又從來ノ職員健康保険モ同様デアリ
リマスガ、千二百圓マデニナツテ居ツタノマ
ガ千八百圓マデニナツテ、千八百圓以上ハ
任意加入ト云フコトニ改メラレタノデアリ
マスカラ、當然標準報酬ノ等級、標準報酬
ノ日額ト云フモノモ變ツテ來ナケレバナラ
スト思フノデアリマスガ、成程變ヘテハア
リマスガ、之ヲ見マスト從來ノ健康保険ニ
於テハ十六級ニ分ケテアツタモノガ、一級
減ラシテ十五級ニ決メラレテ居ル、サウ云
フコトニナルト標準報酬ノ日額ノ割當ト云
フモノハ非常ニ變ツテ來ルト思ヒマスガ、
此ノ内容ヲ一つ御示シヲ願ヒタイ、
○木村(清)政府委員 標準報酬ニ付キマシ
テハ現在ノ職員健康保険ト全然同ジニシタ
五級ニ定メルト云フコトニナツテ居リマス
イト考ヘテ居リマス

○木村(清)政府委員 現在ノ職員健康保険
ト同ジニスルト申シマシタノハ、考へ方ヲ
同ジニスルト云フ意味デアリマス、月額十圓
カラ百圓マデガ十級、ソレカラ最高百五十
圓マデ行キマスカラ十圓刻ミデ五級、合ハ
セテ十五級マデアルノデアリマス

○塚本(重)委員 現在ノ職員健康保険ガ十
級制度、ソレガ千二百圓カラ千八百圓ニナ
ツタカラ、是ト同ジ率デ十五級マデアルト
云ブコトハ能ク分リマシタ、大體健康保険
組合法ノ改正ニ付テノ質問ハ其ノ程度デ打
切リマシテ、次ニ國民健康保険法ノ改正ニ
付テ一點ダケ御尋ネ致シマス

ソレハ御示シニナリマシタ資料ニ依リマ
シテモ、特別國民健康保険組合が非常ニ少
イノデアリマス、勿論是ハ農村、漁村、山
村ト云フヤウナ所ニ普及サセヨウト云フ目
的デオ作リニナツタノデアリマスケレドモ、
同時ニ又都市ニ於テモ出來ルダケ之ヲ普及
セシムル意味合ニ於テ、特別國民健康保険
組合ヲ作り得ル餘地ヲ残サレテ居ツタノデ
アリマス、所ガ今マデニ出來テ居リマスモ
ノハ僅カニ二十組合デ極メテ寥々タルモノ
デアリマス、即チ神奈川縣ノ三ツ、和歌山
縣ノ二ツヲ除イテ、アトハ兵庫、群馬、奈
良、埼玉、愛知、鳥取、東京、三重、德島
新潟、京都、高知、岐阜、大阪等各、一組
合ヅツシカナイ現狀デアリマシテ、甚ダ遺
憾ト思フノデアリマスガ、今度ノ改正ニ依
リマシテ今マデ六百万人程度ノ健康保険組
合加入者ヲ、一擧ニ千何百万人カヲ殖ヤサ
ウト云フ大計畫ヲ立テラレタノデアリマス
ガ、ソレト併行致シマシテ都市ニ於ケル特
別國民健康保険組合ノ成立ト云フコトノ上
ガ、是ハ如何デスカ

ニ一段ト御努力ヲ拂ツテ戴キタイト思ヒマ
ハ、口刃ミダラニ・・・

○木村(清)政府委員 其ノ趣旨デ從來普通國民健康保険組合ニ強制加入ノ制度ガアツタノデスガ、今回ハ特別國民健康保険組合制度ニ付テモ強制加入ノ制度ヲ設ケマシテ、唯運用ト致シマシテハ、今度ノ千三百七十五万人分殖エテ居リマスル豫算ハ、大體農村方面ニ集中スルノデアリマスガ、此ノ方面ガ一段落付キマシタ曉ハ、將來はト併行致シマシテ都市ニ於ケル此ノ種ノ組合ニ付キマシテハ、都市ニ於テモ尙ホ普通國民健康保険組合ノ設立ヲ勧奨シ努力シテ行キタイト思ヒマス

○塚本(重)委員 時間ガ餘リアリマセヌカラ此ノ程度ニ止メテ置キマシテ、次ニ産業結核ノ對策ニ付テ質問シタインデアリマス、資料トシテ戴キマシタモノニ依ツテ見マシテモ、産業結核ノ方ハ非常ニ重大デアリマス、職業別結核患者ノ調ニ依ツテ見マスレバ、職業ノ中デモ工業方面ニ肺結核ガ最モ多イ、工業方面ニ多イ結核ノ中ニ於テモ、機械器具工場ガ最モ高率デアルト云フコトガ資料ニ依ツテ明カニセラレテ居リマス、此ノ事ハ私ハ非常ニ關心ヲ持ツテ居ルノデアリマスガ、此ノ時局下ニ於テ重工業ノ重要性ト云フモノハ言フマデモナイ、而モ此ノ産業結核ガサウ云フ方面ニ於テ特ニ多イノデアリマスガ、此ノ徵用セラレタ人達ナヌ問題ダト思フノデアリマス、事變下所謂徵用セラレテ居ル労働者ノ數ハ非常ニ多イノナ数ニ達シテ居ルコトヲ承知シテ居リマス、其ノ非常ニ多ク歸郷致シマス者ノ中デ、其

ノ約七割ガ結核デアルト云フコトヲ聞イテ居ルノデアリマス、是ハ非常ニ重大ナ問題デアリマス、工場ニ勞務動員ヲ致シマス場合ニハ、主トシテ青少年工ヲ動員シテ居ルノデアリマス、動員セラレテ參リマスト今日ノ工場設備ノ不備不完全、ソレカラ寄宿部屋ノ中ニ多數ノ者ガ難居シテ居ルト云フヤウナ住居ノ不完全、ソレカラ此ノ委員會合ニハ、下宿ノ不備不完全、或ハ緣故ヲ迪ツテ來マス者ニ於キマシテモ、非常ニ小サナカラモウ一ツ一番大キナコトハ、何ト申シマシテモ過勞デアリマス、サウ云フコトカラ致シマシテ、此ノ動員セラレタ青少年工ガ非常ニ多ク結核ニ冒サレテ居ル、實ニ寒心ニ堪ヘナインデアリマス、私共ハ工場ノ中ニ永イ間一緒ニ生活ヲシテ居ツテ、醫者デナクテモ此ノ事情ガ能ク分リマス、動員セラレテ來タ時ニハ林檎ノヤウナ顔色ラシンデ居ル、ソレガ半年經タナイ中ニ顔色ガ青クナツテ來ル、ソノ中デ特ニ顔色ノ變ツテ行ク者ヲ見テ居ルト、アノ人ハ冒サレタト云フコトガ一目デ分ル、私共ガオ前ハ郷里ヘ歸ツタラドウカ、外ニ職業ヲ變ヘタラドウカト注意シタコトモアリマスガ、ソレハ家庭ノ事情、其ノ他ニ依ツテ中々サウ簡単ニ職業ノ選擇ガ出來ナイト云フコトデ、其虐ト思ヒマス、勞働管理ノ職ニアル者ハ能クト云フヤウナ者ヲマザヽト私ハ工場ノ由增進行ツテ、遂ニ天命ヲ全ウスルコトガ出デ見テ居リマス、是ハ實ニ可哀想ナコトダベ

分ルコトト思フガ、早目ニ轉職サセルトカ、或ハ郷里ヘ歸ストカ或ハ早期療養ト云フヤウナコトニ付テ、モツト親切ニヤツテヤルト云フコトガ一切行ハレテ居ラヌ、是ハ甚ダ遺憾ナ點デアリマス、大工場ノ一部ノ所ニ於テハサウ云フ施設ガナインデハナイ、ヤツテ居ルモノモアツテ、相當見ルベキ成績ヲ舉ゲテ居ルモノモアリマスガ、大體ニ於テサウ云フコトハ無關心ナ狀態ニアルト言ツテ宜イト思フノデアリマス、是ハ洵ニ遺憾ナコトデアリマス、此ノ前斯ウ云フ統計ガ發表セテレテ居リマス、勞働科學研究所ノ資料調査ノ結果ニ依ルト、是ハ某重工業ノ一ツノ工場ニ付テアリマスガ、結構ニ罹ツテ解職セラレテ郷里ヘ歸ツタ者三百五十五名ニ付テ調査シテ見マシタ所ガ、其ノ中二百六十六人が既ニ死亡シテ居ル、而モ其ノ死亡ノ状況ヲ見マスト、歸郷シテ半年未満デ死亡シタ者ガ百三十一名、二年未満デ死亡シタ者ガ五十七名、三年經タズシテ死亡シタ者ガ四十三名、斯ウ云フ風ニ二三年ノ間ニ結核デ歸郷シタ三百七十五名ノ中ノ二百六十六人ハ死亡シテ居ルト云フヤウナ驚クベキ調査ノ結果ガ勞働科學研究所カラ發表セラレテ居ル、是ハ實ニ寒心スベキ事柄ダト思ヒマス、私ハ斯ウ云フ點ニ於テモ最初申述ベタヤウニ、勞務勤員ヲヤツタ場合ニ本當ニ適材ヲ適所ニ使フト云フコトガ更ニ必要デヤナイカト思ヒマス、體力管理法モ出テ居リマシテ、體力手帳制度ガ布カレテ居ルノデアリマスガ、是ハ赤ン坊ノ時カラズツト體力手帳ノ必要ガアル、從來ノ體力手帳ノ成績ニ依ツテ、サウ無茶苦茶ニ、アレハ遊シニデ居ルカラト云フコトデ勤員シナイヤウニ、體力ニ相應スル所ノ仕事ヲ授

ケルヤウニシテヤラナケレバナラヌ、是ハ
労務管理ノ方面デアリマス、私ハ出来ル
工場ノ中ニ勤員セラレタ者モ、工場ノ都
合ニ依ツテ其ノ體力ノ如何ニ拘ラズ、人
員配置ヲスル現状デアリマス、私ハ出来ル
ナラサウ云フ人達ニ色々ナ職業ヲ一應ハヤ
ラセテ見ル、旋盤モ使ハセテ見レバ「ミー
リング」モ使ハセテ見ル或ハ「ボール」盤モ
ヤラセテ見レバ仕上等色々ナシテ見ル、
サウ云フ風ニシテ其ノ中デ何ヲ希望スルカ
ト云フ本人ノ希望スル所ト本人ノ體力トヲ
考ヘ合ハセテ、適當ナ所デ仕事ヲサセルト
云フ親切サガアツテ宜イノヂヤナイカト思
フガ、サウ云フコトガ行ハレテ居ラヌ、唯
勤員セラレテ來タ時ノ事情ニ依ツテ無茶苦
茶ニ人員ヲ配置セラレテ居ルト云フヤウナ
狀態デアツテ、甚ダ遺憾デアルト思ヒマス
ガ、斯ウ云フ產業結核ニ對シテ特別ナ何力
ノ御考慮ガアツテ然ルベキダト思フ、幸セ
ニ今般醫療團ガ出來テ八万ノ結核病床ヲ五
箇年ノ間ニ作ラレルト云フコトハ洵ニ結構
デアリマスガ、此ノ中ニ產業結核對策トシ
テノ特別ノ優先的ナ病床ヲ持タセルト云フ
コトガ絶対必要デアルト思ヒマス、唯病床
ヲ此ノ中ニ考ヘテ置クダケデナシニ、全般
ニ瓦ツテ此ノ點ニハ深イ留意ヲシテ戴キタ
イト思フ、是ハ住宅政策ニモ及バナケレバ
ナラヌコトデアルシ、國民榮養食ノ問題モ
アリマセウ、色々ノ問題ニ付テ考へナケレ
バナリマセヌガ、此ノ點ニ對シテ何等カ特
別ナ考慮ガ拂ハレテ居リマセウカ

アリマシテ、折角ノ産業戦士、殊ニ將來アル
若人ガ途中ニ於テ空シク挫折スルト云フコ
トハ、御國ノ爲ニモ洵ニ歎カハシイコトデ
アリマスノデ、根本的ニ左様ナコトノナイ
ヤウニシナケレバナラスト云フコトニ付テ
ハ御話ノ通リデアリマス、色々ト御話ニナ
リマシタヤウニ、何分ニモ急激ニ短時日ノ
間ニ勞務動員等ヲ致シ、徵用ニ依ツテ人ヲ
集メル必要ニ迫ラレテ居ル譯デアリマスノ
デ、ソレ等ノ動員ニ付テ健康狀態ヲ精査ス
ル譯ニ参ラナイ、其ノ餘裕ノナイ場合モア
ル譯デアリマス、况ヤ其ノ體格トソレニ適
當スル職場トノ關係等ヲ、一々綿密ニ検査
シテ參ル餘裕ノナイ場合ガ屢々アルコトヲ
先ヅ御諒解ヲ願ヒタインデアリマス、斯様
ナ狀況デアリマスノデ、當然必要デアル所
ノ住宅ノ如キモノニ付テモ、思フヤウニ參
ラナイト云フ實情モアリマシテ、御話ノヤ
ウナコトモアル譯デアルト存ジマス、徵用
ニ付キマシテハ、出來得ル限り此ノ徵用ニ
必要ナル住宅ノ設備等ヲ新設、若シクハ借
用、其ノ他ニ依ツテ設備スルヤウニ色々勧
メテ居リ、時ニハ條件ヲ附スルト云フヤウ
ナコトヲ致シテ居ル譯デアリマスガ、新設
ニ付テハ資材ノ關係等モアツテ思フヤウニ
必要ナル住宅ガ得ラレナイコトモ、是亦實
情ヲ御諒察願ヒタイ譯デアリマス、更ニ文
一度工場ニ入ツタ者ノ作業等ガ、仕事ヲ急
グト云フヤウナ關係上、今御話ノヤウナ或
ハ旋盤、或ハ「ミーリング」其ノ他ソレヽヽ
試験ラシテ適當ナ向ヘ廻ハスト云フヤウナ
コトモヤツテ居ラヌ譯デモナインデアリマ
スガ、十分ニ科學的ニヤリ得ナイコトモ御
話ノ通リデアリマス、ソレガ爲ニ折角産業
戦士トシテ奉公ノ念ニ燃エテ出テ來マシタ

ケレドモ、短時日ノ間ニ病魔ニ冒サレテ歸モ相當アルノデアリマス、其ノ一面ニ於テハ今日アル結核患者ヲ速カニ治療致シ本復セシメル爲ニ、醫療團等ニ於テ病床ヲ殖ヤスト云フコトハ既ニ御話ノ通りデアリマスガ、産業ニ因ル結核ガ相當多數ヲ占メテ居ルコトモ事實デアリマスノデ、是等ノ方面ニ特ニ考慮ヲ拂ツテ、産業ニ因ル是等疫病ニ對スル病床ヲ豫定スルコトモ當然ト思ツテ居リマス、御話ノ中ニ大工場等ニ於テハ相當ノ設備ガアルト云フコトデアリマスガ、其ノ通リデアリマシテ、是等ノ行届イタ設備ヲ有スル大工場ノ例ニ倣ヒ、中小ノ工場ニモ出來ル限り工場主、事業主ヲシテ左様ナ設備ヲナサシメルヤウニ勧メテ居リ、時ニハ之ヲ強制スルト云フヤウナ途モ今日マデモヤツテ居ルノデアリマスガ、更ニ進メテ參りタイト思ツテ居リマス、ソレカラ又新タニ工場ニ採用セラレタ者ハ其ノ當初ニ於テ嚴重ナル體格検査ヲ致シ、之ニ耐エ得ルト認メル者ニアラザレバ就業セシメナイヤウニスルコトモ必要デアラウト思ヒマシテ、是等モ只今法制上ノ考慮ヲ拂ツテ居ル次第デアリマス、尙ホ現在ノ工場法其ノ他之ニ基ク法令等ニ於テモ、年ニ一回乃至二回ノ身體検査ヲサセルコトニナツテ居リマス、又工場醫ヲ置クコトヲ命ジテ居ルノデアリマスガ、是等ノ工場醫ヲ置ク範圍等モ更ニ擴メマシテ、出來ル限り工場醫ヲ各種ノ工場ニ置カセルヤウニ致シマシテ、其ノ工場醫ノ職務ノ遂行ニ依リマシテ健康状態ニ適ルヤウニ之ヲ勵行スル積リデ、是等ノ法制ハ改正等モ今進メツツアル狀況デゴザイマ

ス、休養ノ外ニ榮養ノ大切ナコトハ勿論デアリマス、大工場ニ於キマシテハ工場ニ於テ共同炊事ト云フヤウナコトヲヤツテ居ルヤウデアリマスガ、各府縣廳ニ於キマシテモ此コノトニ付キマシテハ相當考慮ヲ拂ヒマシテ、出來得ル限り共同炊爨ト云フヤウナ方ニ進メ、殊ニソレニ付テハ地方廳ノ營養士ヲ派遣シテ之ニ協力ヲ與ヘ、乃至ハ設備、資材、配給等ニ付キマシテモ格別ノ者慮ヲ拂ヒツツアル實情デアリマス、是等ハ全國的ニ進メタイト思ツテ居リマス、斯様ニ色々ト考ヘテ居ル譯デアリマスガ、更ニ其ノ根本トナリマスモノハ、是等ノ病氣ニ罹リ易イ者ヲシテ罹ラナイヤウニ致シモツトモツト體力ノ強健ナ者ヲ作り出スコトが必要デアル譯デアリマス、此ノ點ニ付キマシテハ國民體力法ノ改正ト相俟チマシテ、十五歳乃至二十五歳ノ青年達ニ對シテハ通常毎年一回、產業戰士ニ對シテハ年二回ノ體重ナル體格検査ヲ行フ、而モ精密ナル検査ヲ行ツテ、虛弱ト認ムル者ハ之ニ修鍊ノ機會ヲ與ヘ、病弱ト認ムル者ニ對シテハ之ニ速カナル療養ノ指導ヲ與ヘ、又家計ノ都會上療養ヲナシ得ザル者ニ對シマシテハ、公費ヲ以テ之ヲ補助スルト云フヤウナ途モ闇キマシテ、今後先づ以テ病氣ニナラナイ、抵抗力ノ強イ青年ヲ作り上げ、ソレ等ヲ產業場ニ送ル、送ツタ場合ニ於キマシテノ手當ハ先程申上ゲマシタヤウナ、衣食住各方面ニ付キマシテノ考慮ヲ拂フコトニ致シマシテ、今御話ノヤウナ御心配ヲ少シテキモ減スルヤウニ致シタク熱意ヲ持ツテノモノハマダ決ツテ居リマセヌケレドモ、

○木村(清)政府委員 先程政府管掌健康保険特別會計ノ一般會計繰入金ノ件ニ付キマシテ調べマシタ所ガ、前年度政府管掌健康保険特別會計ニ於テ結核ノ病床建設爲ニ十五万圓補助ガアリマシタ、明年度ニ付キマシテハ是ガ當初豫算ニ削ラレテアリマスルガ、追加豫算二十二万圓計上シテアリマス、只今申上ゲマシタノハ詰リ一般ノ事務費トカ給付費ト云フモノデナシニ、結核病床ヲ健康保険特別會計ニ持ツ爲ノ特別ノ補助ニ向ケルト云フコトデアリマス

○塚本(重)委員 マダ澤山アルノデゴザイマスケレドモ、申合セノ時間ガ三四十分モ経過シテ居リマス、丁度十二時ガ参リマシタカラ、他ノ質問ハ同僚ニ御願ヒスルコトニ致シ、大臣ニ對シマスル一、二ノ質問ヲ適當ノ機會ニ與ヘラレントコトヲ御願ヒマシテ私ノ質問ヲ終リマス

○西尾季貞代理 ソレデハ是デ休憩致シマス、午後一時カラ再開致シマス

○西尾季貞代理 午後零時五分休憩

午後一時三十分開議

○紫安委員長 開會致シマス——西尾君

○西尾委員 畏クモ御稟威ノ下、皇軍ノ赫タル武勳ニ依リマシテ、戰果ハ素晴らしいマス、午後一時カラ再開致シマス

午後零時五分休憩

シテ感激ニ堪ヘナイ次第アリマスガ、ソレニ付キマシテモ豫想サルル長期戰ヲ戰ヒ
拔キ、更ニ戰後ノ共榮圈ヲ建設經營シテ行
クニ於キマシテモ、人ノ問題が重要ニナツ
ト申シマスルト、農村ニ於キマシテモ都市
ニ於キマシテモ、國民ノ體位ハ損ハレツツ
アルノデアリマス、更ニ其ノ上ニ戰爭ニ依
リマシテ出生率ハ當然減少スルモノト考へ
ナケレバナラヌ、即チ國ガ求メテ居ルモノ
ハ強兵健民、人口増殖デアリマスルガ、現實
ハ其ノ逆ノ傾向ヲ逃リツツアルノデアリマ
ス、此ノ傾向ヲ克服致シマシテ、大東亞
共榮圈建設ノ國家的要請ニ應ズル爲ニハ、
厚生省ノ擔任スル責任極メテ重大デアルト
言ハナケレバナラヌノデアリマス、今回御
提案ニナリマシタ法律案ハ、總テ此ノ目的
ノ爲ニ致サレタモノデアルト存ジマスルノ
デ、私共ニ於キマシテモ、大體ニ於テ是等
ニ賛成致シタイト考ヘテ居ルノデアリマス
ガ、唯總括的ニ結論ヲ先ニ申上ダマスナラ
バ、微溫的デアリ、不十分デアルト考ヘザ
ルヲ得ナイノデアリマス、本當ニ國家的要
請ニ應ズル爲ニハ、モット思切ツテ積極的
ニ此ノ人人問題ヲ解決スル爲ノ努力ヲ致サ
ネバナラヌノデハナイカト思フノデアリマ
ス、斯ウ云フ見地ニ立チマシテ、三、四ノ質問
ヲ致シテ見タイト思フノデアリマス、先づ
第一ニ本委員會ニ於テモ國僚諸君ニ依リマ
シテ熱心ニ質問サレ、又政府モ十分ニ御答
ヘニナツテ居ラレマシタ結構撲滅ノ問題ハ勿
ニノミ是等ノ大政策ガ樹立サレ、其ノ效果

シテハ、第二次近衛内閣ハ最低國民生活ヲ保障スルト言ハレタノデアリマス、就キマノ内閣及び現内閣ニ於テモ此ノ方針ヲ踏襲サレテ居ルト思フノデアリマス、議會ニ於テ此ノ點ニ付キ三、四質疑應答ガ行ハレタコトガアツタノデアリマスケレドモ、何レモ抽象的デアリマシテ、一體政府ハドノ程度ヲ以テ國民ノ最低生活ト考ヘテ居ルノカ、何等是ガ具體的ニ現ハサレテ居ナイノデアリマス、即チ茲ニ御尋ネ致シタインハ、最低國民生活トハ一體具體的ニハドウ云フコトデアルカ、出來ルダケ是ガ理念ナリ、若シクハ數字的ニ御示シラ願ヒタイト思フノデアリマス

○小泉國務大臣 只今大東亞共榮圈確保ノ爲ニ健全ナル國民生活ヲ確保スルト云フコトガ第一要義デアルト云フ御說、洵ニ御尤モデアルト存ジマス、就キマシテハ政府ニ於テモ此ノ健全ナル國民生活ヲ確保スル、其ノ最低ノ、即チ最モ此ノ目的ニ合適スル國民生活ノ標準、是ガドウ云フモノデアルカト云フコトニ付テハ、各方面カラ懸案ヲ檢討シテ居ル次第デアリマス、即チ國民生活ガ從來御指摘ノヤウニドウモ抽象的ニシテ實際ニソグハナイ點ガアルト云フヤウナコトハ、政府ニ於テモ認メテ居ル次第デアリマス、隨ヒマシテ此ノ國民生活ト云フモノヲ凡ユル方面カラ綜合的ニ之ヲ檢討シテ、デアリマス、併シナガラ今日綜合的ニ各方面カラ綜合的ニ觀察ラシテ、サウシテ合理ニ之ヲ導クト云フコトヲ考ヘテ居ル次第ニアリマス、併シナガラ今日綜合的ニ各方面カラ綜合的ニ觀察ラシテ、サウシテ合理ニ之ヲ導クト云フコトヲ考ヘテ居ル次第ニアリマス、併シナガラ今日綜合的ニ各方面カラ綜合的ニ觀察ラシテ、サウシテ合理ニ之ヲ導クト云フコトヲ考ヘテ居ル次第ニアリマス、併シナガラ今日綜合的ニ各方

リマセヌ、又サウ云フ態度モ十分デナカツトトヲヤル爲ニ相當ノ日時、色々ナ準備等モ必要ナコトハ致シ方ナイ次第デアリマス、併シサウ云フ研究、或ハ調査ガ出來上ルマデ其ノ儘放ツテ置クト云フコトハ、今日ノ事態相許サレナイト云フノデ、明カニナツテ參リマシタモノカラ、逐次之ヲ進メテ行ク、斯ウ云フ風ニ致シテ居ル次第デアリマス、隨ヒマシテ最低限度トハ斯ウ云フモノナリト、數字的ニ之ヲ示スト云フコトハ、至難ノコトノヤウニ考ヘテ居ル次第デアリマス

ハ、國家ノ爲ニハ握飯ト梅干デヤツテ行クナリマスガ、凡ニナルコトハ望マシイノデアリマスガ、ソレニ依ツテ長期戦ニ堪ヘ、大東亜共榮圈ヲ確立スル爲ニハ、私ハ斯ウ云フ風ニ理解スル所ニ依リマスト、今日ノ強兵健民、ソレニ依ツテハナカト思フノデアリマス、即チ最低國民生活トハ生産者ニ取ツテハ賑日ノ勞働力ヲ再生産スル所ノ生活デアリ、國民ニ取ツテハ強兵トシテ戰鬪力ヲ養フコトノ出來ル最低限度ノ生活デアル、即チ生ギテ居リサヘスレバ宜イト云フ、動物的ナ意味ニ於ケル最低生活デハナクシテ、今日國ノ必要トスル國民ノ最低生活ト云フモノハ以上ノヤウナモノデナケレバナラヌ、斯様ニ考ヘテ居ルノデアリマスルガ、如何デアリマセウカ

タイト云フヤウナ立場カラ研究シテ居ル者ノ多クノ結論ハ、概ニ此ノ邊ニ來テ居ルヤウニ私共ハ承ツテ居ルノデアリマス、而モ此ノ勞働科學研究所ハ單ナル民間ノ研究所デナクシテ、產業報國會等トモ關係ノ深イ、謂ハバ半官半民的ノ公的ノ性質ヲ持ツテ居ル機關デ調査シ、ソレガ公的ナ人口問題ノ全國協議會デ發表サレタト云フコトハ、相當重要ナ性質ヲ持ツテ居ルモノトシテ考へナケレバナラヌト思フノデアリマスガ、之ニ對シテ如何様ニ御考へデアリマセウカ○小泉國務大臣 只今御述べニナリマシタ點ハ有力ナル資料トシテ十分ニ參照シテ行キタイト考ヘテ居リマス○西尾委員 ヤハリ生活問題ニ直接ノ關係ガアルノデアリマシテ、ソレハ勞働賃金ニ關スルコトデアリマス、勞働者ノ生活費ノ大都分ガ勞働賃金デ賄ハレテ居ルト云フ點カラ考ヘテ御伺ヒ致シタイノデアリマスルガ、週報ノ昨年ノ六月二十五日號ニ發表シテ居ル所ニ依リマスルト、賃金ニ關スル表ガ出テ居ルノデアリマス、ソレハ男子労務者ノ最低賃金デ東京、大阪等ニ屬スル第一級デハ二十歳以上二十二歳マデガ一圓〇五錢ニナツテ居ル、假ニ之ヲ一箇月三十日トシマシテ、三十日ヲ掛ケマスト、三十一圓五十錢ニナツテ居ルノデアリマス、是ハ獨身者デアリマスカラ、大體此ノ程度ナラ、生活出來ルノデハナイカト思フノデアリマスルガ、次ニ二十五歳カラ三十歳マデ、是ハ大體子供ガ一人位アル家庭デ、二十八、九歳ト云フコトニナレバ、二人位子供ガアツテモ宜イト考ヘルノデアリマスガ、ソレノ最初給賃金ガ二圓十三錢ニナツテ居リマス、高初三十倍致シマスト、六十三圓九十錢ニ

實際收入ハモツト多クナツテ居ルト思フノ
デアリマスガ、又一面約一割ノモノハ健康
十錢位ナモノデハナイカト思フノデアリマ
ス、是ハ政府ノ決定シタ賃金ニ於テ生活シ
テ居ルノデアリマスカラ、政府ニ於テ十分
責任ノアルモノデアルト思フノデアリマ
ガ、大體此ノ程度デヤツテ行ケルト云フ御
考ヘデアリマセウカ、之ヲ御伺ヒ致シタイ
ノデアリマス

○持永政府委員 賃金ノ統制ニ付キマシテ
ハ、御承知ノ通りニ生活費ヲ基準ニシテ計
算シタモノデハゴザイマセヌノデ、物價ノ
統制ト同ジヤウニ大體十四年ノ九月十八日
ヲ基礎ニシマシテ、ソレカラ一昨年ノ
十月ニ賃金統制令ノ改正ヲ致シマシタ
際ニハ、十四年ノ九月十八日カラ其ノ後ニ
於ケル其ノ時マデノ物價趨勢及び賃金ノ
趨勢カラ考ヘマシテ決定シタモノデアリ
マス、隨ヒマシテ生活費ガドレダケ要ルカ
ラドレダケニスペキカト云フヤウナ計算デ
出テハ居ラナイノデアリマシテ、實情ヲ基
礎ニシテ、ソレニ或ル程度ノ加減ヲシテ決
メタモノデアル、只今御話ノ最低賃金ニ付
キマシテモヤハリ各業種ニ亘リマシテ男女
別、年齢別ニ實地調査致シマシテ、ソレヲ基
礎ニシテ少シ技術的ノ言葉ニナリマスガ、
標準偏差法、即チ最低ノ場合ニ於キマシテ
ハ下カラ一割五分マデハ省キマシテ、一割
六分以上ノモノヲ基礎ニシ、又上ノ方ハ一
割五分ヲ削リマシテ、一割六分以下ノモノ
デ其ノ中間ニ於テ決メタイト云フノガ實情
デアリマス、隨ヒマシテ今回ノ生活費カラ

テハ、或ハ是デハ生活シテ行ケヌト云フ場
合モ只今御話ノヤウニアリ得ルト云コト
ガ豫想サレマスガ、併シ賃金支拂ノ實際ニ
於キマシテハ、此ノ公定ジマシタ際ニヤハ
リ最高及ビ標準賃金ヲ決メマシテ、出來得
ベクンバ其ノ標準賃金ニナルヤウニ實ハ指
導致シテ居リマス、隨テ最低賃金ヲ貴フト
云フ場合ハ、極ク稀有ナ場合デアリマシテ、
非常ニ勞働能率ノ惡イ人デアルトカ、或ハ
出勤率ガ非常ニ惡イト云フヤウナ、特別大
人ノミニ付テ起り得ルノデアリマシテ、普
通ニ働イテ居ル人ハ、大部分ハ標準賃金ヲ
前後ニシテ支給サレルト云フコトデゴザイ
マス、デアリマスカラ、單ニ最低賃金ノ金
額ノミヲ以テ現實ノ賃金支拂ヲ考ヘルト云
フコトハ出來ナインデアリマシテ、是ハ西
尾サンモ御存ジカト思ヒマスガ、事實ハ大
體標準賃金前後ニ於テ支拂ハレテ居ルト云
フコトガ言ヘルト思ソノデアリマス。

○西尾委員 私モ勞働局長ノ御話ノコトハ
十分存ジテ居ルノデアリマシテ、問題ハ最
低生活費ト云フコトガ單ニ動物的ノ意味ノ
モノデナイト云フ意味ニ於テ最低賃金ノ數
字ヲ引用シタノデアリマスガ、御話ノ標準
賃金ヲ以テシマシテモ、實際ニハ是ハ足ラヌ
ノデハナイカト云フ考ヘラ持ツテ居ルノデ
アリマス、御話ノヤウナ意味デ此ノ最低賃金
金ガ決マツタト云フコトバ、丁度之ヲ經濟
界ノ統制等ニ思ヒ合ハシテ見マスト、所謂
實績デ抑ヘル、過去ガ斯ウデアツタカラ實
現状ニ即シタ統制ガ行ハレネバナラヌト云
フコトガ考ヘラレテ居ルコトニ鑑ミマシテ、

リ、最高初給賃金等が決定サレ實施サレマ
シタノハ、昨年ノ八月一日カラデアリマス
ガ、而モ此ノ決定ニ至ツタ資料ハ、昨年、
昭和十五年ノ五月現在ノ資料デ決定サレテ
居ルノデアリマスルカラ、非常ニ物價ガ抑
ヘラレテ居ルトハ言フモノノ、御承知ノヤ
ウニ段々ト實質的ニハ上ツテ居ル今日ニ於
テ、サウシテ又一方ニハ結核病等ガ産業勞
働者ノ上ニ益々猛烈烈ニ蔓延シツツアルト
云フ事實等ニ鑑ミマシテ、茲ニ賃金政策ニ
付キマシテ根本的ニ實績主義ノ殻ヲ脱シタ
—是デナクテハ本當ニ產業戰士ヲ養フコ
トハ出來ナイ、長キニ瓦ツテ其ノ能率ヲ發
揮サスコトガ出來ナイト云フ意味ニ於テ、
賃金政策ニ付キマシテ寧ロ從來トハ根本ノ
考ヘ方ノ變ツタ、詰リ國民ノ生活ヲ如何ニ
シテ最低限度ニ保障スルカ、詰リ今日國ガ
要求シテ居リマスル生産事業ニ、今日モ働
カセ、明日モ働カセ、來年モ働カセル爲ニ
ハ、セメテハ此ノ程度ノコトヲシナケレバ
ナラスト云フ點ニ於キマシテ、賃金政策ニ
於テ此ノ際非常ニ思切ツテ改革スルト云フ
決意ガ必耍ヂヤナイカト思フノデアリマス
ガ、此ノ點ニ對スル御考ヘヲ承リタイト恩
フノデアリマス

局ダケデ調査致シマシテ、ソレヲ勘考シテ十五年ノ十二月ニ賃金統制令ヲ決メタ譯デアリマス、隨ヒマシテ是ハ餘リ物價ト懸離レタモノデハイケナイガ、物價ノ値上りノ趨勢ニ應ジテ實ハ相當餘裕ヲ持ツテ居リマス、モノニ依ルト一割五分トカ二割近クノモノガ其ノ結果上ツテ來テ居ル、デスカラ十五年ノ五月ダケノ資料デナク、十六年ノ三四月ノ資料ニ基イテ、相當程度ノ考ヘヲ加ヘテ現在ノ賃金統制ヲヤツタ譯デアリマス、其ノ結果最近ノ賃金指數ヲ見マシテモ、實質賃金指數ハ物價ニ合フテ居ル、物價ヲ百ト致シマスト、賃金モヤハリ百近クニナツニ居ル、月ニ依ツテ九十六トカ、或ハ百ニナリマスガ、大體物價ニ合フテ居ル、殊ニ鑛山ニ於キマシテハ時局柄特別ノ考慮ヲ拂ヒマシタ爲ニ、鑛山勞務者ノ賃金ハ寧ロ物價指數以上ニ上ツテ百十幾ラト云フヤウニナツテ居リマス、隨ヒマシテ全般的ニ申シマスト厚生省トシマシテハ、物價政策ヲ破ラヌ程度ニ於テ、親心ヲ以ツテ賃金政策ヲ遂行シテ居ルト云フコトガ言ヘント思ヒマス、唯問題ハ個々別々ノ工場鑛山ニ於キマシテ、或ハ低イモノガアルカモ知レマセヌ、是ハ結局其ノ事業主ノ考へ方、或ハ事業ニ於ルケ受益状況等ニ依ツテ支配サレルコトト思ヒマスガ、現在ノ賃金統制令デハ御承知ノヤウニ相當彈力性ガゴザイマス、多年勤續シタ勞務者ノ多イ鑛山等ニ於キマシテハ、ソレヲ理由ニシマシテ或ル程度平均時間割賃金ヲ上げル、又技能ノ優レタ生ニ、彈力性ノアル方法ヲ執ツテ居ル譯デア

○西尾委員 厚生省ガ労務者ニ對シテ親心ヲ以テ臨ンデ居ラレ、隨テソレノ實現ニ對シテ御努力セラレテ居ルコトハ、私モ常カラ承知シテ喜ンデ居ルノデアリマス、併シ厚生省モ時ニハ他ノ省トノ關係等デ思フニ任セヌコトガアリ、旨ク行カヌノデハナイカト思ヒマスガ、厚生省トシテハ、此ノ際特ニユートリヲ以テ人口政策ノ立場カラヘ能率増進ノ立場カラ労働者ノ賃金ガ若シ現在最低生活ヲ十分ニ保障シテ居ナイトスレバ、之ヲ改ヌテモ宜イノデハナイカト云フ理由ヲ發見シテ居ルノデアリマス、労務者ノ最低賃金、標準賃金、最高初給賃金等ヲ決メタ當時ニ於テハ、之ニ二ソノ「エイド」ガ掛ツテ居ル、即チ移動防止ト低物價政策トデアリマスカラ、詰リ賃金政策ノ上ニ課セラレテ居タ重味、移動防止ト云フ意味ノ必要ハ稍々緩和サレテ來タト云フコトデアリマス、モウ一つハ低物價政策デアリマスガ、此ノ點ニ關シマシテハ、屢々大臣モノハ段々動カシテ行クト云フ方針ヲ言明サ必ズシモ物價ノ釘付デナク、増産ヲスルニ必要ナモノ、其ノ他特ニ必要ト考ヘルモノ工大臣等カラモ言ハレテ居リマスヤウニ、レ、又現ニ動カシテ居ル實情カラ考ヘテ、アリマス

釘付ニシナクテモ、動カシテ宜イ譯アリ
マス、モウ一ツハ從來勞働賃金ハ——此ノ前金
光厚相モ言ハレタガ、勞働賃金ヲ上ゲルト
生産「コスト」ガ高クナツテ行ク、「コスト」ガ
高クナルト物價ガ高クナル、物價ガ高クナル
ト又賃金ヲ上ゲナケレバナラヌト云フヤウ
ニ、所謂循環論法テ、賃金ヲ上ゲルノハ意
味ヲナサヌト言ハレマシタ、自由主義經濟
ノ下ニ於テハ一應御尤モト思ヒマスケレド
モ、今日ニ於テハ必ズシモ其ノ議論ハ其ノ
儘受取ル譯ニハ行カヌト思フノデアリマス、
ソコヲヤハリ統制政策ニ依ツテ抑ヘテ行ク
コトガ出来マスシ、現ニ今議會ノ豫算總會
ニ於キマシテモ、此ノ問題ニ關スルコトガ
論議サレテ居ルノデアリマス、即チ小笠原
三九郎君カラ斯ウ云フ質問ガ出タノデアリ
マス「御奉知ノヤウニ金ノ方ハドウカト云
フト、金ハ銀行ヘ預ケテモ年々利息ガ附イテ
殖エテ行ク、公債ヲ持ツテモ、有價證券ヲ
引受ケテモ、年々金ノ方ハ膨ランデ行キマ
ス、五年デ倍ニナルカ、七年デ倍ニナルカ、
十年デ倍ニナルカハ姑ク別トシテ、金ノ方
ハドウセヌデモ段々殖エテ行キマス」即チ
金ノ方ハ一錢デモ段々ト殖エテ行ク、人間
ノ方ハ汗水ヲ流シテ効イテ居ツテ居ルト思フ
生産ニ從事スル限り何ニモ勞働力ノ價值ハ
殖エテ行カナイ、斯ウ云フコトニナルノデア
リマス、是ハ私ハ間違ツテ居ルト思フ「ト
アリマス、是ハ私ハ間違ツテ居ルト思フ」ト
ガ變ル點モアルカト思フノデアリマスガ、
云フヤウナ意味ノ質問ニ對シマシテ、賀屋
大藏大臣ハ斯ウ云フ風ニ答ヘテ居ルノデア
リマス、是ハ抜キ讀ミシマスノデ幾分意味
ガ、併シ多クノ產業ハ其ノ下ニ於キマシテ

モヤハリ相當ノ利益ヲ擧ゲマシテ、積立金
モ致シ、運行ヲ致スコトガ出來テ居ルヤウ
ナ状況アリマス」詰リ一方ニハ統制政策ハ
ヤツテモノ相當儲ケテ居ルト云フコトヲ言ヒ
更ニ一方ニ於テハ其ノ賃金ノ問題ニ付キマ
シテモ物價ノ問題ニ付キマシテモ「何モ例
ノ九。一八物價ト云フモノガ金科玉條デ、所
謂一步モ之ヲ動カサヌト云フヤウナ忠實ナ
ル方針ヲ商工省モ執ツテ居ラヌノデアリマ
ス、大體ニ於テ低物價政策ヲ維持致シマシ
テ、必要ナル方面ニハ部分的ニソレ相當ノ
處置ヲ執ル、斯様ナ考へ方ヲ致シテ居リマ
ス」此ノ大藏大臣ノ答辯カラ來マスルコト
ハ、大體ニ於テ低物價政策ヲ執ツテ居ルノ
デアリマスカラ、賃金ヲ動カスユトリガ出
テ來タノデハナイカ、モウ一つハ今日ノ統制
政策デモ相當事業家ハ儲ケテ居ル、是ハ隱
レモナイト事實デアリマス、ダカラ幾分賃金
ヲ上ガルト云フコトハ事業家ノ儲ケガ幾分
少クナルト云フ場合ガアリマシテモ、是ハ
理論デアツテ、實際ハサウ簡單ニ行カヌノデ
アリマセウガ、必ズシモ今ノ循環論的ニハ
行カヌノデハナイカト云フ考へ方ヲ持ツテ
居ルノデアリマス、私ガ斯様申上ゲマスコ
トモ、所謂局長ノ言ハレマシタヤウナ親心
ヲ持チマシテ——努力ノ道ガ前ト違ツテ幾分
開カレテアルノデアリマスカラ、十分ニ御
金ヲ一定規率ノ狀態ニ於テ釘付ケスルト云
フヤウナ考へハゴザイマセヌ、物價ニ於キ
リマス、之ニ關スル御所見ヲ承ツテ置キタ
イ思フノデアリマス

政策ヲ決メテ行クト云フコトハ勿論デアリ
ノ御話ノヤウニ、ヤハリ低物價政策ヲ破ラ
ナイ範圍ニ於キマシテ適正ナル方策ヲ作ツ
テ行クト云フコトガ大事ダト思ヒマス、隨
ヒマシテ現ニ鑛山ニ於キマシテハ、相當上
ゲタノデアリマスガ、サウ云フ風ニ低イモ
ノニ付キマシテハ之ヲ或ル程度上ガルト云
フコトモ勿論考ヘナケレバナラヌ、又現ニ
吾々ノ方トシマシテハ、サウ云フ政策ヲ執
ツテ居ル譯デアリマス、大體ニ於キマシテ
西尾サンノ御意見ハ吾々モ同感デアリマシ
テ、今後サウ云フコトデ進ミタイト思ヒマ
ス

見ルト、サウ云フ途ノ開ケテ居ルコトヲ知ラナイノデアリマス、是ハ折角ノ親心ガ下ニ通ジナイトニナツテ居ルノデアリマスカラ、斯ウ云フコトニ付テハ更ニ一層能ク了解出来ルヤウナ何等カノ方法ヲ御執リ願ヒタイト云フコトヲ希望シテ置キマス
次ニハ生産能率ノ問題デアリマスガ、昨年ノ七十六議會ニ於キマシテ、私ハ當時工場ニ於ケル生産能率ガ六、七〇%シカ舉ツテ居ナイト云フ實情ヲ痛嘆致シマシテ、是ガ對策ノ二三ヲ例示致シマシテ、當局ノ善處ヲ要望致シテ置イタノデアリマシタガ、其ノ中ノ私ノ希望致シマシタ一ツデアル厚生大臣ハ勿論ノコト、總理大臣初メ陸海軍大臣モ全國ニ出掛ケテ行ツテ、直接工場労働者ノ戰時日本ニ於ケル重要ナル責任ヲ自覺サセ、彼等ヲ心カラ產業戰士トシテノ誇リヲ以テ生産能率ニ増進邁進セシムルヤウニナサツテ戴キタイト云フコトヲ希望致シテ、置イタノデアリマスガ、幸ヒニ致シマシ其ノ後實現致サレマシタシ、殊ニ總理大臣ノ川崎工場ニ於ケル労働者ニ對スル呼掛けト云フモノハ、非常ニ效果ガアヤルウニ承ツテ喜ンデ居ルノデアリマスガ、其ノ他ノ點ニ付テハ私ハマダドウ云フ能率増進ノ政策ガ執ラレタカト云フコトヲ聞イテ居ナイノデアリマス、當局ハ其ヲ後工場労働者ノ能率ヲ百パーセントニ増進セシムル爲ニハ如何ナル政策ヲ御執リニナツテ來タノデアリマスカ、此ノ際承リタイト思フノデアリマス
○持永政府委員 勞働生産能率ノ向上ト云フコトハ各方面カラ見ナケレバナラヌ問題ダト思ヒマス、或ハ保健衛生ノ問題、殊ニ榮養、精神作興ノ問題、又労務者ニ對スル

福利、厚生施設ノ問題、或ハ機械資材ノ設備
モ中々好イ結果ノ現ハレヌ問題デアリマシテ
テ、之ニハ商工省或ハ企畫院、又場合ニ依
リマシテハ陸海軍關係者各方面ノ協力ヲ得
各方面カラ各種ノ對策ヲ立て行カネバナ
ラヌト考ヘラレマス、厚生省トシマシテハ
申スマデモナク精作興ト申シマスカ、時
局ヲ認識セシメ、又ハ勤勞ノ國家性ヲ十分
ニ把握セシメマシテ、最大努力ヲ生產ニ拂
フヤウニ仕向ケル、ソレト同時ニ或ハ住宅
問題、或ハ榮養問題又ハ結核對策トカ、其
ノ他保健衛生ノ問題等各種ノ方策ヲ決メテ
行カネバナラヌト考ヘテ居ルノデアリマシ
テ、現在マデサウ云フ方面ニ力ヲ盡シテ居
ル次第デアリマス、尙又此ノ能率ノ向上ニ
付キマシテハ、單ニ役所ノ頭カラヤルノミニ
デハ不十分デアリマシテ、ドウシテモ自治
的ニ勞務者ガ奮ヒ起ツテ仕事ヲスルヤウニ
仕向ケルコトガ必要デアル、ソレニハ御承
知ノ産業報國會ヲ各工場、鑛山ニ作ツテ參
リマシテ、サウシテ自治的ニ能率ノ増進ヲ
圖ヅテ貴フ、又最近ハ產業報國會トシマシ
テハ或ハ皆勤運動、即チ一箇月ノ間從來鑛
山等ニ於キマシテハ、ヒドイ所ニナリマス
ト、十七日位シカ出ナイ、ソレヲ少クトモ
二十五日位マデ上ゲヨウ、又工場ニ於キマ
シテモ二十八九日ト云フヤウナ出勤率ノ多
イ所ハ少イ、ソレヲ其ノ邊マデ上ゲヨウト
云フノデ、本年ノ一月十一日カラ皆勤運動
ヲ始メテ居リマス、又ソレト共ニ是モ產報トシマ
ハアルト思ヒマスガ、其ノ皆勤ノ良イ所ハ
シテハヤツテ居リマスガ、機械實動率運動、

ヒドイ所ニナルト僅カニ六〇%シカ効イテ居ナイ、即チ各工場ノ機械ガ「フル」ニ効イテ居ナイト云フヤウナ状況デアリマスノデ、ソレヲ百「ハーセント」マデ効カセル、勿論ソレニハ資材ノ配備トカ人ノ問題ガアリマスガ、少クトモ出來ルダケ現在ノ機械ヲ有効ニ効カシメルヤウニシヨウト云フノデ、機械實動率運動ヲ現ニヤツテ居リマス、ソレカラ第三ニハ生産擴充運動ト申シマシテ、是ハ主トシテ精神運動デアリマスガ、ヤハリ産報トシマシテハ此ノ運動ヲ現在展開中デアリマス、サウ云フ風ナ方法ニ依リマシテ役所ノ方面、又自治的ノ産業報國會ノ方面、斯ウ云フ各方面カラ協力シマシテ、厚生省ノ立場トシマシテハ出來ルダケ勞働能率ノ増進ニ努メタイト云フ風ニ考ヘテ居リマス

見二行キマシタ所ガ、門衛ガ自分ヨリモ月給ノ下ノ社員ニハ敬禮ハシテ居ルケレドモ、自分ヨリハ遙カニ給料ハ上デアルシ年數モ古イケレドモ、所謂普通ノ職工ト云フ者ニトヲ考ヘ付イタト云フ話ヲ聞イテ居ルノデアリマスルガ、兎角從來ノ勞働者ニ對スル考ヘハ之ヲ一口ニ申シマスルト、餘所者ト云フ考ヘガアルノデアリマス、詰リ社員ハ會社ノ者デアル、ダカラ之ニハ何トナク會社ノ者ト云フ感ジデ遇スルガ、勞働者ハ何時變ツテ行クカモ分ラヌ、サウ云フ點ハ例ヘバ賃金ノ支拂方法ニ於テモ、社員ハ月給デアル、勞働者ハ時間割賃金デアルト云フ同ジヤウナ心構ヘデヤハリ勞働者モ待遇ス風ニ、勞働者ヲ餘所者扱ヒニシテ居ル、之ヲ何トカヤハリ勞働者モ所謂勞資一體ト云ヒマスカ、其ノ工場ニ於テ社員ヲ遇シタトウツノ問題ハ是ハ能率増進ノ問題ニ付テ申上ゲタイノデアリマスガ、例ヘバ軍人サンノコトヲ考ヘテ見マスト、是ハ給料ガ何ボダカラ働く効力又ト云フ事デナクシテ、是コソ本當ニ國ノ爲ニ命ヲ捧ゲテ滅私奉公シテ居ルノデアリマスガ、其ノ軍人サンニモヤハリ進級制度ト云フノガアツテ、ソレガ如何ニ軍人サンニ潑刺タル空氣ヲ作ツテ居ルカト云フコトガ窺ヘルノデアリマス、又官吏ニ於キマシテモ、官吏ノ短期ニ屢々迭ルト云フコトハ常ニ非難サレテ居ルノデアリマスケレドモ、併シ其ノ中ニ唯一ツ善イコトハ、段々官吏ヲ迭ヘテ轉任サセテ所謂進級サセルト云フコトガ、官界ニ潑刺タル空氣ヲ與ヘルト云フ意味ニ於テ

ハ、官吏ノ頻繁ナル異動ノ中ニモ善イ點モ
アル、斯ウ言ハレテ居ルノデアリマスガ、
労働者ニシテ五十ニナツテモ五十五ニナツ
テモ、結局ハ五十五デ停年デ罷メサセラレ
テ行ク、何時マデモ勞働者デアルト云フ考
ヘ方ヲ止メサセテ、労働者ニモ進級ノ途ヲ
開ク必要ガアルデハナイカ、私ハ工場ニ實
際ニ勤メテ居ル私等ノ同僚ノ者カラモ、或
ハ其ノ會社ノ幹部ノ方カラモ、話ヲ聞イテ
居ルノデアリマスガ、例ヘバ立派ナ熟練勞
働者ハ單ニ技術的ニ熟練シタダケデナク、
ヤハリ熟練労働者ニナラツテ其ノ工場ニ五
年モ六年モ居ルト云フコトニナリマスト、
相當人格的ニモ立派ニナツテ來テ居ルノデ
アリマス、假令五人デモ六人デモ人ヲ使フ
伍長ニナリ組長ニナルト云フコトニナルト、
人格的ニモ立派ニナツテ來テ居ル、是等ハ
何時マデモ伍長、組長ト云フノデナク、ヤ
ハリ社員ニ進級サセル、モット上ノ方ニ持
ツテ來テモ、場合ニ依ツテハ之ヲ重役ニ持
ツテ來テモ相當勤マール人ガアルデハナイカ
ト思フノデアリマス、現ニ一部デハ此ノ頃人
員ガ不足シテ居ルト云フ事情モアリマシ、
労働者ノ中カラ社員ニ採用シテ居ルモノモ
アリマスケレドモ、兎ニ角労働者ハ社員ト
區別シテ何時マデモ労働者ダト云フノデナ
ク、何等カ茲ニ進級ノ途ヲ拓クト云フコト
ガ必要デハナイカ、モウ一ツハ是モ労働者
出身ノ社員ニナツタ人カラ話ヲ聞イタノデ
居ル、然ルニ學校ヲ出テ來タ者ハ一年ハ自
分等ガ教ヘルケレドモ、二年目カラ此ノ人
モカモ知ツテ居ル、隅々ノコトマデ知ツテ
達ノ命令ヲ聽クノデナケレバ自分ガ人ヲ使
ツテ行ク譯ニ行カナイ、學校尊重、官界デ

云フ空氣ガ官界ニモアルト云フコトハ盛ニ以前問題ニナツタノデアリマスガ、工場ニ於テモヤハリ學校出ヲ學校ヲ出タカラト云フコトデ此ノ進級ヲ早クサセルト云フ點ニ對スル今日労働者出身ノ方ニ不満ガアルノデアリマス、斯ウ云フ點ニ付キマシテモ今後労働者ニ進級ノ途ヲ拓キ、ソレニ依ツテ倦マズ撓マズ何時マデモ、五十二ナツテモ五十五ニナツテモ緊張シテ働くヤウニ御配慮願ヒタイト思フノデアリマス、此ノ點ニ付テ御意見ヲ承ツテ置キタイト思ヒマス○持永政府委員 勤勞ノ人格性ヲ尊重シテ行ケト云フヤウナ御議論ダト思ヒマスカ、此ノ點ニ付キマシテハ私共全ク同感デアリマス、殊ニ今日ノヤウナ時局ニ於キマシテハ、本當ニ產業戰士トシテ労務者ガ日々苦勞シテ居ル、「ハワイ」ノ攻撃ニ於キマシテモ、労務者ノ造ツタ爆弾ナリ飛行機ナリ或ハ潛航艇ガヤハリ活躍シテ居ルノダ、サウ云フコトヲ考ヘマスト、從來ノヤウニ労務者ナルガ故ニ之ヲ輕く見ルトカ云フヤウナコトハアツテハナラナイト云フ風ニ私共ハ考ヘマス、同じ人格、同ジヤウニ考フベキデアル、唯日本ノ從來ノ實情ハサウ云フ考ヘガマダ十分ニ滲透シテ居ナイト云フコトハ、是ハオ互ビニ遺憾トスルノデアリマス、併シ今後ニ於キマシテハ、御話ノヤウニ労務者ノ實力ニ依ツテ或ル程度是ガ向上シ得ルト云フ風ニ進ムベキモノダト考ヘテ居リマス、國家トシマシテモ新聞デ御承知ダト思ヒマスガ、先般労務者ニ對スル表彰制度ヲ考ヘテ、是ハ全ク御話ノ労務者ノ人格ヲ尊重スル、其ノ國家ニ對スル勤勞ヲ表彰スルト云フ意味ニ於キマシテ考ヘラレタモノダト思ヒマス、御

○西尾委員 次ハ産報ノコトニ付テ一寸伺
ツテ見タインデアリマスガ、今度新シク産業
報國會ノ理事長ニナラレマシタ小畠理事長
ガ、昨年大阪デ新聞記者ニ語ツテ居ル所ニ
依リマスト、産報運動ハ完成スレバ非常ナ
高能率ヲ發揮スルコトニナルノデアルガ、
精神ト組織ノ切替テアルカラ、過渡期ニ於
テハドウシテモ能率ガ落チルノデアル、併
シ此ノ能率ヲ落シテハイカヌト吾々一生懸
命ニヤツテ居ルノダ、斯ウ言ハレテ居ル、
詰リ産業報國會ノ運動ト云フモノハ將來ハ
ウント能率ガ上ルノデアルケレドモ、現實
ニハ過渡的デアルノダカラ能率ガ低下スル
ノハ寧ロ當リ前デアル、斯ウ云フコトヲ新
聞記者ニ語ツテ居ルノデアリマス、
又昨年十二月ニ國策研究會ノ席上ニ於キマ
シテモ大體同様ナコトヲ言ツテ居ルノデア
リマス、其ノ要點ヲ申シマスト、産報運動
ハ能率増進運動デハナイ、産報運動ヲ推進
メルト能率ハ一時落チルカモ知レナイ、
併シ戰ハ長期戰ニアリ、一時ハ落チテモ
纏テハキツト宜クナル、自分ハ長期戰ヲ目
指シテ産報運動ヲヤラナケレバナラスト信
ジテ居ル、斯ウ云フコトヲ言ツテ居ルノデ
アリマス、私ハ是ハ了解出來ナインデアリ
マス、私ノ信ズル所ニ依リマスナラバ、産業
報國會ガ出來タ瞬間カラ産業報國會ノ精神
ヲ百「ペーセント」吸收シナクテモ二、三十
リハ幾分デモ能率ガ上ルベキ性質ノモノデ
ナナイカ、斯様ニ私ハ考ヘテ居ルノデアリ
話ノ點ニ付キマシテハ今後サウ云フ方向ニ
ノデアラウト云フコトニ付キマシテハ全然
同感デアリマス

マス、産業報國會が其ノ前身デアル産業報國聯盟カラ今日ニナリマシテモウ數年ヲ経過シテ居リマス、而モ増産ハ國ノ要請トシテ絶對的必要ニナツテ居ル今日ニ於テ、マダルノハ、何ダカ私共ニハ言譯ヲシテ居ルヤウナ感ジガスルノデアリマス、是ハ何カ斯ウ云フ言譯ヲシナケレバナラスト云フコトハ、何ダカ産報自身ニヤハリ根本的ナ缺陷ガアルノデハナイカ、能ク産報ニ對シテ吾々ハ此ノ缺陷ハ斯ウ直シタラドウカト云フ意見ヲ從來言ツテ來タノデアリマスガ、其ノ都度イヤ産報ガ出來テカラマダ一年ニシカナラヌ、二年シカナラヌ、假スニ時ヲ以テセヨ、斯ウ云フコトヲ言ハレタ、又或ル時ヘ今親父教育ヲヤツテ居ル、資本家教育ヲヤツテ居ルカラモウ暫ク待テト言ハレタ、何ダカ今度ノ新理事長ノ言ハレテ居ル、一時能率ガ低下スルシダト云フコトト、何カ相通ズル言譯メイタヤウナ響きガ感ジラレテ居ルノデアリマスガ、一體産報ト云フモノハ現在ニ於テモ尙ホ其ノ過渡期デアルカラ、産報ヲ推進メルトモツト先ニ行ケバ宜イノデアルガ、現在ニ於テハ産報ハ能率ガ下ガルコトハ已ムヲ得ザルモノト諒解シテ宜シウゴザイマスカ、ソレヲ伺ヒタЙト思ヒマス

○特承政府委員、只今ノ小畠理事長ノ御意見、ドウ云フ趣旨デサウ云フコトヲ言ハレマシタカ、私ニハ能ク呑込メナイノデアリマスガ、恐ラクスウ云フ意味デハナイカト思ヒマス、産業報國會ハ其ノ精神或ハ内容ニ於キマシテハ、是ハ今日ノ時局トシマシテハナクテハナラヌモノダト私ハ信ジマスガ、唯産業報國會ヲ作ツテ、眞ニ産業報國

職員、労働者全體が本當ニ産業報國ノ精神ヲ徹底シナケレバ旨ク行カナイ、然ルニ從來ノ實際ヲ見マスルト、或ハ縣ノ方カラ警察官ガ來テ勧メタカラ作ルト云フヤウナ、已ムナク作ルト云フヤウナ所ガ相當アツダヤウニ思フノデアリマス、サウ云フ所ハソレヲ作リマシテモ單ニ形ダケ作ツタノデアリマシテ、魂ガ入ツテ居ナイ、恐ラク此ノ點ヲ新理事長ガ心配サレテサウ云フコトヲ言ハレタノデハナイカト云フ風ニ考ヘマス、即チ苟モ産業報國會ヲ作ル以上ハ、精神モ魂モ打込ンデ、本當ノ産業報國會ノ趣旨ニ副フヤウナ活動ナリ、事業ナリヲスルヤウニ、初メカラ仕向ケテ來ルト云フヤウナ意味デ恐ラク言ハレタノデアラウト私ハ思フノデアリマス、從來ノ形ダケ作ツテ魂ガナイト云フヤウナコトデハイカヌ、形モ出來、魂モ同時ニ出來ルナラバ、初メカラ能率ガ十分ニ發揮サレルト云フコトハ私ハ御話ノ通リト思フノデアリマシテ、小畑サンモサウ云フ考ヘハ勿論御持チニナツテ居ルト思フノデアリマス、恐ラクサウ云フ意味デ仰ツシヤツタコト思ヒマスカラ、其ノ點ハツツ誤解ノナイヤウニ御諒承願ヒタイト思ヒマス

其ノ魂ノ入レ方ニ付キマシテ、從來兔角親テモ我慢ヲシテ居テ吳レ、工場主ト事業家ヲ納得セシメナケレバ組織ハ出來ナイノデアルカラト云フノデ、ソレモ物ノ順序トシテハ一應尤モデアツタカト思フノデアリマスガ、併シモウ親父教育ハ宜イ加減ニシテ貰ツテ、親父教育ヨリモ労働者教育ノ方ニ重點ヲ置イテ戴ク時機デハナイカト恩フノデアリマス、昨年ノ八月ニ事業場産業報國組織整備要綱ト云フモノガ發令サレタノデアリマスガ、是ハ實際ニハ尙ホ十分ニ徹底シ行ハレテ居ナイモノト思フノデアリマスケレドモ、ソレヲ拜見致シマスルト、ドウモ命令系統ヲ明カニスル、詰リ指揮命令、上意下達、サウ云フ點ニ於テハ餘程能クナシタヤウニ思フノデアリマシテ、實際ノ問題トシテ是モ非常ニ重要ナ點デアリマシテ、私モ贊成致シテ居ルノデアリマスガ、併シ一方指揮命令系統ガ強化サレタノニ比ベマシテ、所謂下意上達ノ方面ガ割合ニ改善サレテ居ナイノデハナイカ、詰リ一々上カラ抑ヘ付ケテ、寧ロ労働者側ヲ抑ヘ付ケルカノ如キ印象ヲ與ヘテ、産業報國會ヲ作ラレタ、ソレモ最初ニ於テハ已ムヲ得ナカツタト私モ思フノデアリマスルガ、今後益々下意ヲ上達シ、労働者ノ氣持モ採リ入レテ、ソニ眞ニ勞資一體トシテノ魂ヲ打込ンデ行クト云フコトノ痛感サレル此ノ時ニ、發令サレタ整備要綱ガ寧ロ下意上達ト云フ點ニ於テ、餘リ考慮ガ拂ハレテ居ナイノデハナカト私モ思フノデアリマス、ソレニハ今後工場内ニ五人組ガ出來ルノデアリマスガ、其ノ五人組ナリ其ノ他一工場内ニ於ケル產業報國會ノ勞働側カラ出タ委員、其ノ

全部ガ一堂ニ會シテ懇談會ヲスル、此ノ黎談會ハ最初カラヤラセテ危イ場合モ中ニアリマセウカラ、放任スルノデハナク、若シ警戒ヲ要スル點ガアリマスルナラバ、ソレハ事業主側ノ方カラ誰カ監督ト云フヤウナ意味デ行カスノモ宜シイシ、或ハ縣ノ產業報國會支部ノ幹部ガソコニ出テ行ツテ皆ヲ指導スルト云フ方法モ必要デアリマセウガ、其ノ何レノ方法ヲ採ルニ致シマシテモ、労務者側ノ產報委員ダケガ時ニ寄ツテオ互ヒノ問題ニ付テ話合フト云フ横ノ連絡ヲスルコトハ、却テ産業精神ヲ單ニ講演ヲ聽カス、或ハ講習會ニヤルト云フヤウナコトデナク、工場ノ實際問題ヲ扱フコトニ依ツテ非常ニ訓練サレルノデハナイカトス様ニ考ヘルノデアリマス、即チ魂ヲ入レル爲ニハモツト今ニ於テ下意ヲ上達シ易イヤウニスル、其ノ爲ニハ幾多ノ方法ガアリマセウガ、労務者側ノ委員ダケ會合シテ懇談ヲスルト云フコトガ、公ニ產報ノ組織トシテ認メラレルヤウニスルト非常ニ宜イト思フノデアリマスガ、之ニ對スル御考ヘヲ承リタイト思ヒマス

ニ是ダケ御覽ニナリマスト、御話ノヤウニ
ト云フコトノミヲ命令シテ居ルヤウニ御考
ヘニナルノデアリマスガ、産業報國會トシ
マシテハ其ノ外ニ懇談會ノコトヲ別個ニ示
シマシテ、懇談會ハ數種ニ分レマシテ最下
級カラ最上級マデアリマスガ、最上級ニハ
社長トカ工場長ト云フヤウナ最高幹部ハ勿
論、又下ノ方ノ勞務者モ其ノ最上級ノ懇談
會ニ加ハルト云フ組織ニシマンテ、御心配
ノ下意ヲ上達スル爲ニ特ニ懇談會ヲ作り得
ルヤウナ方法ヲ示シテ居ル譯ニアリマス、
私共聞キマシタノハ寧ロ其ノ逆ニ、最上級
ノ懇談會ニ勞務者ノ加ハルト云フコトハド
ウダラウカト云フヤウナ、一方的ノ意見ヲ
聞イテ居ル位テゴザイマス、隨ヒマシテ產
業報國會ノ仕組トシマシテハ下意ヲ上通ス
ルト云フ仕組ハアリマスガ、唯茲ニ現實ノ
問題トシテ、サウ云フ上級或ハ中級ノ懇談
會ニ勞務者ガ出テモ中々意見が出ナイ、其
ノ點ヲ御心配サレテ居ルノダラウト思ヒマ
ス、即チ勞務者ダケテ懇談會ヲ作ツタラド
者一體ト云フ方針デ行ツテ居リマスシ、是
ガ所謂勤勞新體制ノ根本デゴザイマスカラ、
効モ資本モ經營者モ一體トナツテ、即チ三
單ニ勞働ダケノ懇談會ヲ作ルト云フコトハ
產業報國會トシテハドウダラウカ、昔ノ形
ニ還ル虞モナイデモナイ、隨ヒマシテ現在
ノ所デハ產業報國會ハ會員全體ガ、即チ企
業者モ事業主モ勞務者モ一體トナツテ、懇
談會ニ於テ遠慮ナク報國會ノコトヲ懇談ス
ルト云フ仕組テ行キタイト思ヒマス、唯實
情ハ、勞務者ノ方デ中々發言サレナイト云

フ缺點ハゴザイマスガ、是ハ産業報國會ノ幹部ノ指導、又府縣ノ役員等ノ指導ニ依リマシテ、實際ノ下意ヲ上通スルヤウニ懇談會ヲ指導シテ行キタイト云フ風ニ考ヘテ居リマス。

○西尾委員 實ハ五人組ノ中カラモ最高ノ
懇談會ニ出ラレルヤウニナツテ居ルコトハ
私モ承知シテ居ルノデアリマス、勞働側ノ
發言ヲ十分出來ルヤウニシタイト云フノデ
アリマスガ、是ハ今始マツタコトデナク、
産報始マツテ以來サウ云フ考ヘデアツテ、
而モ今尙ホソレガ行ハレテ居ナイ、私ノ見
ル所デハ今後モ行ハレナイノデハナイカ、
ト云フノハ十二月號ノ「日本評論」ニ載ツテ
居ルノデアリマスガ、昨年神戸デ各工場ノ
職工ヲ集メマシテ懇談會ヲヤツテ居リマス、
此ノ中ニハ私ノ知ツタ者モ居リマスガ、大
體額觸ヲ見マスト、相當人中へ行ツテ物ノ
言ヘル心臓ノ強イ人モ居ルノデアリマスガ、
其ノ中ノ一人ガ斯ウ云フコトヲ言ツテ居リ
マス「產業報國會ニ對シテ不満ナリ、至ラ
ヌコトガ屢々アルト思ヒマス、例ヘバ大阪
労働者ガ一人モ出テ居ナイ、コレハヤハリ
ガ、支部ノ役員ハ殆ド工場長トカ社長トカ
云フ人バカリデ、實際ノ工場ニ働イテ居ル
デハ一ノ警察單位ニ支部ガ出來テ居リマス
ガ、支部ノ役員ハ殆ド工場長トカ社長トカ
混ヘテ意見モ聽キ、會社ノ方針モ斯ウダト
テモ何ソニモナラナイ、ソシテ其ノ職場職
場デ選バレタ人ハ俺達ハ產業人ノ代表者デ
アルト云フ觀念カラヤハリ出來ルダケ勉
強モシ、國家ニ御奉公スルト云フ氣持デヤ

ウナ意見モ出テ居ルノデアリマスガ、今其ノ發言ガ中々シニクイト云フコトニ付テ斯ヨリ考ヘタ場合ニドウシタラ能率ガ上ルカト云フコトニ付テハ一番先ニ待遇ノ問題ガ論議サレ、ソシテ種々ト話スノデアリマスガ、待遇ノ問題ト云フノハ「結局働キ良イ工場ニスルト云フ考ヘカラ」中略「會社側ノ指導者が餘り種々ナコトヲ言フト直グ舊思想ダト言ハレルノデス、自分ノコトヂヤナシニ生産ノ上ニ立ツテ話ヲスルコトガ何ガ惡イト云フコトヲ考ヘテ居リマスガ、併シ色ンナコトヲ餘り言ハサヌヤウニシテシマウ、是ガ大キイ缺陷デアルト思ツテ居リマス、コツチハ言フノガ當リ前ダガ委員ハ使ハレテ居ル關係上、餘リ言ヘヌヤウニナルノデス」ヤハリ使ハレテ居ル關係上ママニア言ハズニ濟ムナラ言ハシメ置カウト云フコトニナル、所ガ横ノ連絡ヲ執リマスト、横デ今度斯ウ云フコトヲ言ハウデヤナイカ、ソレハ言ハヌ方ガ宜カラウト云フヤウヲ相談ニナリマスト、今度ハ君ガ言ヘ、俺ガ言フト云フコトニナルシ、又相談ヲサセルト、言フコトガ割合練レテ來ルヤウニナルノデハナイカト思ヒマス、是ハ餘程工夫ヲシナケレバ當局云フコトニナツテ中々改タマラナイノデハナイカト思フ、モウ一ツハ產業報國會ハ勞働者、資本家ヲ區別シナイ考ヘ方、勞資二體ノ考ヘ方カラサウ云フコトヲシナインオダ

ト云フ、其ノ考へ方ガ幾ラカ書生論ニ四ハ
レタ「イデオロギー」ニ因ハレ過ギタ考へ方
デハナイカ、何モ彼モ勞働者資本家ト云フ
モノヲ區別シナイヤウナ現狀ニナツテ居ル
レドモ、其ノ他ノ條件ニ於テハ依然トシテ
ヤハリ勞働者扱ヒヲサレテ居ルデハナイ
カ、會社ノ方デハ思付イタコトヲ直グ其ノ
場デ言フノデナクシテ、會社側ノ委員ハ斯
ム云フコトヲ言ハウ、アア云フコトヲ言ハ
ウカト相談シテ來テ居ル、會社側デハ實際
ニヘ會社側ダケガ相談スル場合ガ屢々アルノ
デアリマス、ダカラ是ハ結局御話ノヤウニ
段々教育ヲシテ行ツテサウシナケレバナラ
ヌノデアリマスガ、其ノ過程ニ於テ何モソ
レデ勞働者側ノ委員ニ相談ヲサセルト云フ
便宜ノ手段ヲ執ツタカラト云ツテ、產業報
國會ノ大精神ガ曖昧ニナルコトデハナイト
私ハ考ヘルノデアリマスカラ、是ヘ今日マデ
ハ或ヘ一應モノハツキリスト云フ爲ニ、サ
ウ云フコトモ必要デアツタカモ知レマセヌ
ケレドモ、今日ニ於テハモウ其ノ點ヲ固ク
固持スル必要ハ餘りナインデハナイカト思
ヒマスカラ、是ハ篤ト一ツ御研究ヲ願ヒタ
イト思フノデアリマス

今度醫療團ノ問題ヲ考へル場合ニハ、最モソレニ精通シタ、又信望ノアル人ヲ選ブト云
フコトガ考ヘラマスト同様ニ、斯ウ云フ
産報ノ組織ヲ考ヘル場合ニ於テモ、ヤハリ
労働者側モ産報ノ重要ナ一要素デアリマス
カラ、其ノ方ニハ人ガナイト云フコトハア
リ得ナイ、私ガ見ルニハ相當立派ナ人ガ澤
山出來テ居リマス、工場ニ於ケルサウ云フ
立派ナ労働者モ斯ウ云フ委員ニシテ行ク、
是ガ私ガ先程觸レマシタ所謂労働者ノ工場
内ニ於ケル進級ヲ考ヘルト同時ニ、社會的
ニモ、労働者側ノ地位ガ段々向上シテ行ク
ト云フコトヲスル爲ニモ、是ハ必要デハナ
イカト思フノデアリマス、之ニ對シテハド
ウ云フ風ニ御考ヘニナツテ居リマスカ

○持承政府委員 只今ノ御意見全ク御同感
デアリマス、産業報國會ハ先程申シマシタ
ヤウニ、一方的ノ利益代表ノミガ入ルモノ
デハナインデアリマシテ、全體的ニ行クベ
キモノデアルト云フノデアリマスカラ、勞
務者ノ經驗ノアル方デ、適當ナ方ガ居ラレ
マスナラバ、勿論地方ニ於テモ、又中央ニ
於キマシテモ少クトモサウ云フ方ニ御奮
發ヲ願ヒマシテ、運營ヲ適正ニシテ行クト
云フコトガ必要ダト思ヒマス、是ハ當初カ
リマス、併シイザドノ人ヲ云フコトニナ
リマスド、中々具體的ニ困難ナ場合ガ多イ、
其ノ爲ニ或ハサウ云フ御感シヲ抱カレルカ
ト思ヒマスガ、私共ノ氣持ハヤハリアナタ
ノ御意見ト同ジヤウニ、出來ルダケ労務者
側ノ意見ヲ十分ニ持ツタ方ニモ來テ貰ヒタ
イト云フ氣持ハ十分ニ持ツテ居リマス
○西尾委員 私ハ當局ガサウ云フ御考ヘヲ
持ツテ居ルコトハ全ク御信賴申上げテ居ル

トハ、斯ウ云フ仕事ヲスルノハ是ハ警察ガ
立派ナ労働者モスウ云フコトハア
リ得ナイ、私ガ見ルニハ相當立派ナ人ガ澤
山出來テ居リマス、工場ニ於ケルサウ云フ
立派ナ労働者モスウ云フ委員ニシテ行ク、
是ガ私ガ先程觸レマシタ所謂労働者ノ工場
内ニ於ケル進級ヲ考ヘルト同時ニ、社會的
ニモ、労働者側ノ地位ガ段々向上シテ行ク
ト云フコトヲスル爲ニモ、是ハ必要デハナ
イカト思フノデアリマス、之ニ對シテハド
ウ云フ風ニ御考ヘニナツテ居リマスカ

○持承政府委員 只今ノ御意見全ク御同感
ニ端イデ、サウ云フ場合ニ自分ノ生活ヲ防
衛スルト云フ意味ニ於テサウ云フ労働組合
ガアツタ、政黨ハアレドモ特ニ労働者ノ爲
ニ之ヲ考ヘルト云フコトナク、又政府ニ於
テモ労働者ノ保護ノ爲ニ盡ス所少ク、而モ自
由主義ノ下ニ於テハ労働者ハ資本家ノ擇取
ニ端イデ、サウ云フ場合ニ自分ノ生活ヲ防
衛スルト云フ意味ニ於テサウ云フ労働組合
ガ出來タ、事ノ善惡シハ別トシテモ、其ノ
當時ハ必然的ノモノデアツタノデアリマス
ガ、サウ云フ時ニ勞資對立抗爭ト云フヤウ
ナモノヲ取締ツテ來タト云フヤウナ警察ノ
印象等ガ手傳ヒマシテ、兎ニ角労働者ニ對
シテハ警戒的ノ考へ方ヲ以ツテ、色々ナサ
ウ云フ風ニヤツテ戴キタイト思フノデア
リマス

ソレカラ事業場産報組織整備要項ノ中ニ
ハ、第四條カラ待遇改善ト云フ字句ガ削ラ
レテ居ル、是ハ産業報國會ノ單位産報ニ對
スル其ノ見本ノヤウナ會則例ノヤウナモノ
ヲ最初ニ作ツタ時ニハ、待遇改善ト云フノヲ
入レルノハ宜クナイト云フノデ、事業主側
カラ反対ガアツタノデスガ、其ノ反対ヲ押
切ツテ入レタコトニ付テハ意味ガアツタ
思フノデアリマス、然ルニ之ヲ削ラレタノ
ハドウ云フ譯デスカ

○持承政府委員 只今ノ御話ノヤウニ懇談
付テ自然影響シテ來ルノデハナイカト思フ
スウ云フコトヲ非常ニ強調サレテ居ルノデ
アリマス、私ハ此ノ際産業報國會ニ魂ヲ入
ス

トハ、斯ウ云フコトガ前提ニナツテ行キマスナラ
ヤルノデス、マア地方長官ガヤルノデアリ
アルシ、日本ノ内務行政ト云フモノハ大體
從來警察行政、警察的政治ダト言ハレル位
ニ、警察ノ署長ガ一番尖端トナツテヤルヤ
ニナツテ此ノ戰ヲ勝抜カウトシテ居ル今日ニ
ハ申シマセヌ、過去ニ於テハ色々オヤリニ
ナツタ、政府當局ノ御執リニナツタ手段方
法モ其ノ時ニ於テハ適切デアツタカト思フ
ハニアリマスガ、今日國民ハ上下共一丸ト
ナツテ此ノ戰ヲ勝抜カウトシテ居ル今日ニ
於キマシテハ、最早過去ニ於ケルガ如キサ
ウ云フ警戒心ヲ解イテ、信ヲ相手ノ腹中ニ
置クト云フ心構ヘデ之ニ對處致シマシタナ
ラバ、意外ニ早ク、今持ツテ居ル色々ナ缺
陷ヲ除去スルコトガ出來ルノデヤナイカト
思フ、ドウゾ總理大臣モサウ云フ御方針デ
アルヤウデアリマスマカラ、是ハ是非トモ
サウ云フ風ニヤツテ戴キタイト思フノデア
リマス

○西尾委員 ソレカラ先程塗本君ト武井次
官トノ間ノ質問應答ノ中ニ、次官ガ結局病
氣ニ罹ラナイ強イ身體ノ労務員ヲ今後作ツ
テ行カナケレバナラヌ、斯ウ云フコトヲ言
ハレタノデアリマス、ソレハ榮養ノ問題ヤ
ラ住宅ノ問題ヤラ色々アリマスガ、併シ是
ハ労働時間ニモ重要ナ關係ガアルノデアリ
マス、ヤハリ結核ニ罹リマスノハ疲勞シテ
居ル場合ガ一番罹リ易イ又疲勞シテ居ルト
云フコトガ、一旦感染シタ病菌ヲ益々蔓延セ
シムル結果ニナルノデアリマス、此ノ労働
時間ニ付キマシテモ長イ時間ヤツタカラト
テ必ズシモ能率ガ上ルトハ考ヘラレナイト
云フコトモ、凡ソ専門家ノ定論ニナツテ居
ルノデアリマス、然ルニ一昨年ニ於キマシ
テハ十一時間以上ニ労働時間ヲ延長スルコ
トハ、普通ノ場合出來ナイヤウニナツテ居
シテ居ルノデアリマスガ、是ハ寧ロ一定ノ
限度ニマデ労働時間ヲ短縮スル、サウシテ
シテ居ルノデス、是ハドウ云フコトニナツテ
居ルノデスカ

○持承政府委員 御説ノヤウニ總動員法ニ
基キマス工場事業場就業時間制限令ニ依リ
マシテ、特殊内容、即チ金屬其ノ他軍需產業
等ニ於キマシテハ十二時間——只今十一時間
ト言ハレマシタガ十二時間以内ヲ以テ労働
時間ト致シテ居リマス、併シ其ノ勅令ノ中
ニハ緊急已ムヲ得ザル場合ニ於キマシテハ
之ヲ或ル程度延長シ得ルト云フ但書ガゴザ
イマス、ソコデ只今ノ御話ノ問題ハ、恐ラ

ヒマスガ、其ノ造船業ニ於ケル就業時間制限ノ問題ト思
シタト云フ意味デハゴザイマセヌ、是ハ昨
年丁度其ノ頃船舶ガ非常ニ不足致シマシテ、
殊ニ米ノ輸送ニ因ルト云フヤウナ狀況デア
リマシタコトガ一ツト、モウ一ツハ軍、殊
ニ海軍ノ方ノ造船ノ關係モ非常ニ逼迫シテ
居ルト云フヤウナ特ニ強イ御希望ガアリマ
シタノデ、ソコデ軍需品ノ製造ニ關係ノ深
イ造船ニ付キマシテハ十二時間ヲ一應徹廢
スル、併シソレハ關係大臣即チ陸海軍大臣
及ビ遞信大臣ノ證明アルモノニ限ル、サウ
云フモノハ國家トシマシテ非常ニ逼迫シテ
居リマシタカラ、已ムヲ得ズ但書ニ依ツテ
延長シ得ルト云フコトニ致シタノデアリマ
ス、併シ其ノ運用ニ於キマシテハヤハリ十
分ナル監督ラスル、例ヘバ或ル日十三時間
ナリ十四時間ヤツタ場合ニハ、翌日ニ或ル
程度ノ休憩時間ヲ設ケルトカ、或八月全體
トシテ休日ヲ設ケルトカ云フヤウニ一定
ノ指導方針ヲ關係府縣ニ示シマシテ、出來
得ル限り長時間ニ依ル惡影響ノナイヤウナ
方法ヲ執ツテ貰フヤウ之ヲ示シタ譯デアリ
マス、隨ヒマンシテ全般的ニ十二時間ヲ撤廢
シタ譯デハゴザイマセヌノデ、サウ云フ緊
急已ムヲ得ザルモノニ限ツテヤツタト云フ
コトヲ御承知願ヒタイト思ヒマス

マシテ之ヲ隔離治療スル、斯ウ云フ順序ニ
ナツテ居ルノデアリマスガ、ドウモ早期発
見ハ體力法或ハ結核豫防法等ニ於テ大體是
デ旨ク行クノデハナイカト思ヒマス、ソレ
カラ重症者ノ隔離治療モ今度ハ十万「べ」
ドニ於テ稍旨ク行クノデハナイカト思ヒ
マスガ、早期治療ト云フコトガ旨ク行カナ
イノデハナイカト思ヒマス、例ヘバ早期治
療ヲスルナラバ工場ニ働イテ居ル者ヲ休マ
セルト云フコトモ實際ニ於テハ必要ニナツ
テ来ルノデハナイカト思ヒマスガ、勞働者
側カラ言ツテモ、休ンデハ飯ガ食ヘナイシ、
又國家トシテモ休ンダ者ニ對シテ給料ノ保
證モ出来ナイ、ソンナ關係デ早期治療ハ相
當ムカシイト思ヒマス、之ヲ根本的ニド
ウシタラ宜イカト云フコトハ、今日此處デ
根本的ニ決マルベキ性質ノモノデハナイト
思ヒマスガ、唯一ツ可能ナコトハ結核病ニ
關スル限り、其ノ治療費ハ一定限度ヲ置イテ
テ、例ヘバ家族手當ノ場合ニ最高ヲ決メタ
ヤウナ工合ニ、一定限度ヲ置イテ、ソレ以
下ノ收入ニ依ツテ生活ヲシテ居ルモノハ全
部之ヲ無料ニスル、少クモ之ヲ半額ニスル、
サウシテ其ノ部分ハ政府ガ負擔スルト云フ
ヤウニ出來ナイモノデアリマセウカ、之ヲ
御伺ヒ致シマス

設ヲスルコトノ大切ナルコト是亦御話ノ通
リデアリマス、此ノ點ニ付キマシテハ健康
保険等ノ制度ニ於キマシテモ此ノ點ニ關ス
ル規定モアリマスルシ、又之ニ必要ナル施
設モ段々ト設ケツツアル實情デアリマス、
又教員ノ保養所ナドニ付キマシテモ、主ト
シテ此ノ程度ノ者ヲ入レル計畫ヲ立テ居
ル譯デアリマス、工場ニ從事スル者ニ付キ
マシテモ左様ナ方ニ進マナケレバナラスト
思ツテ居リマス、而シテ結核ノ治療ニ要ス
ル費用ニ付キマシテハ、一方ニ於テハ體力
法ニ於テ徹底的ニ其ノ療養ヲセシムル場合
ニ於テ、家庭ノ事情等ニ依リマシテ資産ノ
困難ナル者ニ付テハ之ヲ補給スル途モ開カ
レテ居リ、今回モ若干ノ豫算ヲ計上シテ居
ルノデアリマス、左様ニ致シマシテ大體不
十分ナガラモ其ノ方面ニ向ツテ政府ハ力ヲ
注イデ居ルト云フコトガ言ヘルト思ヒマス、
寧ロ此ノ際ニ更ニ進ンデ多數ノ勞務者ヲ使
用シテ居リマスル事業主、工場主等ノ方面
ニ於キマシテモ一層ノ協力ガ望マシイト思
ツテ居ル次第アリマス

當上ツテ居ルノデハナイカト豫想セラレ
ノデアリマス、斯ウ云フ猛威ヲ揮ツテ居ル
結核ヲ退治スル爲ニハ、今ノ體力法ノ程度
デハ、是ハ甚ダ言ヒ過ギ知レマセヌガ、
是ハ申譯的ノモノデアツテ、眞ニ之ニ依ツ
テ結核ヲ防止スルト云フコトハ出來ナイノ
デハナイカ、此ノ點ニ於テモ相當思ヒ切ツ
テ——私ノ言フ無料ニスルトカ、半額ニス
ルト云フノハ相當思ヒ切ツタヤウデアリマ
スケレドモ、寧口此ノ思ヒ切ツタコトヲヤ
ルノデナケレバ出來ナイノデハナイカ、是
ハ十分ニ御研究又御決意ヲ御願ヒ致シテ置
キマス

要綱ノ基調ニ變化ノナイコドハ無論デアリ
マス、具體的ナ色々ノ數字ヲ擧ゲテ目標ガ
示シテアリマスガ、是等ノ點ニ付キマシテハ
私共モ最近色々研究ヲ重ネテ居ルノデアリ
マス、御承知ノ如ク昭和十二年ト十三年ノ
出生率ヲ比較シマシテモ、約二十五万ノ出
生減ガアルノデアリマスルガ、又今日斯ク
ノ如キ大戰爭ヲ遂行シテ居ル結果トシマシ
テ、ドウ云フ風ニ人口ノ面ニ其ノ影響ガ現
ハレテ來ルカト云フコトニ付キマシテハ、
色々研究ヲ重ネテ居ルノデアリマス、歐洲
戰爭ノ後ニ於キマシテモ、戰爭ノ直後ニ於
キマシテハ極メテ短い期間デアリマスガ出
生ガ増加シテ居リマス、併シナガラ其ノ傾
向ト云フモノハ永ク持続サレナイデ、間モ
ナク相當顯著ナル出生ノ減退ヲ見テ居ルヤ
ウナ状況デアリマス、日本ガ近イ將來ニ於
キマシテ此ノ戰争ノ結果ドウ云フヤウニ具
體的ノ影響ヲ人口ノ上ニ於テ受ケルカト云
フコトハ、中々豫想モ困難デアリマスガ、斯
クノ如キ外國ノ事例、或ハ十二年、十三年
ノ間ニ於ケル出生ノ減退等ノ經驗カラ考ヘ
マシテ、色々ノ研究ヲシ、而シテ是等ノ惡イ
方ノ影響ヲ最少限度ニ食止メテ、當初ノ人
口政策ノ目標ヲ達スル成爲ニ更ニドウ云フ
方面ニ力ヲ入レテ行クベキカト云フコトニ
付テ色々研究シテ居ルノデアリマシテ、其
ノ根本ノ精神ハ昨年定メラレマシタ其ノ要
綱全體ノ精神ニ出來ルダケ副フ、ソレヲ變
更シナイデモヤツテ行ケルト云フヤウナ目
標デ以テ、色々研究ヲシテ居ルヤウナ次第
デアリマス

シタヤウニ昨年ハ私ノ希望致シテ置イタ通
リ、全國ニ廻ツテ戴イテ、大變好イ結果ヲ
得テ居ルト思フノデアリマスガ、唯惜シム
ラクハ大臣級ノ人ニモ段々來テ戴イタノデ
接觸レナナイデ、高遠ナ理想ヲ説クト云フコ
トニ急ノ餘り、所謂勞働者自身ノ生活ニ直
アリマスガ、其ノ説ク所勞働者ノ生活ニ直
接觸レナナイデアリマスガ、唯惜シム
トニ急ノ餘り、所謂勞働者自身ノ生活ニ直
アリマスガ、其ノ説ク所勞働者ノ生活ニ直
接觸レナナイデアリマスガ、唯惜シム
ヤウデアリマシテ、此ノ點折角ノ御努力モ
ケト云フコトガアリマスカラ、ヤハリ今度
モ是非時間ヲ御作り下サイマシテ、各大臣
トモ増産政策ノ爲ニ勞働者ノ自覺ヲ促シ、
勞働者ヲ激勵スルト云フコトニ御努力ヲ願
ヒタイト思フノデアリマスガ、其ノ機會ニ
ハヤハリ君等ニ賴ムト詰リ求メルバカリデ
ハナク、政府モコンナニマデ諸君ノ爲ニヤ
ツテ居ルシングドト云フコトヲ勞働者ノ實感ニ
觸レルヤウニ、勞働者ノ實際生活ニ即シタ
引例ヲ以テヤツテ戴キタイト思ヒマス、小泉
厚生大臣ハ極メテ通俗的ナ御演説ヲ戴キマ
シタ爲ニ、其ノ點ニ於テハ非常ニ皆ビント
胸ニ應ヘテ喜シテ居ルヤウデアリマスガ、
其ノ他ノ人ハ必ズシモサウデナカツタヤウ
ニ思フノデアリマス、詰リ求メルバカリデ
ハナイ、右ノ手デ求メレバ又左ノ手デ與ヘ
ルト云フ氣構ヘデ一ツヤツテ戴キタイト思
ヒマス、

最後ニ私近來讀ミマシテ非常ニ胸ヲ打タ
レタ愉快ナ文獻ガアリマスカラ之ヲ一ツ紹
介致シマシテ、此ノ精神ヲ大イニ普及シテ
戴キタイト思ヒマス、ソレハ「ハイロット」
萬年筆會社ノ重役デアリマス渡邊旭氏ノ月
給制度ニ關スル意見デアリマス、其ノ中ノ

一節ノ「名譽本能下月給制度」下云ラ短イ文
ヲ一寸讀ンデ見マスカラ曹ク御許シヲ願ヒ
マズ「最後ニ第五ノ名譽本能ニ就テ述ベマ
ス、名譽本能ヲ満サセルノニハ、表彰狀ヲ
與ヘ、金一封ヲ出スコトバカリガ能デハア
リマセヌ、ソシナコトハ寧ロ未ノコトデズ、
勿論惡意コトデハナイ、結構ナコトデスカ
ラ大ニヤツテ宜シイノデスガ、根本ノ考
へ方ヲシツカリ擱ンデオク必要ガアリマス、
然レバ、根本ハドニアルカトイヒマスニ、
ソレハ勤勞アツテヨソ國ガ立ツノダトイフ
理念ニ徹スルコトデアリマス、ソノ理念ヲ
以テ彼等ヲ遇スルコトガ名譽本能ヲ完ウサ
セル眞ノ道デアリマス、蟲ケラ扱ヒ、所謂
職工扱ヒラシテオイテ、イクラ褒賞狀ニ立
派ナ文句ヲ書イテモ、ソレハ駄目デス、シ
ンカラ勞働ハ尊イモノ、勞働ヲ忌避スル民
族ニ興隆ハナイ、汗コソ何物ニモ優爾國ノ
寶ダト云フ確信ニ立ツテ彼等ヲ遇スルコト
ガ根本ナノデス、所が實際ノ工場事業場ヲ
見ルト、其處ハ人生ノ掃溜メダト云フコト
ニナツテハ居リマセヌカ、セメテ子供ニダ
ケハ青服ヲ着セタクナイ、職工渡世ダケハ
サセタクナイト云フ空氣ニナツテハ居マセ
ヌカ、斯カル空氣ノ儘今後五十年續ケデ御
覽ナサイ、日本ハ危イノデス、「ブランス」ノ
二ノ舞ヲセストモ限リマセヌ、國家產業ノ
重任ニ當ツテ居ル者ヲ所謂職工扱ヒニシテ
顧ミナイト云フ考へ方ハ逐ニハ國家ヲ亡ボ
ス極メテ危險ナ思想ト申サネバナリマセヌ、
先程申シマシタヤウニ「ムソリー」ハ「イ
タリ」ノ労働者ヲ祖國再興ノ戰士ト呼ビ
マシタ、決シテ職工扱ヒニシテ居ラスノデ
アリマス、又「ヒトラー」ハ民族興隆ノ爲ノ
崇高ナル奉仕ト呼ビマシタ、是又決シテ職

工部ヒヨシシテ居リヤセヌ、最近日本ハ漸ク産業戰士ト呼ブヤウニナリマシタ、此ノ三ツノ呼聲ヲ比べテ見テ下サイ、認識ノ度合ガヨク現ハレテ居ルノガ分リマス、產業戰士ト云フノが最モ低調デ前二者ニ比ベテ物足リナイ感ガシテナリマセヌ、丁度其ノ如ク日本ニ於テハ勞働ノ大切ナコトノ認識ガ低調ダト言ヘル思ヒマス、日本精神ノ本來ハ決シテソンナモノデハアリマセヌデシタ、畏多イコトデアリマスガ、上 皇室ニ於カセラレマシテハ、產業人ヲ大昔カラ大御寶ト呼バセ給ウテ居ラレルノデアリマス、寶ニ何トモ有難イコトノ極ミデアリマシテ、其ノ御仁愛ノ深サニハ感激ノ外ナインデアリマス、是ガ日本ノ本當ノ國振リナノデアリマス、此ノ大御寶ト呼バセ給フ大御心ニ至リマシテハ、モウ「ムゾリーニ」ノ表現モ「ヒトラー」ノ思想モ到底足元ニモ及ビマセヌ、是レ以上ノ認識ハ世界如何ナル國ニ參リマシテモ斷ジテアリマセヌ、此ノ大御寶ノ大御心ヲ體シテ彼等ヲ遇シマスコトガ、眞ニ名譽本能ヲ完了サセル根本道ナノデアリマス

臣ガ御出席ガナカツタノデ、一番後ニ廻シタノデアリマス、今西尾君ガ最後ニ色々申上ゲマシタ意味合ニ於キマシテ、私ハ此ノ際厚生省ニ於テ産業勳章ト云フモノヲ制定シテ戴キタイト思フノデアリマス、文化方面ニ於テハ既ニ文化勳章ガアリ、船員ノ方ニモソレニ匹敵スルヤウナモノガ出テ居ル、昨年陸軍デハ技術有功章ト云フモノヲ作ラレマシタ、又厚生省ニ於キマシテハ石炭増産ノ爲ニ厚生大臣徽章ト云フモノガ授ケラレマシタ、引續イテ金屬増産獎勵ノ爲ニ厚生大臣ノ同ジク大臣徽章ト云フモノガ授ケラレマシタ、沟ニ結構ナコトデアリマス、又今西尾君ガ申シマシタヤウニ昨年ノ夏ハ大臣初メ高橋大將等々ノ方々ガ全國ヲ遊説ナサイマシタコトハ、産業人トシテ沟ニ感激ノ外ハナイノデアリマス、サウ云フコトヲ屢々繰返シテヤツテ戴キタイノデアリマスガ、此ノ際思切ツテ一ツ産業勳章ヲ制定シテ戴キタイ、ソレハ唯單ニ增産運動ニ對スル表彰ト云フヤウナ意味合デナク、今ノ設ノ今次大東亞戰爭ニ、此ノ總力戰ニ參加致シテ居リマスル産業人ノ方面ニ對シテモ、其ノ功勞ニ報イル爲ニ、益、生產能率ヲ高メル爲ニ、彌ガ上ニモ國策ニ協力シテ職域奉公ニ邁進スルコトノ爲ニモ、此ノ機會ニ於テ産業勳章ヲ制定シテ貰フコトガ最モ時機ニ適シタコトデハナイカト思フノデアリマス、午前中非常ニ時間ヲ費シテ居リマスノデ是レ以上申上ガナクテモ意味ハ能ク御分リデアラウト思ヒマス

附加ヘテ一つ御伺ヒシテ御考慮ヲ煩ハシタノハ救護費ガ段々減額セラレテ居ルコトデアリマス、是ハ數年前カラ非常ニ問題ニナツテ、其ノ内容ハ一時十四年ノ十月カラ内容ヲ改善セラレタノデアリマスガ、今年ノ提出ニナリマシタ豫算書ヲ見マスト、又昨年ヨリ救護費ガ減ツテ居ル、ソレハ要底シタカラ費用ヲ少クシタト云フ意味デハ決シテナイト思フ、今日全國五万ノ方面委員ノ手ニ掛ツテ居ル要救護者ト云フモノハ二百數十万ニ達シテ居ル、而モ救護法ニ依ツテ、或ハ母子保護法ニ依ツテ救ハレテ居ル者ハ其ノ中ノ約一割ニシカ達シテ居ラヌノデアリマス、而モ其ノ額ト云フモノモ今ノ世情カラ見マシテ極メテ低額ノ救護費シカ出シシテ居ラヌノデアリマス、是ハモツトモツト救護スペキ人員モ殖ヤシテ行カナケレバナラズ、又救護ノ額ニ於キマシテモ増額スベキガ至當デハナイカト思フノニ、豫算書ノ上ニ於テ是ガ減額セラレテ居ルト云フコトハ、甚ダ遺憾ニ堪ヘナイノデアリマス、一ツ厚生大臣能ク此ノ點ハ御考慮下サシテ救護ノ徹底ヲ期シテ戴キタイト思ヒマス、外ニマダアルノデアリマスケレドモ、非常ニ時間ヲ費シテ居リマスカラ、此ノ二ツヲ大臣カラ御答辯ヲ願ヒマス

○小泉國務大臣 勤務者ノ勤労ノ尊イコトニ要スル費用ガ減ツタ譯デハアリマセヌ、尙ホ申スマデモナク此ノ費用ハ補充費トナシテ居リマスノデ必要ガ生ジタ場合ハ更ニ補充シ得ルコトニナツテ居リマス、更ニ又生活ノ實情ニ即シマシテ單價等モ上ゲル計畫ヲ進メツツアル狀況デゴザイマスノデ、大體御趣旨ノヤウニナツテ居ルト思ヒマス、此ノ點ヲ御諒承願ヒタイト思ヒマス

○武井(群)政府委員 救護費ノコトニ付キマシテ御尋ねガアリマシタノデ、數字ヲ指摘セラレテノコトデアリマスカラ一應御答ヘシテ置キマス、御承知ノ通り昨年ノ十月カラ醫療保護法ガ施行ニナリマシタノデ、從來救護費トシテ計上シテ居リマシタ分ノ中醫療保護法ニ當ル分ヲ別途ニ計上シタ譯デアリマシテ、總額ニ於キマシテハ救護

○武井(群)政府委員 教員保養所ハ御承知ノ通り文部省ノ所管ニナツテ居リマスノデ、私ガ御答ヘスルノハ適當デナイ譯デアリマスガ、地方長官ヲ致シテ居リマシタ時分ノ記憶ニ依リマスト、之ニ要スル費用ハ三分シテ、其ノ一ハ文部省、他ノ一ハ府縣費ヨリ、他ノ一ハ教員自身が出スト云フコトニナツテ居ル筈デアリマス、而モ施設ガツイ最近ノコトデアリマシテ、昨年漸ク此ノ保養所ニ關スル全國的ノ制度ガ出來タヤウナ状況デアリマスノデ、今各府縣ニ建テツツアルト云フ状況デアリマス、今御指摘ノヤウニ未ダ其ノ成績ノ舉ラヌ點ガ多々アル

ヤウニ思ヒマスガ、既ニ經營シテ居リマス
地方デハ相當ノ效果ヲ擧ゲテ、保養ノ成績
ハ宜イヤウニ存ジテ居リマス、併シナガラ
之ヲ以テ満足スペキデナイコトハ仰セノ通
リデアリマスルノデ、日本醫療團ニ於テ之
ヲ經營シタラドウカト云フ御尋ネノヤウニ
拜承致シタノデアリマスガ、只今ノ豫定ト
シマシテハ、折角文部省ガ始メタバカリノ
制度デアリ、殊ニ其ノ目的ハ教育者ノミノ
爲ノ施設デアリマスノデ、直チニ之ヲ日本
醫療團ニ統合スルト云フコトハ考ヘテ居ラ
ナイノデアリマス、併シナガラソレハ差
別待遇ヲスルト云フヤウナコトハ宜シクナ
イコトデアリマスノデ、出來ル限り此ノ方
面ニモ實際ニ於テ成績ノ擧リマスヤウニ何
カノ方法ニ依ツテ應援ヲ致シ、協力ヲスル
ト云フヤウナコトハ考ヘテ居ル譯デアリマ
シテ、斯様ニシテ此ノ制度モ旨ク參ルヤウ
ニ致シタイ、只今ノ所斯様ナ腹案ヲ持ツテ
居ル譯デゴザイマス

○加藤政府委員 無醫村ニ診療所ヲ設置ス
ガ具體的ノ方針ニ付テノ御尋ねデアリマシ
タガ、今御述べニナリマシタヤウナ、町ニ
ハ醫者ガ居ルガ、其ノ附近ニ醫者ノ居ナイ村
ガ二三アル、サシタル不便ヲ感ジナイト云
フヤウナ場合ニ其ノ村ニ診療所ヲ設ケマス
コトハ、理想カラ申シマスレバ成ベク行届
イテ醫者ヲ置キマスコトハ肝要カト存ジマ
スケレドモ、全國的ニ緩急ノ度ヲ見計ラヒ
マシテ、サウ云フ所ニ早速建テ得ル程度ニ
行キマスカドウカ、順序等ヲ考ヘタ上デ決
定スペキ問題デハナカラウカト存ズルノデ
アリマス

上デ 動カサレタ爲ニ再發シテドウニモナラ
カラ長時間ニ亘ツデ「コンクリート」ノ床ノ
上デ動カサレタ爲ニ再發シテドウニモナラ
ス
〔星島委員長代理退席、中井委員長代
理着席〕
歸ツテ來タイト思フガ中々許サレナカツ
タ、漸ク診斷ノ結果一旦歸省サセタグケデ
アルガ、此ノ際是非徵用令ヲ解除シテ貰ヒ
タイ、斯ウ云フ解除ノ手續ヲスルニ付テ是
亦容易デナイ、長ケレバ六箇月、其ノ位掛
ラナケレバ解除サレルヤウナ状態ニナラヌ
ノデアル、已ムヲ得ナイカラ一時先ヅ醫者
ノ診斷書デモ添ヘテ、缺勤届デ其ノ儘延バ
シテ貴フヨリ仕様ガナインデハナイカト云
フノガ現狀デアリマス、是等ニ付テハ厚生
省トシテ何等カモウ少シク簡便ナ方法ヲ以
テ——サウ云フ見損ツタモノハ澤山アルト思
ヒマスガ病氣ニナツテ、モウ立派ニ醫者ノ診
斷ヲ受ケテ居ルノデ、治ルト思ツタラ病院ニ
デモ入レテ、完全ニ治療シテヤラレルガ宜
シイ、サモナケレバ當然解放サルベキモノノ
デハナイカ、斯ウ考ヘルノデアリマスガ、
現在ノ規定カラ行ケバサウハ行カヌヤウデ
アリマスケレドモ此ノ點ニ付テ御考ヘラ承
ハツテ置キタイト思ヒマス
○武井(群)政府委員 御話ノヤウナ事例ハ
サウ多クアル譯デハナイト思ヒマスガ、絶無
トハ申上ゲ難イト思ヒマス、ト申シマスル
コトハ、何サマ徵用ノコトハツイ最近始メ
タノデ、而モ此處デ數ヲ申上ゲ兼ネマスケレ
ドモ、相當多數ノ人員ヲ急速ニ充足スル
ト云フ必要ニ迫ラレテ居リマスシ、一方之
ニ從事スル係員等ニモ實ハ不慣レナモノモ
相當アル譯デアリマス、ソレガ爲ニ實ハ笑
話デアリマスガ、徵用令書ヲ出シテ見タ所

ガ、實ハ女ダツタ、漢字ノ名前デアツタモ
ノデスカラ、戸籍面ノ間違ヒカラ女ガ徵用
サレタ、ソコデソレガ傳ヘラレテ、愈々政府
シテ、是ハ率直ニ申上ゲマスト、實情已ム
ヲ得ナカツタモノデアリマス、併シ此ノ儘
デ宜シイト云フコトハ毛頭ナイノデアリマ
ス、如何ニ急速ニ之ヲ要求スルト致シマシ
テモ、出來得ル限リ其ノ人達ノ身體検査等
ハ嚴重ニシナケレバナラヌコトハ申スマデ
モアリマセヌ、今日ノ實際ノヤリ方ハ、其
ノ主務大臣タル陸軍大臣又ハ海軍大臣ヨリ
厚生大臣ニ對シテ、是レヽノ徵用ニ對ス
ル要求ガ參リマス、厚生大臣ハソレヲ受取
ツテ相當調査致シマシテ、至當ト認ムル場
合ニ於テ、更ニ内閣總理大臣ニ協議スルコ
トニナツテ居リマス、其ノ上ニ府縣知事ニ
對シテ徵用ノ命令ヲ發スルト云フコトニナ
ツテ居ルノデアリマス、サウシテ府縣知事
ヨリ本人ニ對シテ何月何日マデニ出頭ヲ命ズ
ルト云フコトニナルノデアリマスガ、實ヘ其ノ時日
ト云フモノガ極メテ短イノデアリマス、此ノ點
ハ詳細ニ申上ゲマセヌガ、御質察ヲ願ヒタ
イト思ヒマス、サウシテ赤紙ニ等シイ取扱
ヒヲスル譯デアリマスノテ、斯様ニ鄭重ナ取
扱フ致シテ居ル譯デアリマス、併シ其ノ後日
ノ實施ノ状況ヲ見マスト、兎モ角急イダガ爲
云フノデ、此ノ陸軍、厚生、内閣ノ三者ノ間
ニ色々ト不十分ノ點モアリ、是正スベキ點モ
アル譯デアリマスノデ、只今ノ所事務ノ手
續ヲモ少し簡略ニスル必要ガアルグラウト
ス、ソコデ今度ハ解除ノ點デアリマスガ、

一タビ左様ニ鄭重ニ扱ツタモノデアリマスノデ、之ヲ解除スル場合ニ於キマシテモ、鄭重ニスルコトハ理ノ當然デアルト思フノデアリマスガ、併シナガラ事實問題トシテ常識デ考ヘテ見テモ、已ムヲ得スト云フヤウナモノヲ從前ノ手續通リヤルノへ宜シクナイデアラウト云フコトデ、目下此ノ解除ノ事務ノ簡捷方ニ付キマシテ研究中デアリマシテ、其ノ一部ハ近ク地方長官ニモ委任スルト云フヤウナ考ヘデ進ンデ居リマス、併シマダ此ノコトハ正式ニ出ルマデニハツキリ

ス、戰時デアリマスルガ、段々少クナル傾向ヲ呈シテ居リマシテ、其ノ點實ハ甚ダ快ク感ジテ居ルノデアリマス、日本ノ青年ノ緊張シタル態度ガ少クトモ壯丁検査マデハ花柳病感染ノ機會ヲ避ケテ居ルト存ジマス、併シ殷賑產業等ノ方面、又其ノ他ニ於キマシテ、斯ウ云フ時代デゴザイマスカラ、感染ノ機會、詰リ感染ノ源トナル業態者ノ相當ノ存在ガゴザイマスノデ、或ハサウ云フ所カラ感染ガ好マシクナイ方面ニモ起ルカト存ジマス

アリマスルカラ、政府當局ニ於カレマシテハ徹底的ニ御盡力アランコトヲ冀フ者デアリマス、以上ヲ以テ私ノ質問ヲ打切りマス。○中井委員長代理　野方君

○野方委員　同僚諸君ヨリ有益ナル御質問ガアリマシテ、茲ニ多ク論ズル必要ハナイノデアリマスルガ、結核問題ニ付テ一寸車上ゲタイ、結核ハ不治ノ疾病ナリトシテ居リマスルガ、將來科學的療法、免疫療法ニ依ツテ治療セシメルコトガ出來ルト思フ、是ハ民間ニ於キマシテモ相當ノ研究者ガアリ

スル
ルノデアリマスカラ、將來耳ノ肥エタ醫者ヲ澤山採用シテ、一日ニ五十五人、精々百人ニ限定シテ、十分ナル診斷ヲサセナケレバ、早期診斷ハ困難デアリマス、又早期診斷が出来マシタナラバ、次ハ治療デアリマスルガ、今回ノ營團ハ結核ガ主ナルモノト考へマス、仍テ都會ノ病院等ヲ併合スルヨリハ、結核病院ヲ建テテ、結核ノ完全ナル治療ヲ

シタコトハ申上ガラレマセヌケレドモ、左様ナ狀況デ、或ル程度ノモノハ之ヲ地方長官ニ委任シテ實地ニ即スルヤウニシ、國民ヲシテ徵用ノ本義ヲ誤ラセナイヤウニ致シタイ、斯様ニ考ヘテ居リマスコトヲ御諒承願ヒタイト思ヒマス

○田中(邦)委員 徵用ノコトニ付テハドウゾ只今ノ御意見ノヤウナコトガ促進出來ルヤウニ御願ヲ申ス一人ニアリマス

次ニ花柳病ノコトニ付テ承ハリマス、今日花柳病ハ一般ニハ相當減少シツツアル傾向デアルト云フコトヲ承ハツテ居リマスルガ、併シ遺憾ナガラ殷賑產業方面デハ増加ノ傾向デアルヤウニ統計ノ上ニ現ハレテ居ルノデアリマス、私ハ其ノ外ニ大事ナル國家ノ干城タル兵士ニ、而モ大陸ニ渡ラナイ内ニ花柳病ニ罹ツテ入院シテ居ル者ガ相當アルコトヲ、慰問等ニ於テ實地ニ見マシテ、甚ダ寒心ニ堪ヘナイモノガアルノデアリマス、是等ノ原因ハドウ云フ所ニアルノデアリマスカ、厚生省ノ見地ヲ一つ伺ツテ置キタイト思ヒマス

○田中(邦)委員 只今ノ御説明テハ飢渴
服出來ナイト思ヒマスルガ、是等ノコトハ
御考ヘニナラヌモノニアリマセウカ、詰リ
賣笑婦ミタイナ者若シクハ藝妓ミタイナ
者、是等ノ連中ヲ檢徽スル醫者トノ情實開
係ヨリ、本當ノ保菌者ヲバ大目ニ看過シテ
置クト云フヤウナ扱ヒ方ヲサレツツアルノ
ガ最大原因デヤナイカト思ハレマスガ、當
局デハサウ御考ヘニナツテ居リマセウカ

リマシテ、免疫療法ノ點ニ付キマシテ少シ
ク進ンダル考ヘヲ持ツタ者モアルノデ、當
局ニ陳情シタノヲ見タコトモアリマス、是
等ハ十分再検討スル必要ガアルト思ヒマス、
又はガイケナケレバ政府ハ直チニ廢止ヲ命
ズル權能ガアルノデアリマシテ、恐ラクハ簡
單ナル所ニ偉大ナル發見ガアルノデ、此ノ免
疫療法ナドハ將來非常ナ效果ガアルト信ジ
テ居リマスカラ、尙ホ特ニ再検討ヲ願ヒタ
イトイ思ヒマス、又此ノ結核ヲ撲滅スルニ付
キマシテハ、今日ノ方法デハ容易ニ出來ナ
イ、今度醫療團ガ出來テ、大分大規模ニナ
リマスルケレドモ、中々困難デアル、早期
診斷、早期治癒ト云フコトガ容易ニ出來得
ナイ、殊ニ今日ハ「レントゲン」ヲ以テ診斷ス
ル方法ヲ執ツテ居リマスガ、「レントゲン」
診斷ハ病勢ガ進ンダ時ニ初メテ出來ルノデ
アツテ、古來用ヒル所ノ聽診ニ依ツテ本當
ノ初期ノ診斷ガ出來ルノデアリマスカラ、
今ノヤウナ一日ニ二百人、三百人ヲ診ルト
云フ形式ヲ取ツタノデハ何ノ效果モナイ、
少クトモ五十人位ニ限定シテ、靜カナ部屋

〔中井委員長代理退席、塚本委員長代理着席〕

若シはディカヌ場合ニ於キマシテハ、結核保険ヲ作ル、是ハ私ノ持論デアリマスルガ、我ガ國ニハ百五十万ノ患者ガアル、是ハ一千圓掛ツテモ、十五億ノ金ヲ要スルノデアリマスカラ、中々營團ヤ其ノ他ノ方法デハ出來ヌ、仍テ結核保険ノ必要ガアルト申フガ、政府當局ハ結核保険ヲ作ル御意思ガアリヤナシヤヲ御伺ヒシマス

○高野政府委員 結核ノ診療法ノ研究ニ付キマシテハ、當局ト致シマシテモ十分注意ヲ致シテ居リマシテ、願ハクバ日本ノ醫學界カラ結核ノ治療豫防等ノ新研究ノ現ハレコトヲ待望シテ居ル次第ゴザイマス、有望ナルモノガゴザイマスレバ之ヲ何トカシテ助長シテ行キタイ考ヘデゴザイマス、斯様ナ事柄ヲ政府直接ニ致シマスルコトハ稍々困難ガアリマスルノデ、結核豫防會ノ研究所ニ於キマシテ左様ナコトヲ掌ラセヨウト考ヘテ居リマシテ、今回ノ豫算ニ於キ

○高野政府委員　壯丁ノ検査ニ依リマス
ト、花柳病ノ感染者ハサウ多クゴザイマセ

○西中(邦)委員 花柳病ハ言フマデモナク
人口ノ増殖ニハ非常ナ影響ヲ及ボスモノデ

ニ十分ニ診断セシメル方が宜イ、昔ハ聽診ニ勘能ナ者ヲ以テ名醫トシテ居ツタガ、今

診等ニ付テ研究者ガ少クナツタ、斯ウ云フ事ニコトガ段々醫療ノ衰退シタ原因トナツテ居ルノデアリマスカラ、將來耳ノ肥エタ醫者ヲ澤山採用シテ、一日ニ五十人、精々百人ニ限定シテ、十分ナル診斷ヲサセナケレバ、早期診斷ハ困難デアリマス、又早期診斷ガ出来マシタナラバ、次ハ治療デアリマスルガ、今回ノ營團ハ結核ガ主ナルモノト考ヘマス、仍テ都會ノ病院等ヲ併合スルヨリハ、結核病院ヲ建テ、結核ノ完全ナル治療ヲスル
〔中井委員長代理退席、塚本委員長代理着席〕
若シはイカヌ場合ニ於キマシテハ、結核保險ヲ作ル、是ハ私ノ持論デアリマスルガ、我ガ國ニハ百五十万ノ患者ガアル、是ハ一人千圓掛ツテモ、十五億ノ金ヲ要スルノデアリマスカラ、中々營團ヤ其ノ他ノ方法ヲハ出來ヌ、仍テ結核保險ノ必要ガアルト思フガ、政府當局ハ結核保險ヲ作ル御意思ガアリヤナシヤヲ御伺ヒシマス
○高野政府委員 結核ノ診療法ノ研究ニ付キマシテハ、當局ト致シマシテモ十分注意ヲ致シテ居リマシテ、願ハクバ日本ノ醫學界カラ結核ノ治療豫防等ノ新研究ノ現ハレルコトヲ待望シテ居ル次第ゴザイマス、有望ナルモノガゴザイマスレバ之ヲ何トカシテ助長シテ行キタイ考ヘデゴザイマス、斯様ナ事柄ヲ政府直接ニ致シマスルコトハ、尤ト考ヘテ居リマシテ、今回ノ豫算ニ於キ

ナ次第デゴザイマス、若シ有效ナル又望マシキ研究ガゴザイマスルナラバ、左様ナ方面ニ於テ調査致シマシテ、之ヲ十分國民保健ノ上ニ活用シ得ルコトヲ期待シテ居ル次第デゴザイマス、早期ノ診斷ニ付キマシテ、從來ノ診斷ノ技能ニ熟達シタ者ヲ置イテ活用スペキデアルト云フ御意見モ御尤モト存マシテ、誤リナキヲ期シタイト存ジマス、今回行ヒマスル集團檢診ノ如キ場合ニ於キマシテハ、其ノ診斷ニ對シテ遺漏ノナイヤウニ努メタイト存ジテ居リマス。

結核保險ト云フ問題ハ當局ニ於キマシテモ考究中デゴザイマスルガ、尙ホは未ダ

結論ニハ達シテ居ラヌ狀態デアリマス。

○野方委員 今回ノ醫療法案ハ重大ナル案

デアリマシテ、之ニ對シマシテハ種々ノ意見ガ交換サレテ居リマスルガ、開業醫ト醫

療團トノ將來ノ衝突ハ、是ハドウシテモ免

レ得ルコトガ出來ヌノデアリマスカラ、政

府ノ聲明ガアルノデアリマスガ、私ハ此

ノ衝突ヲ惧レテ居リマスカラ、尙ホ一層御

注意ヲ願ヒタイト思フノデアリマス、今回

ノ健康保險ノ改正ハ極メテ有意義デアリマ

シテ、満足ノ意ヲ表シマス、唯私ハ診療契

約ニ對シテハ、今回改組サレテ權威アル醫

師會が出來マスカラ、總テ此ノ醫師會ヲ通

ジテ診療契約ヲスルコトヲ御願ヒ致シマス

ガ、當局ノ御意見ヲ伺ヒマス。

○木村(清)政府委員 今度ノ改正法施行ノ

曉ニ於キマシテハ、社會保健上最モ要望セ

ラレテ居ル所ノ保險者ト醫者ノ關係ヲ劃一

統制スルト云フ見地カラ致シマシテ、從來

ノ保險者ト醫師會トノ自由契約ニ委セラレ

マセヌ、隨テ保險者ガ異ナル毎ニ其ノ契約

ノ内容ヲ異ニスルト云フ狀況ヲ一掃スル爲

ニ、保險者ト醫者トノ關係ヲ行政官廳トシテ主務大臣ガ之ヲ決定スルト云フ方途ニ出

テ居ルノデアリマス、併シナガラ其ノ實際

ノ實質上ノ運行ニ付キマシテハ、大體從來

通リニ尙ホ改善スペキモノハ改善シマスガ

アリマスカラ、其ノ意味ニ於キマシテハ大

體從來ト餘リ大差ナイ方法デヤツタ方ガ宜

イノデハナカト考ヘテ居リマス。

○野方委員 保險醫ノミナラズ科學者ニ對ス

ルガ、是ハ保險醫ノミナラズ科學者ニ對ス

ル希望デアリマスガ、府縣ニ於キマシテモ、

衛生課長等ハ三等以上ノ昇給が出來ナ、

少クトモ勅任官ニナレルヤウナ途ヲ開クコ

トガ望マシイ、勿論地方ノ保險醫ハ十數年

勤續シテ隨分保險ノコトニ精通シテ居ル、

殊ニ保險ノ事業ハ給付ト異ナルノデアリマ

家族ニ延長シ、其ノ者ニ保險給付ヲ與ヘナ

ケレバナラスト存ジマス、現在中產階級タ

ル商業者ハ殆ド沒落ノ狀態ニナツテ居ル、

ドウシテモ社會保險ニ依ツテ致サナケレバ

ウカト思ヒマスケレドモ、關聯ノアルコノ

デモアリ、又屢々當席ニ於キマシテ文部省ト

専門學務局長ヨリ御答ヘシタコトデアリマ

スノデ、其ノ趣旨ヲ御取次致サウト思ヒマ

ス、國民醫療法ノ改正ニ伴ヒ、醫育ノ刷新

ト云フコトハ最モ必要ナコトデアリマスノ

○武井(群)政府委員 是ハ文部省ノ所管ニ

ナリマスノデ、私カラ御答ヘスルコトハド

大東亞共榮圈ノ確立ニ際シマシテ、少クモ一

萬人ノ醫者ガ要スルノデ、斯ウ云フ醫者ガ

共ダケノ考ヘ方デハ早急ニハ解決出來ナイ

ト思ヒマスケレドモ、サウ云フコトヲ考ヘテ行キ

ゲテ置キマス。

○野方委員 私ハ此ノ際社會保險ノ擴大強

化ヲ要求スル一人デアリマス、殊ニ健康保

險ハ今非常ニ擴大サレテ居ルガ、之ヲ尙ホ

家庭ニ延長シ、其ノ者ニ保險給付ヲ與ヘナ

ケレバナラスト存ジマス、現在中產階級タ

ル商業者ハ殆ド沒落ノ狀態ニナツテ居ル、

ドウシテモ社會保險ニ依ツテ致サナケレバ

ウカト思ヒマスケレドモ、關聯ノアルコノ

デモアリ、又屢々當席ニ於キマシテ文部省ト

専門學務局長ヨリ御答ヘシタコトデアリマ

スノデ、其ノ趣旨ヲ御取次致サウト思ヒマ

ス、國民醫療法ノ改正ニ伴ヒ、醫育ノ刷新

ト云フコトハ最モ必要ナコトデアリマスノ

○武井(群)政府委員 是ハ文部省ノ所管ニ

ナリマスノデ、私カラ御答ヘスルコトハド

大東亞共榮圈ノ確立ニ際シマシテ、少クモ一

萬人ノ醫者ガ要スルノデ、斯ウ云フ醫者ガ

共ダケノ考ヘ方デハ早急ニハ解決出來ナイ

ト思ヒマスケレドモ、サウ云フコトヲ考ヘテ行キ

ゲテ置キマス。

○野方委員 私ハ此ノ際社會保險ノ擴大強

化ヲ要求スル一人デアリマス、殊ニ健康保

險ハ今非常ニ擴大サレテ居ルガ、之ヲ尙ホ

家庭ニ延長シ、其ノ者ニ保險給付ヲ與ヘナ

ケレバナラスト存ジマス、現在中產階級タ

ル商業者ハ殆ド沒落ノ狀態ニナツテ居ル、

ドウシテモ社會保險ニ依ツテ致サナケレバ

ウカト思ヒマスケレドモ、關聯ノアルコノ

デモアリ、又屢々當席ニ於キマシテ文部省ト

専門學務局長ヨリ御答ヘシタコトデアリマ

スノデ、其ノ趣旨ヲ御取次致サウト思ヒマ

ス、國民醫療法ノ改正ニ伴ヒ、醫育ノ刷新

ト云フコトハ最モ必要ナコトデアリマスノ

○野方委員 私ハ此ノ際社會保險ノ擴大強

化ヲ要求スル一人デアリマス、殊ニ健康保

險ハ今非常ニ擴大サレテ居ルガ、之ヲ尙ホ

家庭ニ延長シ、其ノ者ニ保險給付ヲ與ヘナ

ケレバナラスト存ジマス、現在中產階級タ

ル商業者ハ殆ド沒落ノ狀態ニナツテ居ル、

ドウシテモ社會保險ニ依ツテ致サナケレバ

ウカト思ヒマスケレドモ、關聯ノアルコノ

デモアリ、又屢々當席ニ於キマシテ文部省ト

専門學務局長ヨリ御答ヘシタコトデアリマ

スノデ、其ノ趣旨ヲ御取次致サウト思ヒマ

ス、國民醫療法ノ改正ニ伴ヒ、醫育ノ刷新

ト云フコトハ最モ必要ナコトデアリマスノ

○野方委員 私ハ此ノ際社會保險ノ擴大強

化ヲ要求スル一人デアリマス、殊ニ健康保

險ハ今非常ニ擴大サレテ居ルガ、之ヲ尙ホ

家庭ニ延長シ、其ノ者ニ保險給付ヲ與ヘナ

ケレバナラスト存ジマス、現在中產階級タ

ル商業者ハ殆ド沒落ノ狀態ニナツテ居ル、

ドウシテモ社會保險ニ依ツテ致サナケレバ

ウカト思ヒマスケレドモ、關聯ノアルコノ

デモアリ、又屢々當席ニ於キマシテ文部省ト

専門學務局長ヨリ御答ヘシタコトデアリマ

スノデ、其ノ趣旨ヲ御取次致サウト思ヒマ

ス、國民醫療法ノ改正ニ伴ヒ、醫育ノ刷新

ト云フコトハ最モ必要ナコトデアリマスノ

○野方委員 私ハ此ノ際社會保險ノ擴大強

化ヲ要求スル一人デアリマス、殊ニ健康保

險ハ今非常ニ擴大サレテ居ルガ、之ヲ尙ホ

家庭ニ延長シ、其ノ者ニ保險給付ヲ與ヘナ

ケレバナラスト存ジマス、現在中產階級タ

ル商業者ハ殆ド沒落ノ狀態ニナツテ居ル、

ドウシテモ社會保險ニ依ツテ致サナケレバ

ウカト思ヒマスケレドモ、關聯ノアルコノ

デモアリ、又屢々當席ニ於キマシテ文部省ト

専門學務局長ヨリ御答ヘシタコトデアリマ

スノデ、其ノ趣旨ヲ御取次致サウト思ヒマ

ス、國民醫療法ノ改正ニ伴ヒ、醫育ノ刷新

ト云フコトハ最モ必要ナコトデアリマスノ

○野方委員 私ハ此ノ際社會保險ノ擴大強

化ヲ要求スル一人デアリマス、殊ニ健康保

險ハ今非常ニ擴大サレテ居ルガ、之ヲ尙ホ

家庭ニ延長シ、其ノ者ニ保險給付ヲ與ヘナ

ケレバナラスト存ジマス、現在中產階級タ

ル商業者ハ殆ド沒落ノ狀態ニナツテ居ル、

ドウシテモ社會保險ニ依ツテ致サナケレバ

ウカト思ヒマスケレドモ、關聯ノアルコノ

デモアリ、又屢々當席ニ於キマシテ文部省ト

専門學務局長ヨリ御答ヘシタコトデアリマ

スノデ、其ノ趣旨ヲ御取次致サウト思ヒマ

ス、國民醫療法ノ改正ニ伴ヒ、醫育ノ刷新

ト云フコトハ最モ必要ナコトデアリマスノ

○野方委員 私ハ此ノ際社會保險ノ擴大強

化ヲ要求スル一人デアリマス、殊ニ健康保

險ハ今非常ニ擴大サレテ居ルガ、之ヲ尙ホ

家庭ニ延長シ、其ノ者ニ保險給付ヲ與ヘナ

ケレバナラスト存ジマス、現在中產階級タ

ル商業者ハ殆ド沒落ノ狀態ニナツテ居ル、

ドウシテモ社會保險ニ依ツテ致サナケレバ

ウカト思ヒマスケレドモ、關聯ノアルコノ

デモアリ、又屢々當席ニ於キマシテ文部省ト

専門學務局長ヨリ御答ヘシタコトデアリマ

スノデ、其ノ趣旨ヲ御取次致サウト思ヒマ

ス、國民醫療法ノ改正ニ伴ヒ、醫育ノ刷新

ト云フコトハ最モ必要ナコトデアリマスノ

○野方委員 私ハ此ノ際社會保險ノ擴大強

化ヲ要求スル一人デアリマス、殊ニ健康保

險ハ今非常ニ擴大サレテ居ルガ、之ヲ尙ホ

家庭ニ延長シ、其ノ者ニ保險給付ヲ與ヘナ

ケレバナラスト存ジマス、現在中產階級タ

ル商業者ハ殆ド沒落ノ狀態ニナツテ居ル、

ドウシテモ社會保險ニ依ツテ致サナケレバ

ウカト思ヒマスケレドモ、關聯ノアルコノ

デモアリ、又屢々當席ニ於キマシテ文部省ト

専門學務局長ヨリ御答ヘシタコトデアリマ

スノデ、其ノ趣旨ヲ御取次致サウト思ヒマ

ス、國民醫療法ノ改正ニ伴ヒ、醫育ノ刷新

ト云フコトハ最モ必要ナコトデアリマスノ

○野方委員 私ハ此ノ際社會保險ノ擴大強

化ヲ要求スル一人デアリマス、殊ニ健康保

險ハ今非常ニ擴大サレテ居ルガ、之ヲ尙ホ

家庭ニ延長シ、其ノ者ニ保險給付ヲ與ヘナ

ケレバナラスト存ジマス、現在中產階級タ

ル商業者ハ殆ド沒落ノ狀態ニナツテ居ル、

ドウシテモ社會保險ニ依ツテ致サナケレバ

ウカト思ヒマスケレドモ、關聯ノアルコノ

デモアリ、又屢々當席ニ於キマシテ文部省ト

専門學務局長ヨリ御答ヘシタコトデアリマ

スノデ、其ノ趣旨ヲ御取次致サウト思ヒマ

ス、國民醫療法ノ改正ニ伴ヒ、醫育ノ刷新

ト云フコトハ最モ必要ナコトデアリマスノ

○野方委員 私ハ此ノ際社會保險ノ擴大強

化ヲ要求スル一人デアリマス、殊ニ健康保

險ハ今非常ニ擴大サレテ居ルガ、之ヲ尙ホ

家庭ニ延長シ、其ノ者ニ保險給付ヲ與ヘナ

ケレバナラスト存ジマス、現在中產階級タ

ル商業者ハ殆ド沒落ノ狀態ニナツテ居ル、

ドウシテモ社會保險ニ依ツテ致サナケレバ

ウカト思ヒマスケレドモ、關聯ノアルコノ

デモアリ、又屢々當席ニ於キマシテ文部省ト

専門學務局長ヨリ御答ヘシタコトデアリマ

スノデ、其ノ趣旨ヲ御取次致サウト思ヒマ

ス、國民醫療法ノ改正ニ伴ヒ、醫育ノ刷新

ト云フコトハ最モ必要ナコトデアリマスノ

○野方委員 私ハ此ノ際社會保險ノ擴大強

化ヲ要求スル一人デアリマス、殊ニ健康保

險ハ今非常ニ擴大サレテ居ルガ、之ヲ尙ホ

家庭ニ延長シ、其ノ者ニ保險給付ヲ與ヘナ

ケレバナラスト存ジマス、現在中產階級タ

ル商業者ハ殆ド沒落ノ狀態ニナツテ居ル、

ドウシテモ社會保險ニ依ツテ致サナケレバ

ウカト思ヒマスケレドモ、關聯ノアルコノ

デモアリ、又屢々當席ニ於キマシテ文部省ト

専門學務局長ヨリ御答ヘシタコトデアリマ

スノデ、其ノ趣旨ヲ御取次致サウト思ヒマ

ス、國民醫療法ノ改正ニ伴ヒ、醫育ノ刷新

ト云フコトハ最モ必要ナコトデアリマ

ジ居リマス、殊ニ數年前ヨリ復活シテ居リマスル高等学校ノ理科ノ志望者等モ、今年ヨリハ醫科大學ノ方ニ進ムコトニナツテ居リマスノデ、是等ガ卒業シマシタ曉ニ於キマシテハ、著シキ不足ハ感ジナイダラウト思ヒマス、併シナガラ仰セノヤウニ大東亞共榮圈ヲ控ヘテノコトデアリマスノデ、醫師ノ養成機關ニ付テハ、先程申上ゲタヤウニ、閣僚竝ニ文部省内ノ委員會ニ於テ、十分之ニ對處スル案モ拵ヘルコト期待シテ居ル譯デアリマス

○野方委員 私ノ質問ハ終リマス

○塚本委員長代理 ソレデハ暫時休憩致シマス

午後四時休憩
午後四時開議

○紫安委員長 休憩前ニ引續キ開會致シマス、藤生君ニ申上ゲマス、陸軍ノ政府委員ガオイデニナツテ居リマスカラ、陸軍ニ關スルコトカラ御質問ヲ願ヒマス

○藤生委員 私ハ主トシテ國民體力法竝ニ之ニ關聯スル一般體育問題、武道問題ナドニ付テ極メテ概略的デアリマスガ、文部厚生兩當局ニ御尋ね致シタイト思ツテ居リマスガ、今委員長カラ御要求モアリマシタノデ、陸軍ノ方ニ關係スルコトカラ御尋ネシテ見タイト思ヒマス、是カラ私ガ御尋ネスルコトハ陸軍省バカリデナク厚生省ニモ、文部省ニモ關係ガアルノデアリマスカラ、ソレド御答辯ヲ願ヒタイト思ヒマス

武道獎勵振興ニ付キマシテハ、第七十三議會ニ於テ衆議院ハ院議ヲ以テ既ニ是ガ獎勵ノコトニ付テハ決定致シテ居リマス、其ノ具體策ニ付キマシテモ、ソレド建議提

案致シマシテ、其ノ方策ヲ進言致シテ居ルノデアリマス、ソレデアリマスカラ、政府ハ衆議院ノ建議提案ニ對シマシテハ、所謂居リマスノデ、是等ガ卒業シマシタ曉ニ於キマシテハ、著シキ不足ハ感ジナイダラウト思ヒマス、併シナガラ仰セノヤウニ大東亞共榮圈ヲ控ヘテノコトデアリマスノデ、醫師ノ養成機關ニ付テハ、先程申上ゲタヤウニ、閣僚竝ニ文部省内ノ委員會ニ於テ、十分之ニ對處スル案モ拵ヘルコト期待シテ居ル譯デアリマス

○野方委員 私ノ質問ハ終リマス

○塚本委員長代理 ソレデハ暫時休憩致シマス

午後四時三十四分開議

○紫安委員長 休憩前ニ引續キ開會致シマス、藤生君ニ申上ゲマス、陸軍ノ政府委員ガオイデニナツテ居リマスカラ、陸軍ニ關スルコトカラ御質問ヲ願ヒマス

○藤生委員 私ハ主トシテ國民體力法竝ニ之ニ關聯スル一般體育問題、武道問題ナドニ付テ極メテ概略的デアリマスガ、文部厚生兩當局ニ御尋ね致シタイト思ツテ居リマスガ、今委員長カラ御要求モアリマシタノデ、陸軍ノ方ニ關係スルコトカラ御尋ネシテ見タイト思ヒマス、是カラ私ガ御尋ネスルコトハ陸軍省バカリデナク厚生省ニモ、文部省ニモ關係ガアルノデアリマスカラ、ソレド御答辯ヲ願ヒタイト思ヒマス

武道獎勵振興ニ付キマシテハ、第七十三議會ニ於テ衆議院ハ院議ヲ以テ既ニ是ガ獎勵ノコトニ付テハ決定致シテ居リマス、其ノ具體策ニ付キマシテモ、ソレド建議提

案致シマシテ、其ノ方策ヲ進言致シテ居ルノデアリマス、ソレデアリマスカラ、政府ハ衆議院ノ建議提案ニ對シマシテハ、所謂居リマスノデ、是等ガ卒業シマシタ曉ニ於キマシテハ、著シキ不足ハ感ジナイダラウト思ヒマス、併シナガラ仰セノヤウニ大東亞共榮圈ヲ控ヘテノコトデアリマスノデ、醫師ノ養成機關ニ付テハ、先程申上ゲタヤウニ、閣僚竝ニ文部省内ノ委員會ニ於テ、十分之ニ對處スル案モ拵ヘルコト期待シテ居ル譯デアリマス

○野方委員 私ノ質問ハ終リマス

○塚本委員長代理 ソレデハ暫時休憩致シマス

午後四時休憩
午後四時開議

○紫安委員長 休憩前ニ引續キ開會致シマス、藤生君ニ申上ゲマス、陸軍ノ政府委員ガオイデニナツテ居リマスカラ、陸軍ニ關スルコトカラ御質問ヲ願ヒマス

○藤生委員 私ハ主トシテ國民體力法竝ニ之ニ關聯スル一般體育問題、武道問題ナドニ付テ極メテ概略的デアリマスガ、文部厚生兩當局ニ御尋ね致シタイト思ツテ居リマスガ、今委員長カラ御要求モアリマシタノデ、陸軍ノ方ニ關係スルコトカラ御尋ネシテ見タイト思ヒマス、是カラ私ガ御尋ネスルコトハ陸軍省バカリデナク厚生省ニモ、文部省ニモ關係ガアルノデアリマスカラ、ソレド御答辯ヲ願ヒタイト思ヒマス

武道獎勵振興ニ付キマシテハ、第七十三議會ニ於テ衆議院ハ院議ヲ以テ既ニ是ガ獎勵ノコトニ付テハ決定致シテ居リマス、其ノ具體策ニ付キマシテモ、ソレド建議提

デ詳シク説明シヨウトハ思ヒマセヌガ、ア
ノ梅ヶ谷、常陸山、大錦、玉錦トカ云フヤ
ウナ歴代ノ横綱ヲ一瞥シテ見タナラバ、直
チニ此ノ理論ハ誰ニモ了解出来ルト思フノ
デアリマス、即チ横綱ノ體格ハ殆ド悉ク所
謂太鼓腹デ、デブ型デ、アノ社會デハ之ヲ
アンコ型ト稱シテ居リマス、サウ云フ體格
ノモノバカリデアルノデアリマス、現ニ相
撲協會ノ機關紙、相撲ト云フ雑誌ニ、力士
ハ轉業ノ利カガイ専門中ノ専門デアリ、ド
ツチカト言フト、片輪ニ等シノイデアル、
其ノ片輪ノ程度ガ益、片輪ニナレバナル程ソ
レハ益、名力士型ニナルノデアルト言ツテ、
所謂アンコ型ヲ推賞禮讚シテ居ル記事ヲ見
タノデアリマスガ、御承知ノヤウニ……

ノ甲種合格型ト言ヒマスカ、サウ云フヤウ
即チ體力検定型ト言ヒマスカ、或ハ微兵検査
ナ體位ト比較シテ見タナラバ、茲ニ非常ナ違
ヒガアルト云フコトハ誰ニモ分ルノデアリ
マス、隨テ私ハサウ云フ意味カラアノ相撲
ヲ體育獎勵ノ標本デアルカノ如ク考ヘルト
云フコトハ、甚ダシキ誤リデアルト考ヘザル
ヲ得ナイノデアリマス、然ルニ一般ニ於テ
ハサウデハナイ、學校ノ先生達ハアレヲ非
常ニ立派ナ體育獎勵ノ手本デアルカノ如ク
考ヘテ、學校ノ校長先生ガ土俵ヲ造ラセテ、
其ノ土俵ノ上ニアノ連中ヲ連レテ來テ、四肢
ヲ踏マシテ得タトシテ居ルト云フヤウナ狀
態デアリマス、私ハ是ハ實ニ悲シムベキ狀
態デアルト存ズルノデアリマス
ソコデ厚生省ノ方ニ御尋ネシマスガ、厚
生省ニ於テハ御承知ノヤウニ曩ニ武道振興
委員會ト云フモノガ置カレテ、武道振興方
策ニ付テ論議ヲサレタ、其ノ時ニ或ル委員
カラ私ニ對シテ、藤生君ハ武道トシテノ相
撲ノ發展ノ爲ニ非常ニ努力ヲサレテ居ル、
其ノ努力ハ多トスルガ、併シナガラ今日藝
妓連レノ且那ガ飲食ノ間ニ享樂シテ居ル、
其ノ藝妓連レノ且那ニ飲食ノ間ニ享樂サレ
テ得々トシテ居ル所ノ現狀ニアル今日ノ相
撲ヲ柔道ヤ劍道ト同列ニ之ヲ取上げテ論議
ノ對象トスル譯ニハ行カヌト云フヤウナコ
トヲ言ハレタ、之ヲ以テ考ヘテ見マシテモ
アノ相撲ト云フモノガ日本ノ相撲ノ全體デ
ノ相撲ノ發展ヲ阻碍サレルト云フコトハ、
アルカノ如ク考ヘラレテ居ル、斯ウ云フヤ
ウナ誤レル相撲ノ爲ニ、本當ノ武道トシテ
道大會ヲ各地デズツトヤツテ來マシタガ、
其ノ時各縣廳ノ役人達ニ武道トシテノ相撲

ノ實施方ニ付テ相談ヲスル、サウスルト直ニ之ニ對シテ非常ナル共鳴ト非常ナル贊成ヲサレル、併シナガラ相撲ニ對スル厚生省、文部省ノ態度ヲハツキリシテ居ラナイ、ソコデドウシタラ宜イカト云フコトニ對シテ色々躊躇シテ、早ク相撲ニ對スル厚生省、文部省ノ態度ヲハツキリセテ戴キタイト云フ要求ガアルノデアリマス、ソコデ私ハ相撲ハ斯クアルベシト云フ明確ナル指導的規範ヲ示シテ言明スルユトハ、今日ノ厚生省、文部省モ困難デアルト思ヒマスカラシテ、ソレヲ要求致シマセヌガ、少クトモ相撲ガ娛樂デアルカ、或ハ武道デアルカト云フコトニ付テハ、私ハ此ノ際文部省モ、厚生省モハツキリシタ態度ヲ御執リニナツテ置ク方ガ宜イノデハナイカト思フノデアリマス、ダカラ明確ナル指導的規範ヲ示シテ、斯ウアルベシト云フコトハ、今ノ所マダ研究ガ出來テ居ナイヤウデアリマスカラ、ソレハ要求致シマセヌ、ケレドモ相撲ガ娛樂デアルカ——即チ相撲ト云フノハ、兩國ノ相撲、アノ相撲ガ娛樂デアルカ武道デアルカト云フコトニ付テ、厚生御當局ノ御答辯ヲ御願ヒ致シマス

ニ私ハ之ヲ角道ト云フヤウナ名前デ呼ンデ
見タイト思ヒマス、即チ在來世ニアリ觸レ
テ居ル相撲ト云フモノト、角道ト云フモノノ
トハ違フノデヤナイカ、即チ角道、是ハ立
派ナ武士道デモアリ、所謂武道ノ一ツデア
リマス、今後政府ニ於キマシテハ此ノ正シ
イ意味ノ相撲、即チ角道ト云フモノノ武道
トシテ十分ニ維持育成シテ參リタイ、斯様
ニ考ヘテ居リマス

ヲ護持發揚シナケレバナラヌト云フコトヲ
恐懼痛感致スノデアリマス、苟且ニモ聖恩
ニ狎レテ其ノ尊嚴ヲ犯シ、或ハ大義名分ヲ
素ルガ如キコトハ、斷ジテ許スベカラザル
コトハ勿論デアリマス、此ノ意味ニ於テ私
ハ特ニ厚生當局ニ御願ヒ致シタイコトハ、御
承知ノヤウニ宮中ニ於テ天覽武道試合ガ行
ハレル、宮中ニ於テ行ハレル天覽武道試合
ノ優勝者ニ與ヘラレルモノハ大臣賞デアル
然ルニ吾々ノ考デハ娛樂デアル相撲、而モ
武道振興委員會ノ或ル委員モ言フヤウニ、
藝者連レノ旦那連中ガ飲食ノ間ニ享樂ス
ル、而モ相撲ガ濟メバ座布團ガ飛ビ、火鉢
ガ飛ビ、蜜柑ノ皮ガ飛散ル、落花狼藉タ
ルアア云フ風ナ場所ニ於テ、而モ之ヲヤツ
テ居ル者ハ力士トハ言フケレドモ、是ハ法
律的ニハ遊藝人デアル、サウ云フ者ノ勝負
ニ對シテ攝政益ガ授與サレル、攝政益ハ取
リモ直サズ 天皇益ト拜察シ奉ルノデアリ
マスガ、サウ云フ尊イモノガ授與サレルト云
フコトハ、是ハ私ハ 天皇ノ尊嚴ト云フコ
トヲ考ヘマスル場合ニハ、是ハ非常ニ考ヘ
ナクチヤナラヌコトデハナイカト思フノデ
アリマシテ、私一個ノ見解ヲ以テスレバ、
是ハ正ニ當時ノ輔弼者ノ責任デハナイカト
サヘ考ヘテ居ルノデアリマス、此ノ點ニ付
テハ私ハ敢テ厚生當局ノ御答辯ハ要求致シ
マセヌ、要求致シマセヌガ、一ツ篤ト此ノ
點ハ御考慮アツテ善處セラレンコトヲ希望
致シテ置キマス

動ヲヤツテ來タ、最近デハ全國壯丁訓練武道大會ノ名ニ於テ中央カラ各府縣單位ニヤツテ居リマス、ソレニ付テ厚生省、内務省、或ハ文部省カラ後援名義ヲ戴イテ、應援シテ戴イテ居リマスガ、此ノ機會ニ於テ感謝致シマス、特ニ陸軍カラハ吾々ノ期待シタ以上ノ御指導御鞭撻ヲ戴イテ居ルコトニ付キマシテハ、私ハ此ノ機會ニ力一ペイノ感謝ノ意ヲ捧ゲル次第デアリマス、私ハ此ノ運動ヲヤツテ來マシテ、非常ニ痛感致シテ、前ノ臨時議會ニ同僚諸君ノ協力ヲ得マシテ、壯丁ノ鍊成強化ニ關スル建議案ト云フモノヲ提出致シマシテ、今又戰時ノ此ノ議會ニ對シマシテモ、戰時壯丁鍊成局ト云フ建議案ヲ提出スル用意ヲ致シテ居ルノデアリマス、此ノ國防國家體制ノ即時完成ト云フコトヲ緊要トスル現在ニ於キマシテ、壯丁ノ鍊成強化ヨリ緊急重大ナル問題ハナイコトハ先程申上ゲタ通リデアリマス、畏クモ宣戰ノ大詔ガ渙發サレマシタ今日、吾々ハ承詔必謹、全力ヲ擧ゲテ敵國ヲ徹底的ニ粉碎シナケレバナラヌ、ソレニハ兵力、戰鬪力ノ増強ト云フコトガ極メテ必要デアルノデアリマス、其ノ兵力ノ給源ハ何カト云フト、壯丁デアル、即チ優良ナル壯丁ヲドンヽ多量ニ送リ出スト云フコトニアルノデアリマス、然ルニ壯丁ノ體力狀況ハ非常ニ惡イ、ナゼ壯丁ノ體位ガ惡イカト云フト、見方ニ依ツテ色々原因ハ指摘サレルデアリマセウケレドモ、私ハ其ノ壯丁ノ體位ガ惡クナル一ツノ原因トシテ茲ニ指摘セザルヲ得ナイコトハ、壯丁ガ壯丁トシテノ自覺ガ足リナイ、即チ防人ノ歌ツタ「今日ヨリハ顧ミナクテ大君ノ醜ノ御楯ト出デ立ツ吾ハ」——此ノ醜ノ御楯ト出デ立ツ吾ト云フ自覺、是ガ

ナイトハ言ハヌガ足リナイ、即チ陛下ノ壯丁デアルト云フ自覺ガ足リナイコトガ大キナ原因デハナイカト考ヘルノデアリマス、此ノ陛下ノ壯丁デアルト云フコトノ自覺ガアルナラバ、其ノ責任ヲ感スルナラバ、當然日常ノ生活ニ於テ身體ノ鍛成、精神ノ訓練ト云フヤウナコトニ對シテモ、モツト一層ノ關心ガ拂ハレテ然ルベキモノト考ヘルノデアリマス、勿論青年學校、中等學校ニ於テ、內容的ニハ軍事訓練ヲヤツテ居ラレルガ、併シ是ハ學生、生徒ト云フ觀念デシカナイノデアリマス、斯ウ云フ高度國防國家ノ即時完成ト云フヤウナコトノ必要ナル現下ニ於キマシテハ、學生、生徒、或ハ青少年ト云フヤウナ觀念デナシニ、モツト國防的ノ責任感ヲ端的ニ力強ク喚起スルニ足ルヤウナ名稱ヲ用ヒテ、即チ壯丁ト云フ名稱ヲ用ヒテ訓練スルコトガ極メテ必要デアルヤウニ思ヒマス、昔ノ武士ハ十二三歳カラ武士トシテノ責任觀が非常ニ旺盛デアツタ、ソレト同ジヤウニ壯丁ト云フ名稱ヲ用ヒテ、壯丁自身ニ於テハ醜ノ御楯ト出デ立ツ吾——陛下ノ壯丁デアルト云フ責任觀ヲ自律的ニ大イニ喚起スルト共ニ、他律的ニ世間ノ人ガ、良イコトヲシタナラバ流石ニ壯丁デアル、惡イコトヲシタナラバ壯丁ノクセニ、斯ウ云フコトヲ言ツテ、自律、他律相俟ツテ、十六歳カラ二十一歳マデノ青少年ヲ壯丁ト云フ名ノ下ニ訓練スル、其ノ訓練スルニ付テハヤハリ武道ヲヤラナクテ、ハナラヌ、其ノ武道モ今マデノヤウナ非眞劍、非實戰的ナモノデアツテハナラヌ、實戰のノ武道、即チ銃劍道ヲ中心トスル所ノ武道ニ依ツテ之ヲ訓練シテ行ク、サウシテ六歳カラ二十一歳未滿ノ青少年ガ真劍的武

道ニ依ソテ訓練サレテ、用意が出来居ル
ナラバ、必要ニ應ジテ入營年齢ヲ十六歳ニ
切下ゲル、サウスルト百万、二百万ノ軍隊
ガ直ガ出来ルノデハイカト思フ、此ノ用
意ガ出來テ、初メテ高度國防國家ト云フモ
ノハ人的關係ニ於テ完成シタモノト考ヘル
ノデアリマス、斯ウ云フ精神ヲ以テ全國壯
丁訓練武道大會ト云フモノヲ、私共ハ各府
縣別ニヤツテ來テ居ル、所ガ今日ノ時局ノ
要請カラ考ヘテ見マシテ、ドウモ吾々ダケ
ノ力デモ是ハモドカシイ、連モ國家緊急ノ
御役ニ立ツカドウカ分ラスト云フヤウナ不
安ヲ感ジテ來タノデアリマシテ、一日モ速
カニ斯ウ云フ風ナ運動ハ國家方國費ニ依ツ
テ急速ニ普及徹底シナケレバナラスト云フ
コトヲ痛感致シマシテ、此ノ議會ニモ戰時
壯丁鍛成局ノ設置方ニ付テ建議致シテ見タ
イト考ヘテ居リマス、ソコデ壯丁ト云フ、
是ハ文部省ノ管轄モナニ、軍人モナイ
カラ、軍部ノ管轄モナイヤウニ思ハレマ
ス、ソコデ此ノ内容ノ重要性カラ考ヘテ見
テ、私ハ是ハ内閣直屬ノ機關トシテ設置シ
テ戴キタイト思ヒマスガ、是等ノ點ニ付テ
厚生大臣、或ハ陸軍省ノ兵務局長モ御見エ
デアリマスカラ、兵務局長カラモ何カ御感
想ヲ承ルコトガ出来レバ幸ヒト思ヒマス、
尙ホ一々坐ツタリ立ツタリシナイヤウニシ
テ、纏メテ御尋ネ致シテ置キマスガ、此ノ
吾々ノ壯丁運動、即チ健兵運動ヲズツトヤ
ツテ來マシテ感ジマシタコトハ、東京ニ於
テ大會ヲヤツタ者、即チ銃劍道ノアノ木銃ヲ持
方ガ來テ指導シテ下サツタ、此ノ大會ニ出
ツタコトノナイ者ニモ悉ク木銃ヲ持タシテ、

銃剣道ノ基本動作カラ突撃動作マデ、約二時間ニ亘ツテ指導訓練ヲシテ、二時間ノ訓練デ大體ニ於テ戰地ニ連レテ行ツテモ、大體是デ役ニ立チマスヨト教官カラ話ヲ聽カシテ戴クヤウナ效果ヲ擧ガタノデアリマス、併シナガラ是ハ東京デヤル場合ニハ、陸軍戸山學校ノ教官方ノ指導御便宜ヲ興ヘラレマスケレドモ、地方デヤル場合ハ中々サウハ行カヌ、銃剣道ノ指導者ヲ求メルノニ非常ニ困難ヲ感ズル場合ガ多イノデアリマス、ソコデ是ハ大阪デモサウ云フ意見ガ出タノデアリマスガ、陸軍戸山學校的ナモノヲ關西方面ニモ一ツ作ツタラドウカ、サウ云フテ、是等ノ點ニ付テ一ツ兵務局長カラ御意見ヲ承ルコトガ出來バ幸ヒト恩ヒマスソレカラ其ノ銃剣道ノ指導訓練デアリマスガ、ヤハリ指導者ニ因ル、幸ヒ大日本銃剣道振興會ト云フモノガ出來テ、大イニ活動致シテ居リマスケレドモ、マダ（此ノ活動ニ依ツテ今勃興シテ居ル此ノ銃剣道ヲ指導スルト云フノニハ人手ガ足リナイン憾ミガ多々アルノデアリマス、ソコデ私ハ陸軍戸山學校ノ附屬機關トシテ、銃剣道指導者ノ養成所ト云フモノヲ作ツテ戴キタイト云フコトヲ、屢々委員會ニ於テ御願ヒ致シタノデアリマスケレドモ、兵務局長モ御忙シイキウデ、未ダ御意見ヲ承ルコトガ出來ナカツタノデアリマスガ、ドウカ一ツ是非サウ云フ風ナ機關ヲ設置シテ戴キタイ、中々銃ニハドシ（補助金デモヤツテ、サウシテウント活動ノ出來ルヤウニシテ戴キタイト思

ヒマス、之ニ對スル御意見モ伺ツテ置キタ
テ、藤生委員ノ御話ヲ中途カラ伺ツタノデ
アリマスガ、大體ニ於キマシテ青年層ノ者
ニ對シテ壯丁運動ト云フヤウナコトヲ、殊
ニ武道ヲ中心トシテ行ツタラドウカト云
フ御意見ノヤウニ拜承シタノデアリマス、
此ノ點全然御同感デゴザイマス、私共武道
及第體育ノ指導上ノ方針ト致シマシテハ、今
日其ノ重點ノ第一ヲ青年層ニ指向致シテ居
リマス、而シテ其ノ鍛成ハ何處マデモ國防
技能ヲ鍛成スルト云フヤウナ點ヲ重視シテ
指導シテ參ル、斯ウ云フ方針ヲ堅持シテ居
ルノデアリマス、而シテ今回提出致シマシ
タ國民體力法ノ改正等モ、其ノ狙ヒ所ハ其
處ニアルノデアリマシテ、只今御指摘ニナ
リマシタヤウナ年齢層ノ者、サウ云フ青年
ヲ國內ニ於ケル豫備兵力トシテ、人的豫備
戰力ノ擴充強化ト云フコトニ重點ヲ指向シ
テ行カウ、斯ウ云フ考ヘデ居ル攻第デアリ
マス、只今御述ベニナリマシタ御趣旨ニ對
シテハ、洵ニ御同感ノ意ヲ表スル次第デアリ
マス

アリマス、即チアノ年齢ノ時ニ工場や商店等ノ徒弟ニナツテ身體ヲ壞ハスヨリモ、國家が義務的ニ教育シテ身體ヲ固メサスト云フノガ國民學校制度改正ノ根本デアツタノデアリマシテ、其ノ目標ハニ健全ナル壯丁ヲ得ルト云フコトニアツタノデアリマス、青年トモ良イ壯丁ヲ得タトイト云フ譯ニ、厚生省、文部省アタリト連繫シテ、先般モ厚生省ノ主唱ニ依リマシテ、體育團體ノ統合モ出來タ譯デアリマス、陸軍トシテハ現在是非トモ良イ壯丁ヲ得タトイト云フ譯ニ、厚生省、文部省アタリト連繫シテ、先般モ厚生省ノ主唱ニ依リマシテ、體育團體ノ統合モ出來タ譯デアリマス、又順調ニ參リマスレバ或ハ近ク武道團體ノ統合モ出來ルカモ知レマセヌ、隨ヒマシテサウ云フモノガ出来マシタナラバ、私共ガ特ニ壯丁訓練ノ目的デ作リマシタ銃劍術振興會ト云フヤウナモノモ同團體ノ傘下ニ入リマシテ、又若シ研究ノ結果必全ナル青年ヲ造り上ゲルト云フコトガ必要デアルト思ヒマス、又同時ニ厚生、文部省ト協力シマシテ、熱心ニ研究シ實行中デアリマス

デ、其ノ部門ニ於テ鍛成モシ、又はガ逐次
發達シテ參リマスレバ、全國ニ銃劍術ノ
指導者ヲ各府縣共ニ得ラレルモノト信ズル
次第アリマス、ハツキリ申シマスガ、戸
山學校ノ分校ヲ大阪ニ設クルト云フコト
ハ、現在ノ陸軍等ハ考ヘテ居リマセヌ、武
道團體ノ統合試ニ其ノ發達ニ依リマシテ、
全國ニ銃劍術等ノ指導者ヲ分布シ得ルモ
ノト考ヘテ、ソレニ賴ツテ居ル次第アリ
マス、繰返シテ申シマスガ、戸山學校ノ教
官、助教ガ充實致シマスレバ、藤生君ノ
ヤツテ居ラレマスヤウナ全國壯丁訓練武道
大會ト云フヤウナモノニハ進ンデ御援助、
御參加申上ゲルコトガ出來ルト考ヘマス
ガ、現在ノ狀況ニ於テハ遺憾ナガラ現在
程度ノコトシカ出來ナイ、ソレハ先程申シ
マシタヤウニ、優秀者ガ殆ド第一線ニ出テ
居リマシテ、戸山學校ガ充實シテ居ラヌト
云フ所ニサウ云フ不便ガアリマス、御承知
置キヨリ願ヒタイト思ヒマス

カト思ヒマス、現ニ大阪デハ各町會ノ聯合會
單位ノ壯丁鍊成會ト云フモノヲ作ツテ、段々
サウ云フ機運ガ醸醡サレツツアルノデア
リマスガ、之ニ對シテ文部省關係アレバ其
ノ方カラ御意見ヲ伺ヒタイト思ヒマス——
ソレデハ其ノコトニ付テハ又適當ナ機會ニ
御答辯願ヒマス

只今厚生大臣大谷、目下厚生省トシテ書
年層ニ集中シテ、而モ人的豫備戦力ヲ増強
スル意味ニ於テ國防的ノ指導ヲハツテ居ル
ト云フ御話デゴザイマシテ、洵ニ意ヲ強ウ
スル次第デアリマスガ、ソレニ對シテドウ
モ軍人サンノ方ニ斯ウ云フ意見ヲ持ツ人ガ
非常ニ多イ、私ハ是ハ非常ニ誤ツタ考ヘデ
ハナイカト思ヒマスガ、モウ斯ウ云フ時ニ
ハ柔道トカ、相撲トカ、何モ武器ヲ持タヌ
所ノアア云フ武道ハ役ニ立タナイ、デアル
カラシテモツト實戰的ナ武道デナクチヤイカ
スト云ツテ、柔道或ハ武道トシテノ相撲ト云
フヤウナモノヲ動モスルト否定サレマスル
嫌ヒガアリマス、田中兵務局長ハ柔道モ劍
道モ達人デアツテ、吾々ハ其ノ點敬意ヲ表
シテ居ル譯デアリマス、實際將軍ニナツテ
カラ陸軍戸山學校ナドヘ行ツテ、毎日汗ヲ
出シテヤツテ居ラレル人ハナイサウデアリ
マスガ、田中サンハ毎日ヤツテ居ラレルサウ
デ、此ノ點ハ非常ニ敬意ヲ表シテ居リマス、
斯ウ云フコトハ能ク御分リノコトト思ヒマ
スガ、大體私が陸軍士官學校ノ教官ヲヤツ
テ居ツタ時ニ、士官學校ノ生徒ト云フモノ
ハ動モスルト柔道ヲ劍道ヨリモ輕視スル虞
ガアル、ソユデ君達ハ成程戰場ヘ行ケバ「ビ
ストル」ヤ軍刀デ戰フ、グカラ武器ノナイ所ノ
武道デアル柔道ハ必要デナイカノ如ク考ヘ
ルケレドモ、ソレハ非常ニ間違ツテ居ル、

若シ「ビストル」ノ弾丸ガナクナリ、刀ガ折レタ、サウシタラドウスルカト云フヤウナ不安ヲ持ツテ「ビストル」ヤ軍刀ヲ使フノト、「ビストル」ノ弾丸ハ滅キテモ、軍刀ハ折レテモ、無手デ容易ニ敵ノ死命ヲ制シ得ルト云フ信念ガアツテ、軍刀ヤ「ピストル」ヲ使フノト、ドツチガ威力ヲ發揮スルカ、決シテ無手ダカラト云ツテ輕視シテハイカヌト云フコトヲ言ツタコトガアルノデアリマス、所ガドウモ最近ノ兵隊サンノ中ニハ柔道ナドヲ輕視サレル嫌ヒガアル、成程今日マデノ柔道、劍道ト云フモノノヤリ方ハ非實戰的、非眞劍的デアツタ、ダカラヨク話ガアリマスガ、柔道ノ先生ノ家ニ泥棒ガ入ツテ、其ノ泥棒ニ柔道ノ先生ガ押ヘ付ケラレテ、ギュウヽヤラレタ、ソコデ妻君ガ「アナタ日頃ノ柔道棒ヲ押ヘ付ケタト云フヤウナ話マデアル、ハドウシタノテスト言ツタノデ」「アアサウダト云ツテ初メテ思ヒ出シテ、ソレカラ泥棒ヲ押ヘ付ケタガ入ツテ來テ刀ヲ振上ゲタ、其ノ時ニ劍士ガ「籠手」ト云ツテ斬ツタノハ宣カツタガ、籠手ト言ツテ例ノ引上ゲ——アノ興行擊劍的ナ引上ゲヲヤツタガ爲ニ、泥棒カラ斬ラレタト云フヤウナコトガアル、サウ云フ話ガアル程ニ、柔道モ劍道モ非實戰的、非眞劍的ナ武道デアツタノデス、此ノ點ハノ教育ノ仕方ガ誤ツテ居ツタカラデ、今日ノ武道ノ弊害ト云フモノハ試合第一主義ト云フ點デアリマス、試合第一主義ガ其ノ弊害ヲ出來シタ最大ノ原因デアツテ、此ノ點ハツ大イニ改メテ貰ハチクチヤナラスト思ヒマスガ、青年層ニ對シテ國防的ノ指導——國

防ト言ヘバ是ハ眞劍的、實戰的ノ武道デナケレバナルス、其ノ眞劍的、實戰的ノ武道ト云フコトカラ考ヘルト、今日ノ武道ノ試合ノヤリ方ニ對シテ大臣ハ果シテ御満足ニナツテ居ルグラウカ、恐ラク私ハ御満足ニナツテ居ラヌダラウト思フ、武德會ナドノ剣道ノ試合ノヤリ方ニ付テハ多々遺憾ナ點ガアリマス、斯ウ云フコトニ對シテハドシ～之ヲ矯正シテ行カレル御方針デアリマスカ、此ノ點ヲ一ツ聽カシテ戴キタイ〇小泉國務大臣 第一柔道トカ、或ハ只今御言葉ガアリマセヌデシタガ、多分弓ナドモ入ツテ居ルト存ジマスガ、斯ウ云フヤウナモノハ、今日ノ實戰のノ武道ト云フ方カト見レバドウダ、又輕視スルカト云フヤウナ御尋ネデゴザイマシタガ、左様ナコトハ毛頭感ジテ居リマセヌ、私ト致シマシテハ柔道、弓道悉ク是レ歸スル所一デアル、姿ニ於テ變ツタモノト考ヘテ居リマスノデ、先程兵務局長モ一寸申サレマシタガ、綜合團體等ニハ之ヲ包攝シテ何處マデモ之ヲ殲シ、又古カラ傳ハツタ所ノモノト、今日ニナツタ爲ニ幾分カ變ツタ所ノモノト兩方竝ベテ、何處マデモ指導獎勵シテ行カナケレバナラヌ、斯ウ考ヘテ居リマス

第二ニ今日武道ヲヤツテ居ル姿ヲ見テ、殊ニ試合ノ姿等カラシテアレデ宜イノカト云フ御尋ネデゴザイマシタガ、私モ今日ノ武道ノ試合ノ姿ニ對シマシテハ非常ニ遺憾ヲ感ジテ居ルモノデゴザイマス、ドウカ日本ノ本當ノ武道精神ヲ青年層ニ鍊成サセタイ、假令兵器ヲ手ニ持タズトモ、又如何ナル場面ニ於キマシテモ、本當ノ武道ヲ體得シタ身體、精神ヲ鍊成サセタイ、斯ウ考ヘテ居ルヤウナ次第デゴザイマス、少シ長

ゲンガ爲ニ一例ヲ擧ガタイト存ジマス、今般ノ戰爭ニ於キマシテ私「ソコダ武道」ト言ツタ一例ガゴザイマス、某將校ガ自分ノ部下ヲ連レマシテ第一ノ銃練ニ起チマシタ時ニ、其ノ中ノタツタ一人ヲ名譽射手ニ命ジテ、他ノ者ニハ射撃ヲ禁ジテ、其ノ者ニ彼處ヲ射テ云フコトヲ命ジタサウデアリマス、是ハ一人自分ノ部隊カラ選バレタ名譽射手トシテ射撃ヲ命ゼラレタ、恰モ平時ノ射撃ニ於ケルガ如キ沈着用意トヲ以テ其ノ標的ヲ射落シタ、サウスルト指揮官ハ次ノ射手ヲ數名呼ンデ、今度ハ彼處ト彼處ヲ擊テト命ジマシテ、其ノ間ニ日本ノ本當ノ武道精神ヲ全體ニ瀰漫サセテ、戰線ノ兵ガ恰モ射的場ニ於ケルガ如キ姿ヲ以テ本當ノ戰鬪ヲ交ヘタト云フコトヲ聞キマシタ時ニ、私ハ「ソコダ武道」ト申シタヤウナ次第デアリマシテ、何處マデモサウ云フ氣持デ武道ヲ進メテ行キタイ、斯ウ考ヘテ居リマス。

銃剣ト軍刀ガ折レタラ組打ヲヤルノデス、
生キテ居ル間ハ何處マデモ行クノガ攻撃精
神デアリマス、隨ヒマシテ武道トシテ凡ユ
ルモノヲ體得スルコトガ必要デアラウト思
ヒマス、其ノ意味ニ於キマシテ、藤生サン
ハ陸軍ガ銃剣術ダケニ重點ヲ置イテ居ル、
シテ唯單ナル二年間ノ兵役ニ於キマシテ、
モノヲ一切輕視シテ居ル、又取上ゲナイト
云フ風ニ御考ヘ下サルノハ間違ヒデアリマ
シテ、唯單ナル二年間ノ兵役ニ於キマシテ、
一切ノ武道ヲ兵ニ教ヘルコトハ出來ナイノ
デアリマス、ソコデ銃剣術、劍道術、相撲
等ニ重點ヲ置イテ居リマスガ、併シ柔道ト
雖モ戸山學校ノ近接格闘術ノ中ニハ入ツテ
居リマス、將校ナドハ悉ク之ヲ學ブベキ義
務ガアルノデアリマス、吳々モ申シマスガ、
齒ガアル間ハ齒デ囁付ク、命ノアル限リハ
闘フト云フノガ攻撃精神デアリマス、斃レ
テモ已マナイト云フ所ニ日本ノ攻撃精神ノ
特長ガアリマシテ、之ニ依ツテノミ軍ハ勝
ツノデアリマス、又是ハ何ニ依ツテ鍛錬ガ
出來ルカト云フト、先程厚生大臣ガ申サレ
マシタ眞ノ武道精神ノ體得デアリマス、之
ニ依ツテノミ出來ルノデアリマス、御参考
マデニ申上ゲテ置キマス

○松尾(孝)委員 田中兵務局長ガオイデニ
ナリマシタ機會ニ、私ハ唯一點陸軍ノ御意
見ヲ承ツテ見タイノデゴザイマス、ソレハ
後續部隊トシテ、又銃後ニ於キマシテハ生
産力擴充ノ根幹トスルト云フコトガ非常ナ
大キナ問題デアリマス、同時ニソレニハ人
口ノ増加 即チ人口政策ト云フコトガ大キ

ヲ擔任スル者ハ二十代、三十代ノ最モ血氣
盛リナ青年層デアリマス、是等ノ青年層ノ
多クハ軍人トシテ第一線ニ應召シテ戰ハナ
ケレバナラナイ、銃後ニ於テ生産力ノ擴充、
ソレハ物ト人ノ増加デアリマス、ソコニ一
ツノ惱ミト申シマスガ、符合シナイ點ガ生
ズルヤウニ感ゼラレルノデアリマス、ソコニ
デ此ノ點ニ關シテ、第一線ニ勇敢ニ戰ツテ
居ル精銳ヲ、此ノ銃後ノ人ト物ノ生産増加ノ
爲ニ、或ル一定ノ期間銃後ト交代セシメテ、
此ノ方面ノ生産ヲ増強セシムルト云フコト
ニ付テ、軍トシテ特ニ御考慮ヲ拂ツテ戴イ
テ居ルカドウカ、第七十五回カ六回ノ帝國
議會ニ於テ、生産力擴充ニ必要ナ爲ニ、場
合ニ依ツテハ其ノ前線ノ勇士ヲ交代スルコ
トモ出來得ルカノヤウニ、陸軍大臣ガ當時
御述ベニナツタト云フコトヲ私ハ記憶シテ
居リマスガ、人口ノ増殖、此ノ問題ニ付テ
ハ軍トシテ御考ヘガアルカドウカ、仄聞ス
ル所デハ、「ドイツ」アタリデハサウ云フヤ
ウナ方法ヲ採ツテ居ルト云フコトデアリマ
スガ、此ノ點ニ付テノ軍トシテノ御考ヘヲ
此ノ機會ニ伺ヘレバ幸ヒダト存ジマス

長ノ所ヲ訪問シマシテ、此ノ雍乃問題ニ付
テハ明カニ是ハ武德會當局ノ失態デアル、
併シ是以上論議ハシナイ、斯ウ云フ
問題ガ起ルト云フコトハ、結局武德
會ノ内部ガ腐敗シテ居ルカラダ、此ノ
腐敗ヲ革新セヌ限りニ於テハ斯ウ云フ問
題ガ再ビ起ル、ダカラ武德會ノ改革ヲ斷行
スル意思ガアルカドウカト云フ趣旨デ會員
致シタノデアリマス、時ニ會長モ副會長モ
武德會ヲ改革スル意思ガアル、ソレニ付テ
名案ガアルナラバ案ヲ出シテ吳レト云フヤ
ウナ話ガアリマシテ、吾々ハ案ヲ出シタノデ
ス、其ノ案ノ中ニ今御尋ネントスル一項
目ガ入ツテ居ルノデアリマシテ、吾々案ヲ
出シタニモ拘ラズ今日ニ至ルマデ何等ノ沙
汰ガナインデアリマス、ソコデ私ハ此ノ點
ヲ監督官廳ノ厚生省ノ大臣ニ御尋ネシタイ
ト思ヒマスガ、御承知ノヤウニ京都武德會
ノ本部ノ道場竝ニ全國各地ニアル所ノ武德
會ノ道場ヲ何レモ皆武德殿ト稱シテ居ルノ
デアリマス、此ノ武德殿ト稱スルコトノ可
否ニ付テ大臣ノ御意見ヲ承リタイト思フノ
デアリマス、此ノ武德殿ノ名稱使用ノ根據
ハ、桓武天皇ノ御宇、奈良ノ平城京ヨリ山
城ノ平安京へ御遷都フ際、延暦十五年三月、
ニアルト思フノデアリマス、然ルニ本來此
宮中ニ武德殿ヲ設ケラレ、尙武ノ思召ヲ以
テ諸國ヨリ武藝者ヲ徵セラレ、其ノ演武ヲ
天覽アラセ給ヒシコトニ對スル歴史的回顧
名稱デアル、即チ大内裏諸建築ノ内、中央
ノ武德殿ハ演武場ニアラズシテ、只今申シ
マシタヤウニ、平安宮室ニ於ケル一宮殿ノ
豐樂院ニ亞グ宮殿ガ武德殿デアリマス、後

代武德殿ハ内裏西方ノ廣場、宴ノ松原ニシテ公達ノ騎射其ノ他ノ武技ヲ行フ際、天自親シク臨御遊バサル、御殿デアツテ、漫リニ其ノ名稱ヲ冒スコトハ許サレザル所ト田数年前即チ明治十六年七月 明治天皇ノ聖旨ヲ奉ジ、文武講習ノ道場トシテ建設セラレマシタ、宮内省ノ濟寧館デスラ武德殿ハ名稱ヲ冠セラレテ居リマセヌ、況ヤ之ヲ臣間ニ於テ冒スヤウナコトハ洵ニ畏多イト田ノノデアリマス、之ヲ改稱セシメル必要ガアルト思ヒマスガ、之ニ對シテ厚生大臣ノ御意見ヲ承リマス

スカ

○小泉國務大臣 成ベク速力ニ新武道團體ノ結成ヲ見タイ、斯ウ考ヘマシテ、昨年末ヨリ頻回此ノ研究調査ノ爲ニ武道關係ノ方

方ノ御集リヲ願ヒ、又特別委員モ作ツテ戴キマシテ、武徳會ノ會長初メ各武道團體ノ首腦ノ御方が御集リニナツテ、只今頻リト御研究中ナノデアリマス、初メハ紀元節ニ結成シタイト云フヤウナ希望デ居リマシタ

ス
が、何かノ支障ヲ來シテ少シ延ビルカト思
ヒマスケレドモ、私ハ此ノ將來ハ遠キ將來
デナク、テ近イモノト今期待ヲ致シテ居リマ

○藤生委員　體力法ニ付テ一寸御伺ヒシマ
スガ、國民體力ノ向上ヲ圖ル爲ニ、本法ノ
ヤウニ専ラ醫者ト藥ニ依ツテ其ノ向上ヲ圖

ハントスルヤウナ、所謂消極的ノ方法モ是寧ロ私ハ國民體力ノ向上ヲ期スル爲ニヘ、大イニ積極的ノ方策ニ期待スル方ガ效果的デナイカト考ヘルノデアリマス、大東亞戰爭ノ緒戦ニ於テ舉ガタ輝シキ此ノ戰果、ソレ以來敵ハ全ク周章狼狽、手モ足モ出ヌヤウナ狀態ニナツテ居リマスガ、是ハ畢竟スルニ皇軍ノ所謂積極的ナ先ヲ行ク戰法ノ然ラシメタ所デアリマシテ、所謂最善ノ攻擊ハ最善ノ防禦ナリト云フコトガアリマシテ、最善ノ防禦ハ決シテ最善ノ攻擊トハナリ得ナイト云フコトヲ如實ニ示シテ居ルモノト信ズルノデアリマス、此ノ意味ニ於キマシテ國民ノ體力向上ヲ圖ルコトモ、私ハ積極的ノ方策ヲ講ズルコトガ又能ク是ガ最良ノ消極的ナ方策デモアリ得ルト考ヘルノデアリマス、ノンデ私ハ定ムン厚生省ニ於キマシ

思ヒマスノデ、ドウ云フ風ナコトヲ國民體力
向上ノ爲ニ積極的ナ方策トシテオヤリニチ
ツテ居ラレルカ、項目ダケデモ宜シウゴザ
イマスカラ御擧ガヲ願ヒタイ、尙ホ將來此
ノ積極的ナ方策ニ付テ、此ノ體力法ト同ジ
ヤウニ何カ立法的ナコトヲ御考ヘニナツテ
居ラレルカドウカ、此ノ點モ承ルコトガ出
來レバ光榮ト存ジマス

日本トヨタシタラ
二十七貫 尺九寸六分
大型デ、何モ大型ヲ威張ル譯デハアリマセヌ
ガ、大型ナノデス、厚生大臣、次官ハ丈高力
ラズト雖モ中々身柄ガガツチリトシテ居ラ

レデ、マア中肉中背型テセウセウお隣リノ人ヒト
局長ハ、是ハ甚ダ失禮ナ言ヒ方カモ知レマ
セヌガ、日本人トシテハ小型ノ部類ニ屬ス
ルノデアリマセウ、併シサウ云フヤウニ此
處ヒトツデ一寸皆サン方ヲ見テモ色々型ガアルノ
ズスガ、ルノ豊力ヨウリノ向上ヲ圖ルト申シマス

以上ハ、何カソコニ目標、基準ト云フモノ
ガナクテハナラヌト思ヒマス、是ハ常識的
ニハ分ツテ居リマス、併シ其ノ道ノ權威者

デアラレル大臣が御出席ニナツデ居テレマ
スカラ、一ツ體力トハドウ云フモノカト云
フコトニ付テ、一應極ク簡単デ宜シウゴザ

ス　イマスカラ、御説明ヲ御願ヒ致シテ置キマ
○小泉國務大臣　只今ノ豊力ト云フコトニ

○小兒國教ノ目 只今ハ體ノ事云々ニ
對シマシテ政府デ考ヘテ居リマスル點ヲ御
答ヘ申上ゲマス、體力ハ只今御指摘ノゴザ

イマシタヤウニ、形體的ノ方面モ拘ニ重要
ナモノデゴザイマシテ、隨ヒマシテ壯丁ノ
検査等ニ於キマシテモ一定ノ形體ノ規格ガ
定メラレテ、ソレ以上デナケレバ兵役適者
トシテヲ認メナイト云フヤウナ形ニナツ

テ居リマス、同ジ形體ト申シマシテモ身
ノ中ニ形體的ノ變化、即チ疾病ヲ藏シテ居
ルヤウナ者ハ困リマスノデ、之ヲ形體的ノ
方面ノ能力ト致シテ居リマス、第二ノ體力
ノ要素ト致シマシテハ、働ケル機能ノ非常
ニ強イ者ガ欲シイ、身體ノ形體ハ同ジデア
ツテモ働く非常ニ能率的デ、サウシテ敏

レラ身體ニ物カ言ハセラレルト云フヤウナ
機能力ヲ持ツコトガ大變必要ダト思ヒマス
ノデ、此ノ機能的方面ヲ第二ノ要素トシテ
考ヘテ居リマス、第三ノ要素ト致シマシテ
ハ、日本アーティスト、清浦、吉田、

申スマテモナク精神力 精神ノ力而入
能力ヲ入レテ居リマス、此ノ三ツヲ合ヘセマ
シテ、其ノ綜合シタ能力ヲ體カト考ヘテ居
ル次第アリマス、隨ヒマシテ山淑ハ小粒
デモピリリト辛イト云フヤウナ所モアリ、
并シ彌豊モ一定ノモノヲ寺タナケンバナラ

ナイ、機能モ持タナケレバナラナイト云フ
モノヲ綜合的ニ認ヌマシテ、國民ノ體力ヲ
向上シテ行ク、コソナヤウナ考ヘデゴザイ

○藤生委員 全體力ニ對シテ大臣ノ御説明ヲ承リマシタガ、形體的ノ能力ト、ソレカ

ラ、働く機能的の能力、精神的の能力、之ヲ
綜合シタ所ノ能力ガ即チ體力ダ、斯ウ云フ風
ニ御説明ニナリマシタガ、私モ其ノ通りト
考ヘルノデアリマス、ソコデ一ツ疑問ガ起
ツテ來ルハ、此ノ國民體力法ニ於テ「管理ト

ハ國民ノ體力ヲ検査シ其ノ向上ニ付指導其ノ他必要ナル措置ヲ爲スヲ謂フ。」トアツテ體力ヲ管理スル爲ニ管理醫ト云フ者ガアル、醫者ガ管理スル、サウスルト體力ノ内容ハ今大臣カラ御説明ノアツタヤウニ、形體的

ノ能力、機能的ナ能力、精神的ナ能力、此ノ三者ヲ綜合シタ所ノ體力ヲ検査シ、指導スル所ノ者ガ管理醫デアル、成程此ノ一番ノ形體的ノ能力ノ診察トカ指導トカ云フヤウナコトハ、是ハ勿論才醫者デ出來ルコトト私ハ思ヒマス、併シナガラ二若シクハ三ト精神力ト云フヤウナコトニ付テハ、昨日

○藤生委員 モウ一つ此ノ點ニ付テ御伺ヒシタイト思ヒマス、私ハ御覽ノ通り身長五

スル警告的ノ質問ヲナサレテ居ツタガ、其シニ、知識ト力精神トカ云フヤウナコトマデ検査シ、指導スルト云フ能力ガ果シテアルモノダラウカドウダラウカト云フコトノ疑問ヲ抱クノデアリマスガ、此ノ點精神力等ノ指導ナリ、検査ナリハヤハリ此ノ管理醫ガヤルノデゴザイマスカラ、此ノ點ニ付テ御説明ヲ願ヒマス

○小泉國務大臣 只今御指摘ノヤウナ點ハ吾々モ實ハ非常ニ苦心ヲ致シテ居ル點デゴザイマス、國家ガ體力ヲ向上致サウト云フ目的ノ爲ト制定致シテ居リマス體力法ハ、何處マデモ其ノ體力ト云フモノハ只今申上がマシタヤウナ三方面カラ綜合的ノモノヲ粗ツテ居ルノデゴザイマスガ、實際問題ト致シマシテ機能ノ良否ト云フヤウナコト、又於テ其處ニ置イテ居リマスガ、政府ト致シ検査スルコトハ、實ハ只今ノ科學ノ力デハルヤウナモノガアルカナイカ、又別個ナラバ機能的ノ方面ハドウスルカ、精神的能力ノ方面ハドウシタラ宜イカト云フヤウナコトヲ科學ノ總力ヲ動員シマシテ、色々ノ方面ニ研究ヲ委託ヲシテ進メテ貰ツテ居ルヤウナ狀況デゴザイマス、今日ノ所ハマダ取敢ズ第一ニ述べマシタ形體的方面ト云フコトニ重點ガ置カレテ施行サレテ居ルト云フヤウナ、實ニ遺憾ナ現狀ニアリマスノデ、是ハ即時國內ノ科學體制ノ整フニ從ヒ、又向上スル上ニ從ツテ完璧ヲ期シテ參リタイ

検査スルコトモ計ルコトガ出来ヌ、斯ウ云フヤ
力ノ方面ハ計ルコトガ出来ルガ、精神
ウナ御説明デアリマシタ、成程サウダト思
ヒマスケレドモ、私ハ其ノ精神的能力ヲ計
ル方法ガ一ツアルト云フコトヲ申上ゲテ見
タイト思ヒマス、是ハ立派ニ計レルノデアリマ
ス、大體斯ウ云フ風ナ管理醫ニ精神力マデ
検査ヤ指導ヲサセルト云フ思想ノ由ツテ生
ジテ來ル根本ヲ繹ネテ見マスト、一般ノ體
育ノ問題ヲ論ズル場合、殆ド例外ナク引用
スル言葉ハ、即チ健全ナル精神ハ健全ナル
身體ニ宿ルト云フ格言デアリマス、是ガ鎖
國封建ノ時代デ、諸外國トソ交渉ノナイト
デアレバ其ノ儘其ノ格言ヲ吾々ハ引用シテ
差支ヘナイケレドモ、今日ノ如ク外國トノ
交渉ガ頻繁デアツテ、外國カラ外國流ノ體
育法ガドンヽ直輸入サレテ實施サレル現
狀ニ於テ、健全ナル精神ガ健全ナル身體ニ
宿ルト云フ格言ヲ金科玉條視シテ考へルト
云フコトハ私ハ非常ニ危険デハナイカト思
フ、ソコデ吾々ハ其ノ人ノ持ツ所ノ精神、
其ノ人ノ抱ク思想ガ健全デアルカ、不健全
デアルカト云フコトヲ考ヘル基準ハ何カト
云フト、ソレハ即チ合國體的デアルカ、反
國體的デアルカト云フ一黠ニ歸スルコトハ
シテ健全ナル思想デハナイ、我ガ日本人ニ
言フマデモアリマセヌ、デアリマスカラ共
産主義、民主主義、個人主義、自由主義ト
云フモノハ、我ガ日本人ニ取ツテハ是ハ決
精神思想デナイ所ノ外國、其ノ外國ニ發達
シタ體育思想ガドンヽ日本ニ輸入サレテ
実施サレテ居ル、ダカラソレ等ノ體育法ニ
依ツテ鍛錬シテ如何ニ健康體ニナツテモ、
不健全ナル身體デアルカラ之ニ健全ナル精神

ガ宿ルト云フヤウニ即断スルコトハ危険デ
ハナイカト思フ、斯ウ云フ意味デ私ハ日本
國民ノ體力ノ指導向上ヲ圖ルニ付テハ、ヤ
ハリ日本民族ノ傳統的ナ歴史的長所、日
本的香リノ豊力ナ、即チ日本古來ノ武道ト
云フヤウナ體育法ヲ優先的ニ考慮實施スル
ト云フコトガ必要ダト考ヘラレルノデア
リマス、日本ニハ三千年來日本人ノ性格竝
ニ體格ニ適シタ所ノ體育法ガ澤山アル、ソ
レニモ拘ラズ外國ノ體育法ヲドンヽ取收入
レテ之ヲ實施スルト云フヤウナコトハ洵ニ
遺憾ナコトデアツテ、何カノ本ニモアリマ
シタ自家ノ無盡藏ヲ放擲シテ、鉢ヲ持シ他
家ノ門ニ立ツテ、食ヲ乞フガ如キ貧兒ノ黒
ヲ学シンデハイケナイ、山鹿素行先生モ本朝
武ヲ以テ先トナスト言ツテ居ル、私ハ何時
カノ建議委員會デ厚生當局ニ武道獎勵ヲナ
サイ、「スポーツ」ハ第二義的デハナイカト
云フ質問ヲシタ時ニ、厚生大臣ハ「スポー
ツ」ハ大イニ獎勵スルノダト云フコトヲ答
辯サレタノデアリマス、ソレハ勿論外國流
ノ體育法ヲ盛シニスルト云フコトハ結構デ
アリマス、併シナガラモノニハ自ラ先後緩
急ガアル、ソコデ私ハ此ノ西洋流ノ體育法
ト日本體育トシテノ武道、又體育ト精神訓
育トヲ一元的ニ解決スル武道等ノ獎勵ニ關
スル先後緩急ノ度ヲ、ドウ云フヤウニ厚生
大臣ハ御考ヘニナツテ居ルノデアルカ、今
育トヲ一元的ニ解決スル武道等ノ獎勵ニ關
スルナイト言ハレタノデアリマスガ、是ハ多
少我田引水カモ知レマセヌガ、外國流ノ體
育法ヲヤツテ居ル者ト、日本流ノ體育法ヲ
アリマス、ダカラ西洋流ノ體育法ト、日本

○小泉國務大臣 私ノ申上ゲ方ガ足リナカツタト見エマシテ誤解ヲ招イタカト考ヘテ居リマスノデ、此ノ點モウ一度明カニシテ置キタイト思ヒマス、健康ナ身體デアルナラバ健全ナ精神ガ必ズアルトハ決シテ思ツテ居リマセヌ、此ノ點全然御同感デアリマス、又日本精神ト云フコトハ是ハ日本人デアレバ悉クガ持タナケレバナラヌモノデアルト思ツテ居リマス、持ツテ居ル者ト固クアリマス、併シ中ニハ偶、御指摘ニリマシタヤウナ、共產主義ト云フヤウナ者モ或ル場合ニハアツタノデアリマス、ソレデ精神力ハ其ノ程度デハ分リマスガ、私共期待シテ居リマスノハ、例ヘバ只今第一線ニ行ツテ居リマス兵、是レ悉ク軍人勅諭ヲ奉ジマシテ、一死以テ國ニ殉ズルト云フ點ニ於テ誰シモ甲乙ハナイノデアリマス、ジヤウナ精神ノ旺勢サフ持ツテ居リマスガ、併シ更ニ之ヲ小分ケ致シマスト、マダギヤハリソヨニ上下ト申シマスカ、濃淡ト申シマスカ、ト云フモノガアルコトハ、戰場ニ參リマシタ者ノ等シク認メル所デアリマス、私共ハ體力ヲ最高ニト云フヤウナ目安ヲ實ハ狙ツテ居ルノデアリマス、サウ云フ國流ノ「スピード」、或ハ一時非常ニ誘ハレマシタ「フェア・プレー」ナドト云フコトト、吾々ノ試合ノ如ク、禮ニ始マリ禮ニ終ルト云フヤウナ日本武道トハ全ク違ツタモノ

ト考へテ居リマス、之ニ對スル指道ノ順序
ト云フモノハ自ラ之ニ依ツテ律セラレルト
考ヘルノデアリマス

○藤生委員 大臣ノ御言葉ニ非常ニ感謝ノ
意ヲ表シマス、私ハ此ノ際斷ツテ置カナケ
レバナラヌコトハ、私ハ決シテ「スポーツ」
ヲ無暗ニ毛嫌ヒラシテ居ルノデハナイノデ
アリマス、私モ「スポーツ」ニ對シテハ九州
ノ「オリンピック」豫選大會ニ於テ槍投、砲
丸投ナドヲヤツテ「レコード」ヲ取リマシ
タ、實際ニモヤツテ居ルシ、理論モ相當分
ツテ居ル積リデゴザイマス、隨テ私ハ食ハ
ズ嫌ヒノ「スポーツ」嫌ヒデハナイ譯デアリ
マス、勿論「スポーツ」ニモ採ルベキ所ガア
ル、飛ブトカ、跳ネルトカ云フコトハ、柔
道劍道ニハ非常ニ缺ケテ居ルカラ、「スポー
ツ」ニ依ツテラ補ハナケレバナラヌ、ソ
レハ「スポーツ」トシテ補フノデナク、武道
ヲ補フ補助技ト云フヤウナ意味デ者ヘテ居
ル次第アリマス、委員各位ニハ夜遅クマ
デ恐縮ニ存ジマスガ、モウ一寸御幸抱ヲ願
ヒマス

次ニ御尋ネ致シタイノハ文部省關係デア

リマシテ、女子ノ體育問題デアリマスガ、

吾々ハ體育問題ヲ取上げテ論ズル場合、其ノ

對象トナルモノハ青少年或ハ學生生徒、壯

丁ト云フヤウナ男バカリデアリマシテ、動

モスルト女子ト云フモノヲ對象トスルコト

ヲ忘レ勝デアリマシテ、殊ニ國家百年ノ大計ヲ樹

立スル上ニ於キマシテ、男子ノ問題ヨリモ

一層重大性ヲ持ツノデハナイカト思フノデ

アリマス、今日國民體力法ノ制定ニ依ツテ、

男子ト同ジヤウニ女子ヲ此ノ法律ノ適用ヲ

受ケテ體力ノ向上ヲ期待シ得ラレルコトハ洵

ニ慶賀スペキコト考ヘマス、併シナガラ

女子ノ體力向上ノ問題モ、男子ト同ジヤウ

ニ體力的ニ、衛生的ニバカリデナク、日本婦

道ノ昂揚、日本婦道ヲ一元的ニ解決スルヤ

ウナ體力向上問題ヲ考慮セラレナケレバナ

ラナイト考ヘルノデアリマス、曾テ西洋流

ノ體育ノ盛ンデアツク頃、「オリンピック」

ニ來タ外國人ニ對シテ、日本ノ女學生ノ間

ニ貞操問題ガ起ツタ、吾々ハ今之ヲ考ヘテ

ヒ切齒痛憤ニ堪ヘナリノデアリマスガ、是

ハ明カニ其ノ當時ノ學校當局ナリ、或ハ政

府當局ナリ、女子ニ對スル體力指導方針

ガ誤ツテ居ツタコトヲ、暴露スルニ外ナラ

テ御示シニ相成ツテ居ルモノト考ヘルノデ

アリマス、即チ女性ノ御身デアリナガラ劍

ヲ佩キ、弓ヲ携ヘ、千箭ノ矢ヲ負ウテ凜々

シイ武装ヲシテ居ラレル、此ノ姿コソ正ニ

我ガ國ハ明治ノ初年ニ徵兵令ヲ御布キニナ

ツテ、徵兵令ニ依リ國民悉クガ、階級ノ差

別ナク武士ニシテ戴イタノデアリマス、此

ノ徵兵令ノ發布ニ依ツテ、日本男子ハ悉ク

武士ニナリマシタ以上ハ、當然日本ノ女性

モ、即チ武士ノ母デアリ、武士ノ妻デアリ、

武士ノ娘デアル所ノ責任ト自覺ガナケレバ

ナラナイノデアリマス、隨テ武士道ト云フ

コトハ、男バカリガ占有スルモノノデナク、

日本婦人モ武士道ノ所有者トナラナケレバ

云フ方針ヲ持ツテ居ラレルカト云フコトヲ

文部大臣ニ御尋ネ致シタイノデアリマス、

此ノ日本婦道ノ昂揚ト日本女子體力向上ノ

問題トヨ一元的ニ解決スル爲ニドウ

云フ方針ヲ持ツテ居ラレルカト云フコトヲ

現在女學校ノ方面ニ於テ、薙刀、弓ナドガ

ム節婦烈女ノ庭訓、内助、激勵ノ功ニ俟ツ

トニナリマシテカラ、弓ニ付キマシテハ約三

百校位ノ學校ガ實施スルヤウニナツテ居リ

マス、又薙刀ニ付キマシテハ二百五十校程

度ノ學校ガ實施シツツアルノデゴザイマス

ガ、是ハ勿論十二年頃ノ數字デゴザイマス、

其ノ後非常ニ早イ「テンポ」デ普及致シツツ

アリマス、最近ノ統計ニ付キマシテハ目下

調査中デゴザイマスガ、其ノ一部ノ女子師

範學校ニ關シマシテハ、弓道ヲ實施致シテ

居リマスノガ四十六校ゴザイマス、實施シ

アツテコソ、日本婦人ノ完美ヲ見ルコトガ
出來ルノデアリマス、眞個ノ日本男子ノ鍛

成ハ此ノ婦德ニ負フ所極メテ大アルコト
ハ言フマデモアリマセヌ、然ルニ現代ノ女

マシテハ、文部省ト致シマシテモ全ク同感

デゴザイマス、女子ノ體育ニ關シマシテ、

練トシテ武道ヲ實施スルト云フコトニ付キ

マシテハ、昭和十一年ニ、女子ノ體育ニ關シマ

シテ色々研究ノ結果、女學校、女子ノ師範

學校ニ對シテ薙刀、弓道ヲ正科トシテ實施

シ得ルト云フコトニ致シタノデゴザイマ

ス、是ハ勿論出來マスレバ全學校ニ正科ト

シテ實施スベキコトニ規定致シタノデゴ

ザイマスケレドモ、或ハ指導者ノ關係、或

ハ設備等ノ關係モアリマスノデ、サウ云フ

モノガ整備致シマスレバ、正科トシテ實施

シ得ルト云フコトニ致シタノデゴザイマス、

尙ホ昨年國民學校ノ方面ニ於キマシテ

シテ實施スベキコトニ致シタノデゴザイマス、

モ、高學年ノ女子ニ付キマシテハ薙刀ヲ正

科トシテ實施シ得ルト云フコトニナツタノ

デゴザイマス、從來カラ薙刀、弓道ハ女子

ノ體育トシテ實施シツツアリマシタノデゴ

ザイマスガ、正科トシテ實施スルト云フコ

トニナリマシテカラ、弓ニ付キマシテハ約三

百校位ノ學校ガ實施スルヤウニナツテ居リ

マス、又薙刀ニ付キマシテハ二百五十校程

度ノ學校ガ實施シツツアルノデゴザイマス

ガ、是ハ勿論十二年頃ノ數字デゴザイマス、

其ノ後非常ニ早イ「テンポ」デ普及致シツツ

アリマス、最近ノ統計ニ付キマシテハ目下

調査中デゴザイマスガ、其ノ一部ノ女子師

範學校ニ關シマシテハ、弓道ヲ實施致シテ

居リマスノガ四十六校ゴザイマス、實施シ

マシテハ、文部省ト致シマシテモ全ク同感

デゴザイマス、女子ノ體育ニ關シマシテ、

練トシテ武道ヲ實施スルト云フコトニ付キ

マシテハ、昭和十一年ニ、女子ノ體育ニ關シマ

シテ色々研究ノ結果、女學校、女子ノ師範

學校ニ對シテ薙刀、弓道ヲ正科トシテ實施

シ得ルト云フコトニ致シタノデゴザイマ

ス、是ハ勿論出來マスレバ全學校ニ正科ト

シテ實施スベキコトニ規定致シタノデゴ

ザイマスケレドモ、或ハ指導者ノ關係、或

ハ設備等ノ關係モアリマスノデ、サウ云フ

モノガ整備致シマスレバ、正科トシテ實施

シ得ルト云フコトニ致シタノデゴザイマス、

尙ホ昨年國民學校ノ方面ニ於キマシテ

シテ實施スベキコトニ規定致シタノデゴザイマス、

モ、高學年ノ女子ニ付キマシテハ薙刀ヲ正

科トシテ實施シ得ルト云フコトニナツタノ

デゴザイマス、從來カラ薙刀、弓道ハ女子

ノ體育トシテ實施シツツアリマシタノデゴ

ザイマスガ、正科トシテ實施スルト云フコ

トニナリマシテカラ、弓ニ付キマシテハ約三

百校位ノ學校ガ實施スルヤウニナツテ居リ

マス、又薙刀ニ付キマシテハ二百五十校程

度ノ學校ガ實施シツツアルノデゴザイマス

ガ、是ハ勿論十二年頃ノ數字デゴザイマス、

其ノ後非常ニ早イ「テンポ」デ普及致シツツ

アリマス、最近ノ統計ニ付キマシテハ目下

調査中デゴザイマスガ、其ノ一部ノ女子師

範學校ニ關シマシテハ、弓道ヲ實施致シテ

居リマスノガ四十六校ゴザイマス、實施シ

マシテハ、文部省ト致シマシテモ全ク同感

デゴザイマス、女子ノ體育ニ關シマシテ、

練トシテ武道ヲ實施スルト云フコトニ付キ

マシテハ、昭和十一年ニ、女子ノ體育ニ關シマ

シテ色々研究ノ結果、女學校、女子ノ師範

學校ニ對シテ薙刀、弓道ヲ正科トシテ實施

シ得ルト云フコトニ致シタノデゴザイマ

ス、是ハ勿論出來マスレバ全學校ニ正科ト

シテ實施スベキコトニ規定致シタノデゴ

ザイマスケレドモ、或ハ指導者ノ關係、或

ハ設備等ノ關係モアリマスノデ、サウ云フ

モノガ整備致シマスレバ、正科トシテ實施

シ得ルト云フコトニ致シタノデゴザイマス、

尙ホ昨年國民學校ノ方面ニ於キマシテ

シテ實施スベキコトニ規定致シタノデゴザイマス、

モ、高學年ノ女子ニ付キマシテハ薙刀ヲ正

科トシテ實施シ得ルト云フコトニナツタノ

デゴザイマス、從來カラ薙刀、弓道ハ女子

ノ體育トシテ實施シツツアリマシタノデゴ

ザイマスガ、正科トシテ實施スルト云フコ

トニナリマシテカラ、弓ニ付キマシテハ約三

百校位ノ學校ガ實施スルヤウニナツテ居リ

マス、又薙刀ニ付キマシテハ二百五十校程

度ノ學校ガ實施シツツアルノデゴザイマス

ガ、是ハ勿論十二年頃ノ數字デゴザイマス、

其ノ後非常ニ早イ「テンポ」デ普及致シツツ

アリマス、最近ノ統計ニ付キマシテハ目下

調査中デゴザイマスガ、其ノ一部ノ女子師

範學校ニ關シマシテハ、弓道ヲ實施致シテ

居リマスノガ四十六校ゴザイマス、實施シ

マシテハ、文部省ト致シマシテモ全ク同感

デゴザイマス、女子ノ體育ニ關シマシテ、

練トシテ武道ヲ實施スルト云フコトニ付キ

マシテハ、昭和十一年ニ、女子ノ體育ニ關シマ

シテ色々研究ノ結果、女學校、女子ノ師範

學校ニ對シテ薙刀、弓道ヲ正科トシテ實施

シ得ルト云フコトニ致シタノデゴザイマ

ス、是ハ勿論出來マスレバ全學校ニ正科ト

シテ實施スベキコトニ規定致シタノデゴ

ザイマスケレドモ、或ハ指導者ノ關係、或

ハ設備等ノ關係モアリマスノデ、サウ云フ

モノガ整備致シマスレバ、正科トシテ實施

シ得ルト云フコトニ致シタノデゴザイマス、

尙ホ昨年國民學校ノ方面ニ於キマシテ

シテ實施スベキコトニ規定致シタノデゴザイマス、

モ、高學年ノ女子ニ付キマシテハ薙刀ヲ正

科トシテ實施シ得ルト云フコトニナツタノ

デゴザイマス、從來カラ薙刀、弓道ハ女子

ノ體育トシテ實施シツツアリマシタノデゴ

ザイマスガ、正科トシテ實施スルト云フコ

トニナリマシテカラ、弓ニ付キマシテハ約三

百校位ノ學校ガ實施スルヤウニナツテ居リ

マス、又薙刀ニ付キマシテハ二百五十校程

度ノ學校ガ實施シツツアルノデゴザイマス

ガ、是ハ勿論十二年頃ノ數字デゴザイマス、

其ノ後非常ニ早イ「テンポ」デ普及致シツツ

アリマス、最近ノ統計ニ付キマシテハ目下

調査中デゴザイマスガ、其ノ一部ノ女子師

範學校ニ關シマシテハ、弓道ヲ實施致シテ

居リマスノガ四十六校ゴザイマス、實施シ

マシテハ、文部省ト致シマシテモ全ク同感

デゴザイマス、女子ノ體育ニ關シマシテ、

練トシテ武道ヲ實施スルト云フコトニ付キ

マシテハ、昭和十一年ニ、女子ノ體育ニ關シマ

シテ色々研究ノ結果、女學校、女子ノ師範

學校ニ對シテ薙刀、弓道ヲ正科トシテ實施

シ得ルト云フコトニ致シタノデゴザイマ

ス、是ハ勿論出來マスレバ全學校ニ正科ト

シテ實施スベキコトニ規定致シタノデゴ

ザイマスケレドモ、或ハ指導者ノ關係、或

ハ設備等ノ關係モアリマスノデ、サウ云フ

モノガ整備致シマスレバ、正科トシテ實施

シ得ルト云フコトニ致シタノデゴザイマス、

尙ホ昨年國民學校ノ方面ニ於キマシテ

シテ實施スベキコトニ規定致シタノデゴザイマス、

モ、高學年ノ女子ニ付キマシテハ薙刀ヲ正

科トシテ實施シ得ルト云フコトニナツタノ

デゴザイマス、從來カラ薙刀、弓道ハ女子

ノ體育トシテ實施シツツアリマシタノデゴ

ザイマスガ、正科トシテ實施スルト云フコ

トニナリマシテカラ、弓ニ付キマシテハ約三

百校位ノ學校ガ實施スルヤウニナツテ居リ

マス、又薙刀ニ付キマシテハ二百五十校程

度ノ學校ガ實施シツツアルノデゴザイマス

ガ、是ハ勿論十二年頃ノ數字デゴザイマス、

其ノ後非常ニ早イ「テンポ」デ普及致シツツ

アリマス、最近ノ統計ニ付キマシテハ目下

調査中デゴザイマスガ、其

テ居ナイモノガ三校デゴザイマス、尙ホ報
告シテ居ナイノガ四校ゴザイマスガ、雑刀
ニ關シマシテハ四十八校ガ實施致シテ居リ
マシテ、マダ實施シテ居ナイ所ガ一校アリ
マス、尙ホ報告ヲシテ居ナイノガ四校ト云
フ程度ニナツテ居リマス、尙ホ國民學校ニ
於キマシテモ非常ニ急速ニ普及發達シツツ
アルノデアリマシテ、現在相當ノ學校ニ
テ實施サレツツアルノデアリマスガ、其ノ
數字ハ目下調査中テゴザイマシテ、今申上
ゲル段ニ至ツテ居リマセヌ

○藤生委員 今ノ御話ニ依リマシテ、弓道
モ雑刀モ女學校等ニ正科トシテ實施シ得ル
是ハモウ當然吾々モ研究シナクテモ實施シ
得ルト考ヘテ居ツタノデアリマス、唯見込
ガ付イタグケデナシニ、斯ウ云フコトハ一
ツ女子ノ體力問題解決ノ爲ニモ、日本婦道
昂揚ノ爲ニモ、成ベク早ク實施セラレンコ
トヲ要望致シテ置キマス

ソレカラ先程一寸申上ゲマシタガ、女學
校ニハドウデスカ、天照大神ノ御肖像ヲ掛
ケテアリマスカ、若シナイトスレバ、是ハ
私ハ日本ノ國體ノ如何ナルモノカヲ知ラシ
メル意味ニ於キマシテモ、又婦人ノ日本婦
道昂揚ノ爲ニモ極メテ良い教育法ニナルト
思ヒマスガ、ナケレバ是非之ヲ各學校ニハ
ツ御備ヘシテ戴キタイト思ヒマス、是ハ御
答辯ヲ戴カナクテモ宜イノデ、サウ云フコ
トヲ希望致シテ置キマス

ソレカラモウ一點文部省ニ御伺ヒ致シマ
ス、武道振興ト云フコトヲヨク言ヒマス
ガ、此ノ武道振興ノ根本の方策如何ト云フ
ヤウナコトガ、武道振興委員會ニ於テ、文
部、厚生兩大臣ノ諮詢ニ出マシテ、之ニ對シ

私ハ之ヲ極ク端的ニ其ノ根本方策如何ト云
フコトニ對シテ答へルナラバ、是ハモウ結局
ハ武道教師ノ優遇ヨリ外ニハ根本方策ハナ
ト云フコトガ、一番武道振興ニナルコトト
私ハ信ジテ疑ハヌノデアリマス、然ルニ學科
ノ教師ト武道ノ教師トノ待遇ト云モノヲ
比べテ見ルト、非常ニ開キガアルヤウニ考ヘ
ルノデアリマス、「文武ハ偏廢スペカラズ、
文ニ偏スレバ浮華、武ニ偏スレバ粗暴、文武
相俟ツテ道眞ニ興ル、文質彬々、然ル後君
子」ト云フコトヲ先哲ハ言ツテ居リマスガ、
日本ノ教育ハ此ノ文質彬々タル所ニ其ノ目
的ガナクテハナラズ譯ニアリマス、學科ノ
教師ト武道ノ教師トノ待遇ノ其ノ差、比率
ト云フヤウナコトニ對シテ極ク簡單デ宜シ
ウゴザイマス、大難把デモ宜シウゴザイマ
スカラ御説明ヲ願ヒマス

○石井説明員 御説明申上ダマス、只今ノ
武道振興ノ爲ニ武道指導者ノ待遇ヲ改善ス
ベキコトニ付キマシテハ、全ク御同感デゴ
ザイマス、現在學校ノ教員ニ關シマシテ
ハ、教員ノ資格ノ免許ガゴザイマシテ、武道
ノ教師デゴザイマシテモ、其ノ資格ノ免許ヲ
持ツテ居リマス者ハ、全然文武差別ナク取
扱ハレテ居リマス、唯資格ノナイ武道教師ニ
關シマシテハ、他ノ教師ニ關シマシテモ資
格ノナイ者ガ教ヘて居ルコトモアリマス
シ、資格ノナイ人ハソレニ比ブレバ低イノ
思ツテ居リマス、資格ノアル者ハ、實際一
般ノ學科ノ方ノ教員ト同様デゴザイマス
デゴザイマスケレドモ、他ノ學科ノ教員デ
資格ノナイ者モアリマス、サウ云フ者トゾ

比較ニ付キマシテハ詳シイ現在ノ調査ハマダ出來テ居リマスエヌガ、大體同様デアラウカト考ヘテ居リマス
○藤生委員 ドウモ只今ノ御答へト、私ガ日頃調査シテ居ルコトトハ大變違ツテ居ルヤウニ思ヒマス、併シ是ハ何レ他ノ機會ニ於テ御尋ネスルコトニ致シマシテ、要スルニ從來武道教師ノ待遇ガ他ノ學科ノ教師ノ待遇ニ比べテ非常ニ惡カツタ、其ノ爲ニ武道ガ盛ンニナルベクシテ盛ンニナラナカツタト云フヤウナコトニナツテ來タノデアリマスガ、此ノ武道教師ノ待遇ガ非常ニ惡カツタト云フコトハ、一面ニ於テ武道教師ノ素質ノ悪カツタト云フ點ニモ依ルコトデアリマスガ、一ツニハ、是ハ今日ノ政府ノ當路ニアル所ノ人々、是等ノ人々ノ間ニ武道ト云フモノガ正シク理解サレテ居ナイ、其ノ爲ニ武道ヲ非常ニ、極端ニ言ヘバ輕蔑シテ居ラレル、サウ云フ風ナ精神ガヤハリ武道教師ノ待遇上ニモ現ハレテ來タノデハナイカトト思ハザルヲ得ナイ、ト云フノハ武道振興委員會ニ於キマシテモ、其ノ諸問案ニ掲ゲラレタ所ノ武道ノ定義ノ如キモ、唯單ニ、武道トハ心身鍛錬ノ道ナリ、ト云フヤウナコトヲ書イテアル、私ハ之ヲ指摘シテ、是ハイカヌデハナイカ、兎ニ角ソレハ心身鍛錬ノ道ニハ相違ハナイケレドモ、併シ心身鍛錬ノ道ガ武道ダト云フナラバ、西洋流ノ體育法デモ、或ハ其ノ他心身鍛錬ニナル所ノモノハ悉ク武道ダト言ハナクチヤナラヌ、ソコニ色色武道ガ「スポーツ」化シタリスルヤウナコトニナツテ來ルカラ、サウ云フ風ナ解釋ハ適當ナ解釋デハナイト言ツテ、私ハ其ノ時之ヲ指摘致シタノデアリマス、然ラバ武道

ト云フモノハドウ云フモノデアルカト云コトヲ言ヘバ、時間ガ又長ク掛リマスカラ
私ハ申シマセヌガ、近代的ノ學問ヲ受ケタル所ノ政府ノオ役人サン達ハ、要スルニ武道
ト云フモノハ、アノ竹刀デ叩キ合ヒヲスル、壘ノ上デ投ゲ合ヒヲスル、アレガ武道
ノ全體ダ、斯ウ云フ風ニ考へテ居ラレルノデハナイカト私ハ思フノデス、決シテ武道ノ
ト云フモノハアノ叩キ合ヒヲスル、壘ノ上デ投ゲ合ヒヲスル、隨テアノ道場ガ武道ノ
道場ノ全體ダ、斯ウ云フ風ニ考へラレルベキモノデハナイ、斯ウ云フヤウナ信念ヲ持
ツテ居リマス、是ハ獨リ政府ノオ役人達バカリデハナク、一般世間ノ識者、指導階級
ノ人々モサウ云フ風ニ武道ト云フ、モノヲ考ヘテ居ルノデハナイカト私ハ思フ、此ノ間
大政翼賛會ノ調査會ニ於キマシテモ、國民ノ教養訓練ヲスル、國民ヲ教養訓練スル爲ニハ惟
神ノ大道ヲ闡明シナケレバナラナイ、サウニハ先づ國體ノ本義ヲ明カニシナケレバナ
ラナイ、國體ノ本義ヲ明カニスル爲ニハ惟シテ惟神ノ大道ヲ闡明スルニ付テ出席ノ各
委員、權威者ト言ハレル所ノ人々ガ澤山出テ、サウシテ高邁ナル議論ヲサレテ居ツタ
ノヲ拜聽シタガ、日本ノ惟神ノ大道、日本ノ國體ハ即チ神ニ在ルノダ、北畠親房卿カ
神皇正統記ニ「日本ハ神國ナリ」ト言ハレテ居ル、ソレハ神國ニ相違ナイ、ソレハ間違
ヒナイ、ケレドモ神國々ト、惟神ノ大道ヲ説イテ、誰一人トシテ出席者カラ武ヲ以
テ雄義ヲ現ハス云タト云フヤウナコトヲ書イテ居ル、神ダケデハ日本ノ國體ハ保チ得ナイ、山鹿

云フモノト國體ト云フモノトハ密接不可分ナモノデアルト云フコトヲ御諭シニナツテ居ル、此ノ神ト云フモノト武ト云フモノトハ切離スコトガ出來ナイ、神武ハ一體デアル、即チ日本ハ神國デアルト同時ニ武國デアル、即チ神武ノ國デアル、斯ウ云フヤウニシテ武ト云フモノヲ考ヘルト、惟神ノ大道ト相通ジテ、哲學的ニモ心理的ニモ深遠ナ教理ヲ武道ト云フモノハ持ツテ居ル、其ノ武道ヲ唯單ニ撰リ合ヒ、投ゲ合ヒヲスルモノガ武道デアルカノ如ク考ヘル、或ハ其ノ道場ガ武道ノ全體ノ道場デアルカノ如ク考ヘル人ガ多イノデス、サウ云フモノヂヤナイ、私ハ眞ノ武道ノ道場ト云フモノハ、百般ノ生活其ノモノガ眞ノ武道ノ道場デナクテハナラスト思フ、今日マデノ政治ガ低調、不活潑デアツタト云フ所以ノモノハ、今日ノ政治ニ武道性ガナカカラダト言ハナケレバナラヌ、又經濟生活ニ於テモ武道性ガナカ、官僚生活ニ於テモ武道性ハ大イニ發揚セナクテハナラナイ、然ルニ官僚生活ナドニ於テモ武道性ガ發揚セラレナイト云フ所ニ、色々統制經濟其ノ他ノコトニ依ツテ却ニナル、ダカラ總テノ生活、政治生活ハ勿論ノコト、經濟生活、文化生活總テニ於テ今日必要ナモノハ武道性ノ發揚デアルト云フコトヲ私ハ考ヘテ居ル、ダカラ此ノ武道、武道性ト云フモノニ對シテ私ハ正シイ認識ヲ、殊ニ其ノ方ニ關係シテ居ラレル文部、厚生ノ方々ニハ一層深メテ戴キタイト思フ、サウ云フ意味ニ於テ、武道振興委員會ハ出來テ居ツタ、出來テ居ツタケレドモ、ソレハ今度體力審議會ニ發展的解消シタルカ云ツテ、ナクナツチシマツタガ、要スル

ニ武道ヲ倫理的、哲學的ニ——唯獎勵ト云フヤウナコトデハナシニモツト學問的ニ研究スル大キナ機關ヲ作ツタラドウカト云フコトヲ考ヘマスガ、厚生大臣ハ之ニ對シテ何カ御意見ガゴザイマスレバ聽カセテ戴キタイト思ヒマス

○小泉國務大臣 只今武道ノ先生ハ全生活悉ク武道ノ中ニナケレバナラヌト云フ御意見ハ、全ク御同感デゴザイマス、隨ヒマシテサウ云フ意味ニ於ケル眞ノ武道ヲ盛ンナラシメルト云フコトノ爲ニハ、只今御指摘ノ研究ト云フヤウナコトモゴザイマセウシ、實踐モゴザイマセウシ、各方面ニ將來益、書處ヲシテ行キタイト存ジテ居リマスハ午前十時ヨリ開會致シマス

午後六時四十分解散

(參照)

問
一、國民醫療法中第十五條ニ
該當スルトキハ其ノ免許ヲ取消スベシ
但シ命令ヲ以テ定ムル場合ハ此ノ限ニ
在ラズ」醫師又ハ齒科醫師第六條各號
ノ一ニ該當シ又ハ醫師若ハ齒科醫師タルノ品位ヲ損スル行爲アリタルトキハ
免許ヲ取消シ又ハ期間ヲ定メテ醫業若ハ齒科醫業ヲ停止スルコトアルベシ其ノ事免許前ニ係ル場合亦同ジトアル「品位ヲ損スル行爲」トハ如何ナル意味カ、品位ノ定義ヲ明確ニセラレナケレバ醫師及齒科醫師ハ安心シテ業ニ就クコトガ出來ナイ

答
醫師及齒科醫師ハ其ノ職責及地位ノ重要ナルニ鑑ミマシテ其ノ品位ヲ保持スルコトハ極メテ必要ト考ヘラレマスノデ今回新ニ醫師又ハ齒科醫師タルノ品位ヲ損スル行爲アリタル者ニ對シ情狀ニ依リテハ主務大臣ニ於テ行政處分ヲ爲シ得ルノ途ヲ拓イタノデアリマス、而シテ如何ナル場合ニ品位ヲ損スル行爲アリタルヤ否ヤノ判定ハ具體的事例ニ於テ之ヲ認定スルノ外ハナイト

昭和十七年一月三十一日印刷

昭和十七年一月一日發行

衆議院事務局

印刷者 内閣印刷局